

SSS

社会科学部

School of
Social Sciences

2021年度
科目登録の手引き

2021年度学事日程表(社会科学部／社会科学研究科)

春学期 (春クォーター:4/5(月)～6/2(水)、夏クォーター:6/3(木)～7/21(水))

月	火	水	木	金	土
4月5日	4月6日	4月7日	4月8日	4月9日	4月10日
4月12日	4月13日	4月14日	4月15日	4月16日	4月17日
4月19日	4月20日	4月21日	4月22日	4月23日	4月24日
4月26日	4月27日	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日
5月3日	5月4日	5月5日	5月6日	5月7日	5月8日
5月10日	5月11日	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日
5月17日	5月18日	5月19日	5月20日	5月21日	5月22日
5月24日	5月25日	5月26日	5月27日	5月28日	5月29日
5月31日	6月1日	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日
6月7日	6月8日	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日
6月14日	6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日
6月21日	6月22日	6月23日	6月24日	6月25日	6月26日
6月28日	6月29日	6月30日	7月1日	7月2日	7月3日
7月5日	7月6日	7月7日	7月8日	7月9日	7月10日
7月12日	7月13日	7月14日	7月15日	7月16日	7月17日
7月19日	7月20日	7月21日	7月22日	7月23日	7月24日
7月26日	7月27日	7月28日	7月29日	7月30日	7月31日

秋学期 (秋クォーター:9/24(金)～11/20(土)、冬クォーター:11/21(日)～2/1(火))

月	火	水	木	金	土
9月20日	9月21日	9月22日	9月23日	9月24日	9月25日
9月27日	9月28日	9月29日	9月30日	10月1日	10月2日
10月4日	10月5日	10月6日	10月7日	10月8日	10月9日
10月11日	10月12日	10月13日	10月14日	10月15日	10月16日
10月18日	10月19日	10月20日	10月21日	10月22日	10月23日
10月25日	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日	10月30日
11月1日	11月2日	11月3日	11月4日	11月5日	11月6日
11月8日	11月9日	11月10日	11月11日	11月12日	11月13日
11月15日	11月16日	11月17日	11月18日	11月19日	11月20日
11月22日	11月23日	11月24日	11月25日	11月26日	11月27日
11月29日	11月30日	12月1日	12月2日	12月3日	12月4日
12月6日	12月7日	12月8日	12月9日	12月10日	12月11日
12月13日	12月14日	12月15日	12月16日	12月17日	12月18日
12月20日	12月21日	12月22日	12月23日	12月24日	12月25日
12月27日	12月28日	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日
1月3日	1月4日	1月5日	1月6日	1月7日	1月8日
1月10日	1月11日	1月12日	1月13日	1月14日	1月15日
1月17日	1月18日	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日
1月24日	1月25日	1月26日	1月27日	1月28日	1月29日
1月31日	2月1日	2月2日	2月3日	2月4日	2月5日

※「学部デー(11/8,9)」は、**社会科学部**設置科目のみ授業を実施しません。社会科学研究科や他学部等設置科目は授業を実施します。

※「修論発表(10/9,1/22)」は、**社会科学研究科**設置科目のみ授業を実施しません。社会科学部や他学部等設置科目は授業を実施します。

2021年度 社会科学部 学部暦

行事		日程	
4	月 入 学 式		4月 1日(木) 2日(金)
春 学 期	春学期授業開始 ※前半 4/5(月)~6/2(水)・後半 6/3(木)~7/21(水)		4月 5日(月)
	祝日授業日		4月 29日(木)
	春学期中間試験期間 ※週2回講義を行う特定の科目に限る	自	5月 27日(木)
		至	6月 2日(水)
	春学期教場試験期間	自	7月 15日(木)
		至	7月 21日(水)
	授業調整期間	自	7月 24日(土)
至		7月 30日(金)	
春学期授業終了		7月 30日(金)	
夏季休業期間	自	7月 31日(土)	
	至	9月 20日(月)	
9	月 卒 業 式 ・ 学 位 授 与 式		9月 18日(土)
9	月 入 学 式		9月 21日(火)
秋 学 期	秋学期授業開始 ※前半 9/24(金)~11/20(土)・後半 11/21(日)~2/1(火)		9月 24日(金)
	創立記念日(授業実施)		10月 21日(木)
	祝日授業日		11月 3日(水)
	臨時休業日		11月 5日(金)
	早稲田祭(全学授業休講)	自	11月 6日(土)
		至	11月 7日(日)
	学部デー(社会科学部設置科目のみ休講)	自	11月 8日(月)
		至	11月 9日(火)
	秋学期中間試験期間 ※週2回講義を行う特定の科目に限る	自	11月 15日(月)
		至	11月 20日(土)
	祝日授業休講日		11月 23日(火)
	冬季休業期間	自	12月 23日(木)
		至	2022年 1月 5日(水)
	秋学期教場試験期間	自	1月 19日(水)
		至	1月 25日(火)
	秋学期定期試験期間	自	1月 26日(水)
		至	1月 31日(月)
試験予備日		2月 1日(火)	
秋学期授業終了		2月 1日(火)	
春季休業期間	自	2月 2日(水)	
	至	3月 31日(木)	
3	月 卒 業 式 ・ 学 位 授 与 式		3月 25日(金) 26日(土)

2021年度 社会科学部 科目登録・成績発表日程

学期	項目	日時	申請方法 /場所	結果発表 ※Wasedaメール	備考	
春 学 期	学生証裏面シール・科目登録の手引き 配布	配付方法および日程は社会科学部HPに掲載しますので、そちらを確認してください。		-		
	教養外国語 変更	3/4(木)10:00~3/5(金)17:00	申請フォーム	-	※1	
	新2年生 英語2-2 先行登録	3/9(火)10:00~3/10(水)17:00	MyWaseda	~3/15(月)8:00	※2	
	再履修者 必修英語・教養外国語(春) 登録				※3	
	1次登録(在學生)	3/18(木)10:00~3/20(土)17:00		~4/3(土)8:00		
	1次登録(新入生)	3/29(月)10:00~3/31(水)17:00		~4/9(金)8:00		
	2次登録	4/5(月)10:00~4/6(火)17:00		~4/14(水)8:00		
	3次登録	4/9(金)10:00~4/10(土)17:00				
	聴講料納入期間	4/15(木)~4/20(火)23:59		コンビニ・ペイジー ・クレジット決済		※4
	成績発表	8/31(火)9:00			-	
学期	項目	日時		申請方法 /場所	結果発表 ※Wasedaメール	備考
秋 学 期	必修英語科目クラス変更	9/2(木)10:00~9/3(金)17:00		申請フォーム	-	※5
	再履修者 必修英語・教養外国語(秋) 登録	9/7(火)10:00~9/8(水)17:00	MyWaseda	~9/13(月)8:00	※6	
	1次登録	9/15(水)10:00~9/17(金)17:00		~9/22(水)8:00		
	2次登録	9/24(金)10:00~9/25(土)17:00		~9/29(水)8:00		
	3次登録	9/30(木)10:00~10/1(金)17:00		~10/6(水)8:00		
	聴講料納入期間	10/6(水)~10/12(火)23:59	コンビニ・ペイジー ・クレジット決済		※4	
	成績発表	2022年 3/1(火)9:00		-		

※ 新型コロナウイルス感染症の影響等により、日時・場所等が変更となる可能性があります。必ず社会科学部HPにて最新の情報を確認するようにしてください。

※ 上記期間にWeb申請、社会科学部事務所での手続きが行えない場合、代理人による登録・手続きを行ってください。詳細は事務所にご相談ください。

※1 【教養外国語の変更について】

入学時に選択した教養外国語は、在学中一度に限り、変更が可能です。ただし、変更した場合は、それまでに修得した教養外国語の単位は無効となります。詳細は、社会科学部HPの「必修外国語の変更申請手続きについて」をご参照ください。

※2 【新2年生 英語2-2 先行登録について】

新2年生は各自必ず、MyWasedaにて英語2-2(春学期)を申請してください(秋学期のクラスは、基本的には春学期と同じクラスが秋学期に自動登録されます)。

※3 【再履修者 英語・教養外国語(春学期) 再履修登録について】

新2年生以上で、必修英語もしくは教養外国語の春学期科目が不合格であった場合、再履修登録を希望する科目を各自Web申請してください。

※秋学期科目のみ不合格の場合は、秋学期の科目登録時に申請してください。

(1年次必修の英語1-2(Tutorial English)が不合格の場合、社学設置の「英語1-2(春・秋)」を不足している単位分履修する必要があります。)

!!注意!!

教養外国語の「イタリア語」・「朝鮮語」(GEC設置科目)の再履修者はWeb申請できません。社学事務所からの案内に基づいて手続きを行ってください。

※4 【聴講料納入方法について】

体育科目や教職科目、ソーシャル・リサーチなど、授業料の他に「聴講料」が必要な科目の登録が決定した場合、期間内に納入をしてください。

納入方法は、コンビニ・ペイジー・クレジットカードからご自身で選択できます。

※5 【必修英語科目クラス変更について】

自動登録された必修英語科目(1-1,2-1)のクラス変更を受け付けます。

クラス変更の対象者を含む詳細については、秋学期開始前に社会科学部HPに掲載される「必修英語科目のクラス変更について」をご参照ください。

※6 【再履修者 英語・教養外国語(秋学期) 再履修登録について】

新2年生以上で、必修英語もしくは教養外国語の秋学期科目が不合格であった場合、再履修登録を希望する科目を各自Web申請してください。

CLOSE-UP 2021

▶ 2021 年度入学者より「初年次教育」及び「コア科目」に「統計リテラシー」が加わります。

2021 年度入学者より「初年次教育」に「統計リテラシー」が加えられ、1 年次の春学期に「ラーニング・コミュニティ」、「学術的文章の作成」に加えて「統計リテラシーα」、「統計リテラシーβ」の計 4 科目を履修することになります。また、「コア科目」に「統計リテラシーγ」、「統計リテラシーδ」の 2 科目が加わります。それに伴い、卒業要件も 2021 年度入学者とそれ以前の入学者で大きく異なりますのでご注意ください。

⇒ 卒業要件の詳細に関しては以下のページをそれぞれご確認ください。

2021 年度以降入学者・・・P. 1, 2

2019 年度、2020 年度入学者・・・P. 3, 4

2018 年度以前入学者・・・P. 5, 6

▶ 2021 年度は必修英語科目（英語 1-1,2-1）の受講形態を「対面」又は「オンライン」から選択することが出来ます。

2021 年度はコロナウィルス感染拡大の影響を受け、基礎疾患や国外にいる等で大学に登校することが難しい学生を対象にオンラインクラスを開講します。新入生、在学生にはそれぞれ受講形態の希望を確認し、回答に応じて必修英語科目を自動登録しますので科目登録の手引きをよく読んで手続きを進めてください。

⇒ 必修英語科目登録の詳細に関しては P.34 をご確認ください。

▶ 2021 年度よりアカデミックカテゴリーが新設されます。

社会科学部における履修計画の指針の一つであるアカデミックカテゴリー（特定テーマ研究）に 2021 年度より以下のカテゴリーが新設されます。

・社会学

⇒ 内容及び修了要件の詳細に関しては P.20 をご確認ください。

2021年度 科目登録の手引き

—目次—

I. カリキュラム

(1) 卒業要件	P. 1
1-1 2021年度以降入学者	P. 1
1-2 2019年度・2020年度入学者	P. 3
1-3 2018年度以前入学者	P. 5
(2) 分野紹介	P. 7
(3) 履修計画の指針	P. 9
3-1 「アカデミックカテゴリー（特定テーマ研究）」とは	P. 9
3-2 各ゼミナールにおいて履修が望まれる科目	P. 32
(4) 社会科学部以外で履修できる科目	P. 33

II. 科目登録の手続き

(1) 科目登録手続きのながれ	P. 34
(2) 主なルール・注意点	P. 41
2-1 単位の種類（算入区分）	P. 42
2-2 登録制限単位数・算入上限単位数	P. 43
2-3 社会科学部以外で履修した科目の単位算入部門	P. 44
2-4 科目名のルールと履修方法	P. 45
2-5 履修条件の例外科目一覧	P. 46
2-6 定員と抽選	P. 47
2-7 決定した科目の取り消し・算入区分変更	P. 48
2-8 申請情報・登録結果の確認	P. 49
2-9 聴講料（実験実習料）納入	P. 50
(3) WEB 科目登録利用マニュアル	P. 52
(4) よくある質問集	P. 62

III. 資格

(1) 教員免許状	P. 64
1-1 新課程適用者（2019年度以降入学者）	P. 65
1-2 旧課程適用者（2018年度以前入学者）	P. 70
(2) その他の資格	P. 75

IV. 学科目配当表 P. 76

付録

オフィスアワー	P. 89
---------	-------

I. カリキュラム

1. 卒業要件

社会科学部では「社会科学基礎教育課程（主として1・2年次）」と「学際・複合教育課程（主として3・4年次）」の「2階建て構造」の下に、各部門・分野が設置されており、下表のとおり卒業までに所定の124単位を修得する必要があります。

入学年度により卒業に必要な科目と単位数が異なります。必ずご自身の入学年度に対応したページを参照してください。

1-1. 2021年度以降入学者

課程	科目部門 ^{※1}	科目分野	所定単位数		
社会科学基礎教育課程	①初年次教育	ラーニング・コミュニティ	1単位	4単位	
		学術的文章の作成	1単位		
		統計リテラシー	2単位		
	必修外国語	②必修英語	英語1	4単位	8単位
			英語2	4単位	
		③教養外国語	ドイツ語	4単位	
			フランス語		
			中国語		
			スペイン語		
			イタリア語		
	④選択外国語 ^{※2}	0~8単位			
	⑤コア科目	共通入門群	14~20単位 ^{※3}		
		専門入門群			
	⑥基盤専門科目	社会科学総合分野	34~50単位		
人文科学分野					
自然科学分野					
政治学分野					
法学分野					
経済学分野					
商学分野					
情報科学分野					
専門英語					
グローバルラーニング					
⑦ゼミナール ^{※4}	ゼミナールⅠ	0~2単位			
	ゼミナールⅡ・Ⅲ	0~8単位			
学際・複合教育課程	⑧先進専門科目	社会科学総合分野	36~44単位		
		人文科学分野			
		自然科学分野			
		政治学分野			
		法学分野			
		経済学分野			
		商学分野			
		情報科学分野			
		社会科学特講			
	外国書研究				
⑨社会科学総合研究					
卒業必要単位数の合計			124単位		

※1. 卒業必要単位数は、科目部門毎に定められた所定の単位数に達するように科目を履修し、単位を修得することで満たされます。

※2. 「選択外国語科目」の履修は、卒業のための要件ではありません。希望者が履修し修得した単位は「社会科学部基礎教育課程」の卒業必要単位として「8単位」まで算入することができます。

※3. コア科目は、卒業までに「14単位以上」の修得が必須となり、「20単位まで」社会科学基礎教育課程の卒業単位に算入することができます。

※4. ゼミナールの履修は卒業のための要件ではありません。希望者が履修し修得した単位は、卒業単位に算入されます。ゼミナールⅠは社会科学基礎教育課程として「2単位まで」算入されます。また、ゼミナールⅡ・Ⅲは学際・複合教育課程として、「8単位まで」算入されます。したがって、ゼミナールは卒業単位として、「合計10単位まで」算入されます。

社会科学基礎教育課程（卒業必要単位数：80単位）

① 初年次教育

2021年度以降入学者の初年次教育は、「ラーニング・コミュニティ」とグローバルエデュケーションセンター設置の「学術的文章の作成」、「統計リテラシーα」、「統計リテラシーβ」で構成され、**各1単位、合計4単位**を履修します。1年次の春学期に全ての科目を履修する必要がありますが、「ラーニング・コミュニティ」と「学術的文章の作成」のどちらを先に履修するかは学生によって異なります。また、「統計リテラシーα」は春クォーターに、「統計リテラシーβ」は夏クォーターにセットで登録されます。なお、初年次教育の科目が不合格だった場合は、それぞれ秋学期に再履修する必要があります。

② 必修英語

英語は入学時の WeTEC 受験結果により、習熟度別クラスに分かれて履修します。

1年次に英語1-1（春学期／秋学期）各1単位、英語1-2（Tutorial English）2単位、2年次に英語2-1（春学期／秋学期）各1単位、英語2-2（春学期／秋学期）各1単位、在学中**合計8単位**の修得が必要です。

※入学時の WeTEC が高得点だった者は、英語1-1、英語2-1、英語2-2ではなく、代替科目を履修します（P.34 参照）。

対象者には社会科学部事務所から個別に連絡します。

※1・2年次に修得できなかった科目があった場合、卒業までに修得する必要があります。

③ 教養外国語

教養外国語は、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・イタリア語・朝鮮語・日本語（外国学生※のみ選択可）より1言語選択し、1年次の春学期に“〇〇語1・2基礎”各1単位、秋学期に“〇〇語1・2初級”各1単位、**合計4単位**の修得が必要です。

※外国学生とは、外国学生入試制度、海外指定校推薦入試制度および外国人留学生特別選考制度より入学した学生です。

※イタリア語・朝鮮語・日本語は社会科学部設置科目ではないため、“基礎・初級”ではありません。必要単位数は同じ合計4単位です。

※1年次に修得できなかった科目があった場合、卒業までに修得する必要があります。

④ 選択外国語

教養外国語として選択しなかった言語及び教養外国語として選択した言語の準中級・中級クラスを選択外国語として履修することが可能です。**卒業のための要件ではありません**が、年間4単位・卒業まで8単位を上限として卒業算入単位とすることができます。

⑤ コア科目

コア科目は、社会科学部カリキュラムの基礎にあたる科目で、1・2年次に履修が望まれます。どの学問領域にも共通する基本的知識を身につけるとともに、それぞれの学問領域における基本的概念や専門用語についての知識を習得します。分析の技法や手法を中心に据えた「共通入門群」と、専門用語の解説や必須の概念・理論を中心に組み立てた「専門入門群」があり、あわせて**最低14単位**、最大20単位の履修が必要です。

⑥ 基盤専門科目

基盤専門科目は、主に1・2年次に履修します。専門科目の中でも基礎性が高く、専門的内容のエッセンスを1・2年次のうちに学び終えることを理想とする、社会科学基礎教育課程の中心科目です。社会科学総合・人文科学・自然科学・政治学・法学・経済学・商学・情報科学・専門英語・グローバルラーニングの10分野があります。

⑦ ゼミナール

ゼミナールは、社会科学部の基本理念のひとつである「問題発見・解決のできる学生の育成」をより具体的に推し進めるため、少人数教育の充実を目指した演習授業です。**卒業のための要件ではありません**が、修得した単位は、ゼミナール I は社会科学基礎教育課程、ゼミナール II/III は学際・複合教育課程の単位として算入されます。ゼミナールの各クラスは、2年半にわたって一貫したテーマにより実施されます。

ゼミナール登録は、担当教員による選考で決定し、合格したゼミナールが自動登録されます。

※ゼミナール II および III は、II・III の履修者が合同で科目を受講します。

学際・複合教育課程（卒業必要単位数：44単位）

⑧ 先進専門科目

先進専門科目は、学際・複合教育課程に算入される科目で、主に3・4年次に履修します。新しい領域、学際性、専門性の高い科目が設置されている、学際・複合教育課程の中心科目です。社会科学総合・人文科学・自然科学・政治学・法学・経済学・商学・情報科学・社会科学特講・外国書研究の10分野があります。

⑨ 社会科学総合研究

社会科学総合研究は、「学際」の概念を推進し、最新の社会動向とそれらの抱える諸問題を総合的に分析、解決の糸口を探り出そうとする科目です。現代社会が直面しているテーマについて、専門分野を異にする教員が交替で担当し、多角的な切り口から問題を分析し講義する科目であり、本学部の標榜する社会科学の総合化・学際化を具現化する科目となっています。卒業のための要件ではありませんが、修得した単位は学際・複合教育課程の単位として算入されます。

1-2. 2019年度・2020年度入学者

課程	科目部門※1	科目分野	所定単位数				
			【1年次入学】		【学士入学】		
社会科学基礎教育課程	①初年次教育	ラーニング・コミュニティ	1単位	2単位	80単位	—	
		学術的文章の作成	1単位				
	必修外国語	②必修英語	英語1	4単位			8単位
			英語2	4単位			
		③教養外国語	ドイツ語	4単位			
			フランス語				
			中国語				
			スペイン語				
	イタリア語						
	朝鮮語						
	日本語						
	④選択外国語※2		0~8単位				0~8単位
	⑤コア科目	共通入門群	16~20単位※3				0~12単位
専門入門群							
⑥基盤専門科目	社会科学総合分野	36~50単位		10~32単位	32単位		
	人文科学分野						
	自然科学分野						
	政治学分野						
	法学分野						
	経済学分野						
	商学分野						
	情報科学分野						
	社会科学特講						
	専門英語						
	グローバルラーニング						
⑦ゼミナール※4	ゼミナールⅠ	0~2単位		0~2単位			
	ゼミナールⅡ・Ⅲ	0~8単位		0~8単位			
⑧先進専門科目	社会科学総合分野	36~44単位		44単位	36~44単位	44単位	
	人文科学分野						
	自然科学分野						
	政治学分野						
	法学分野						
	経済学分野						
	商学分野						
	情報科学分野						
	社会科学特講						
	外国書研究						
⑨社会科学総合研究							
卒業必要単位数の合計			124単位		76単位		

- ※1. 卒業必要単位数は、科目部門毎に定められた所定の単位数に達するように科目を履修し、単位を修得することで満たされます。
- ※2. 「選択外国語科目」の履修は、卒業のための要件ではありません。希望者が履修し修得した単位は「社会科学部基礎教育課程」の卒業必要単位として「8単位」まで算入することができます。
- ※3. コア科目は、卒業までに「16単位以上」の修得が必須となり、「20単位まで」社会科学基礎教育課程の卒業単位数に算入することができます。
- ※4. ゼミナールの履修は卒業のための要件ではありません。希望者が履修し修得した単位は、卒業単位数に算入されます。ゼミナールⅠは社会科学基礎教育課程として「2単位まで」算入されます。また、ゼミナールⅡ・Ⅲは学際・複合教育課程として、「8単位まで」算入されます。したがって、ゼミナールは卒業単位として、「合計10単位まで」算入されます。
- ※ 「学士入学者」は、2年以上在学し、所定の科目を「76単位以上」修得しなければなりません。

I カリキュラム

社会科学基礎教育課程（卒業必要単位数：80単位）

① 初年次教育

2019・2020 年度入学者の初年次教育は、「ラーニング・コミュニティ」とグローバルエデュケーションセンター設置の「学術的文章の作成」から構成され、**各1単位、合計2単位**を履修します。

※1年次の春学期にどちらの科目も履修する必要がありますが、どちらを先に履修するかは学生によって異なります。春クォーターに「ラーニング・コミュニティ」が登録された学生は夏クォーターに「学術的文章の作成」が登録され、春クォーターに「学術的文章の作成」が登録された学生は夏クォーターに「ラーニング・コミュニティ」が登録されます。また、初年次教育の科目が不合格だった場合は、それぞれ秋学期に再履修する必要があります。

② 必修英語

英語は入学時の WeTEC 受験結果により、習熟度別クラスに分かれて履修します。

1年次に英語1-1（春学期／秋学期）各1単位、英語1-2（General Tutorial English）2単位、2年次に英語2-1（春学期／秋学期）各1単位、英語2-2（春学期／秋学期）各1単位、在学中**合計8単位**の修得が必要です。

※入学時の WeTEC が高得点だった者は、英語1-1、英語2-1、英語2-2ではなく、代替科目を履修します（P.34 参照）。

対象者は個別に連絡します。

※1・2年次に修得できなかった科目があった場合、卒業までに修得する必要があります。

③ 教養外国語

教養外国語は、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・イタリア語・朝鮮語・日本語（外国学生※のみ選択可）より1言語選択し、1年次の春学期に“〇〇語1・2基礎”各1単位、秋学期に“〇〇語1・2初級”各1単位、**合計4単位**の修得が必要です。

※外国学生とは、外国学生入試制度、海外指定校推薦入試制度および外国人留学生特別選考制度より入学した学生です。

※イタリア語・朝鮮語・日本語は社会科学部設置科目ではないため、“基礎・初級”ではありません。必要単位数は同じ合計4単位です。

※1年次に修得できなかった科目があった場合、卒業までに修得する必要があります。

④ 選択外国語

教養外国語として選択しなかった言語及び教養外国語として選択した言語の準中級・中級クラスを選択外国語として履修することが可能です。**卒業のための要件ではありません**が、年間4単位・卒業まで8単位を上限として卒業算入単位とすることができます。

⑤ コア科目

コア科目は、社会科学部カリキュラムの基礎にあたる科目で、1・2年次に履修が望まれます。どの学問領域にも共通する基本的知識を身につけるとともに、それぞれの学問領域における基本的概念や専門用語についての知識を習得します。分析の技法や手法を中心に据えた「共通入門群」と、専門用語の解説や必須の概念・理論を中心に組み立てた「専門入門群」があり、あわせて**最低16単位**、最大20単位の履修が必要です。

⑥ 基盤専門科目

基盤専門科目は、主に1・2年次に履修します。専門科目の中でも基礎性が高く、専門的内容のエッセンスを1・2年次のうちに学び終えることを理想とする、社会科学基礎教育課程の中心科目です。社会科学総合・人文科学・自然科学・政治学・法学・経済学・商学・情報科学・社会科学特講・専門英語・グローバルラーニングの11分野があります。

⑦ ゼミナール

ゼミナールは、社会科学部の基本理念のひとつである「問題発見・解決のできる学生の育成」をより具体的に推し進めるため、少人数教育の充実を目指した演習授業です。**卒業のための要件ではありません**が、修得した単位は、ゼミナール I は社会科学基礎教育課程、ゼミナール II/III は学際・複合教育課程の単位として算入されます。ゼミナールの各クラスは、2年半にわたって一貫したテーマにより実施されます。ゼミナール登録は、担当教員による選考で決定し、合格したゼミナールが自動登録されます。

※ゼミナール II および III は、II・III の履修者が合同で科目を受講します。

学際・複合教育課程（卒業必要単位数：44単位）

⑧ 先進専門科目

先進専門科目は、学際・複合教育課程に算入される科目で、主に3・4年次に履修します。新しい領域、学際性、専門性の高い科目が設置されている、学際・複合教育課程の中心科目です。社会科学総合・人文科学・自然科学・政治学・法学・経済学・商学・情報科学・社会科学特講・外国書研究の10分野があります。

⑨ 社会科学総合研究

社会科学総合研究は、「学際」の概念を推進し、最新の社会動向とそれらの抱える諸問題を総合的に分析、解決の糸口を探り出そうとする科目です。現代社会が直面しているテーマについて、専門分野を異にする教員が交替で担当し、多角的な切り口から問題を分析し講義する科目であり、本学部の標榜する社会科学の総合化・学際化を具現化する科目となっています。卒業のための要件ではありませんが、修得した単位は学際・複合教育課程の単位として算入されます。

1-3. 2018年度以前入学者

課程	科目部門※1		科目分野	所定単位数				
				【1年次入学、3年次編入学】		【学士入学】		
社会科学基礎教育課程	必修外国語	①必修英語	英語 1	4 単位	8 単位	—		
			英語 2	4 単位				
		②教養外国語	ドイツ語	4 単位	80 単位			
			フランス語					
			中国語					
			スペイン語					
			イタリア語					
	朝鮮語							
	日本語							
	③選択外国語※2		0~8 単位		0~8 単位			
④コア科目	共通入門群	16~20 単位※3		0~12 単位				
	専門入門群							
⑤基盤専門科目	社会科学総合分野		38~52 単位 (2012年度以前、2018年度入学者) 36~52 単位 (2013~2017年度入学者)	10~32 単位	32 単位			
	人文科学分野							
	自然科学分野							
	政治学分野							
	法学分野							
	経済学分野							
	商学分野							
	情報科学分野							
	社会科学特講 (社会科学特殊講義)							
	初年次教育							
	専門英語							
グローバルラーニング								
⑥ゼミナール※4	ゼミナール I		0~2 (2012年度以前,2018年度入学者)	0~2 単位				
	ゼミナール II・III		0~4 (2013~2017年度入学者)					
学際・複合教育課程	⑦先進専門科目	社会科学総合分野		36~44 単位	44 単位	36~44 単位	44 単位	
		人文科学分野						
		自然科学分野						
		政治学分野						
		法学分野						
		経済学分野						
		商学分野						
		情報科学分野						
		先進社会科学特殊講義						
	外国書研究							
⑧社会科学総合研究								
卒業必要単位数の合計				124 単位		76 単位		

- ※1. 卒業必要単位数は、科目部門毎に定められた所定の単位数に達するように科目を履修し、単位を修得することで満たされます。
- ※2. 「選択外国語科目」の履修は、卒業のための要件ではありません。希望者が履修し修得した単位は「社会科学部基礎教育課程」の卒業必要単位として「8 単位」まで算入することができます。
- ※3. コア科目は、卒業までに「16 単位以上」の修得が必須となり、「20 単位まで」社会科学基礎教育課程の卒業単位数に算入することができます。
- ※4. ゼミナールの履修は卒業のための要件ではありません。希望者が履修し修得した単位は、卒業単位数に算入されます。ゼミナール I は社会科学基礎教育課程として、2012 年度以前入学者および 2018 年度入学者は「2 単位まで」、2013~2017 年度入学者は「4 単位まで」算入されます。また、ゼミナール II・III は入学年度に関わらず学際・複合教育課程として、「8 単位まで」算入されます。したがって、ゼミナールは卒業単位として、2012 年度以前入学者および 2018 年度入学者は「合計 10 単位まで」、2013~2017 年度入学者は「合計 12 単位まで」算入されます。
- ※ 「学士入学者」は、2 年以上在学し、所定の科目を「76 単位以上」修得しなければなりません。
- ※ 「3 年次編入学者」(転部者、3 年編入学者、外国学生編入学者) は、2 年以上在学し、1 年入学者と同様の所定単位数から、出身教育機関における修得単位のうち、本学部編入学時に認定を受けた各科目部門の単位数を減じた、残り単位数を修得することで卒業要件を満たします。

社会科学基礎教育課程（卒業必要単位数：80単位）

① 必修英語

英語は入学時の WeTEC 受験結果により、習熟度別クラスに分かれて履修します。

1年次に英語1-1（春学期/秋学期）各1単位、英語1-2（General Tutorial English）2単位、2年次に英語2-1（春学期/秋学期）各1単位、英語2-2（春学期/秋学期）各1単位、在学中合計8単位の修得が必要です。

※2016年度以降入学者で、入学時の WeTEC が高得点だった者は、英語1-1、英語2-1、英語2-2ではなく、代替科目を履修します（P.34 参照）。対象者は個別に連絡します。

※1・2年次に修得できなかった科目があった場合、卒業までに修得する必要があります。

② 教養外国語

教養外国語は、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・イタリア語・朝鮮語・日本語（外国学生※のみ選択可）より1言語選択し、1年次の春学期に“〇〇語1・2基礎”各1単位、秋学期に“〇〇語1・2初級”各1単位、合計4単位の修得が必要です。

※外国学生とは、外国学生入試制度、海外指定校推薦入試制度および外国人留学生特別選考制度より入学した学生です。

※イタリア語・朝鮮語・日本語は社会科学部設置科目ではないため、“基礎・初級”ではありません。必要単位数は同じ合計4単位です。

※1年次に修得できなかった科目があった場合、卒業までに修得する必要があります。

③ 選択外国語

教養外国語として選択しなかった言語及び教養外国語として選択した言語の準中級・中級クラスを選択外国語として履修することが可能です。卒業のための要件ではありませんが、年間4単位・卒業まで8単位を上限として卒業算入単位とすることができます。

④ コア科目

コア科目は、社会科学部カリキュラムの基礎にあたる科目で、1・2年次に履修が望まれます。どの学問領域にも共通する基本的知識を身につけるとともに、それぞれの学問領域における基本的概念や専門用語についての知識を習得します。分析の技法や手法を中心に据えた「共通入門群」と、専門用語の解説や必須の概念・理論を中心に組み立てた「専門入門群」があり、あわせて最低16単位、最大20単位の履修が必要です。

⑤ 基盤専門科目

基盤専門科目は、主に1・2年次に履修します。専門科目の中でも基礎性が高く、専門的内容のエッセンスを1・2年次のうちに学び終えることを理想とする、社会科学基礎教育課程の中心科目です。社会科学総合・人文科学・自然科学・政治学・法学・経済学・商学・情報科学・社会科学特講・専門英語・初年次教育・グローバルラーニングの12分野があります。

⑥ ゼミナール

ゼミナールは、社会科学部の基本理念のひとつである「問題発見・解決のできる学生の育成」をより具体的に推し進めるため、少人数教育の充実を目指した演習授業です。卒業のための要件ではありませんが、修得した単位は、ゼミナール I は社会科学基礎教育課程、ゼミナール II/III は学際・複合教育課程の単位として算入されます。ゼミナールの各クラスは、3年間（2012年以前の入学者および2018年度以降入学者は2年半）にわたって一貫したテーマにより実施されます。ゼミナール登録は、担当教員による選考で決定し、合格したゼミナールは自動登録されます。

※2012年度以前入学者および2018年度以降入学者はゼミナール I（春学期）を卒業単位として算入できません。

※ゼミナール II および III は、II・III の履修者が合同で科目を受講します。

学際・複合教育課程（卒業必要単位数：44単位）

⑦ 先進専門科目

先進専門科目は、学際・複合教育課程に算入される科目で、主に3・4年次に履修します。新しい領域、学際性、専門性の高い科目が設置されている、学際・複合教育課程の中心科目です。社会科学総合・人文科学・自然科学・政治学・法学・経済学・商学・情報科学・先進社会科学特殊講義・外国書研究の10分野があります。

⑧ 社会科学総合研究

社会科学総合研究は、「学際」の概念を推進し、最新の社会動向とそれらの抱える諸問題を総合的に分析、解決の糸口を探り出そうとする科目です。現代社会が直面しているテーマについて、専門分野を異にする教員が交替で担当し、多角的な切り口から問題を分析し講義する科目であり、本学部の標榜する社会科学の総合化・学際化を具現化する科目となっています。卒業のための要件ではありませんが、修得した単位は学際・複合教育課程の単位として算入されます。

2. 分野紹介

社会科学部は、社会で起こる諸現象を、社会科学の専門諸分野の壁を越えた学際的・総合的視点から、分析、解明して、解決策を考えることを創設以来目指してきた学部です。もちろん、自然科学、人文科学の専門知識も動員します。以下のような科目群や分野があります。将来の目的に沿って上手に組み合わせて選択、履修してください。

社会科学総合分野

社会科学部（通称「社会学」）は、創設以来、社会・人文・自然科学の「総合」を教育理念としている学部です。現実社会が直面する複雑で錯綜した諸課題が、益々、総合的なもの見方とソリューションを要請しているからです。正しく問いを立てなければ、正しい解は導かれません。

社会科学総合分野は、社会学の中で専門分野の縦割りではなく「総合・学際的な科目」を旗印に、福祉、健康と人権、ジェンダー、地域研究、環境、人口、移民、仕事、小集団、地域市民社会、社会学、社会調査、商業史、経済社会思想史、社会科学方法論、文化人類学、メディア論、法制史、バイオエシックス、公共政策など、テーマ・課題を柱として開講しています。

無論、はじめから「総合」できる訳ではありませんが、まず、総合分野の「入門」や「基礎」の科目から履修をし、その間に、自分が格闘すべきテーマ・課題を見つけて、どんな科目がその課題の解明と解決に役立つか、の順で考えて履修していきます。その際、ゼミでの学びが大いに役立つ筈です。

在学中に「総合」を志向・思考せずして、社会学を語るなかれ。そうでなければ、他学部の専門科目で事足ります。そして、正しい問いに出会えば、解けたも同然です。

人文科学分野・自然科学分野

学問は大きく人文・社会・自然科学に分けられます。社会科学の多くが、近代とともに発展したのとは対照的に、人文科学や自然科学の歴史は古く、中には文明の始まりにまでさかのぼる分野もあります。また、社会科学が主に人間を集団として考察するのに対して、哲学、文学、心理学のように個人の内面へと向かう視点もあります。人文・自然科学は、社会科学の礎となった学問領域であり、社会科学とは少し違った視点から社会や人間を研究します。

哲学、文学、歴史学のほかに、漢字文化圏の研究、文化論、コミュニケーション論に関する研究、音楽を中心とした「芸術論」、遺伝子レベルから人間をみる「生命科学」、科学の歴史、生物の世界と環境のかかわりを分析する「生態学」、都市計画やまちづくりなど、皆さんの知的好奇心をかき立てる講義が、多数用意されています。これらは、大学生としての幅広い教養を涵養し、新しいアイデアやユニークな着眼点を生む知識の源になります。

政治学分野

政治現象は、地方・国家・国家間・地域・地球規模などさまざまなレベルで展開されます。これを比較・モデル・統計・法政策・歴史・哲学などの手法と視野から分析するのが政治学です。

コア科目の「政治学入門」や「政治分析の基礎」はその概要と思考様式の基礎を紹介し、基盤専門科目の「政治学原論」はそれらをより専門的に扱います。また、コア科目の「国際関係論入門」は、理論とフィールドの両面から、紛争・暴力や共同・統合の問題について学ぶための基礎を提供し、「平和学」や「平和構築論」、「国際関係論」などの基盤・先進専門諸科目では、それらの諸問題についてより深く発展的に扱います。

さらに、政治的意思決定の形成を分析する「政治過程論」や「立法過程論」、法政策の運用に注目する「行政学」、各国統治制度を比較の視点も交えて講ずる「現代政治制度論」、地域ごとの研究を反映した「比較政治学」「現代政治分析」、政治理論や理念の歴史を扱う「政治学史」、情報と政治行動のダイナミクスを見る「情報政治論」「政治行動論」などの基盤・先進専門諸科目があります。

法学分野

法学は、法律や判例等を通じて制度化されている社会規範である法について学ぶ学問分野です。社会科学部の学生として社会科学を学ぶにあたって、制度の何たるかについての理解は不可欠です。市民間の紛争の解決の基準となる民事法の本質を学ぶ科目として「私法入門(市民と法)」がコア科目として用意されています。国家と市民との関係の基礎については、コア科目「公法入門(国家と法)」で学びます。民事法の中でも基本的な法律である民法と会社法にかかわる科目、政府のあり方と国民の人権保障について定める憲法にかかわる科目、犯罪とその処罰について定める刑法にかかわる科目を受講すれば、法学を専門的に学ぶための基盤を築くことができます。行政法や労働法を学ぶと世の中の仕組みがよく理解できるようになります。環境法、医事法、国際経済法のように、法学以外の分野との関連性が強い科目では、学際的な研究に触れることもできるでしょう。

法学分野の学習に関しては、アカデミックカテゴリー「リーガルマインド—法的なものの考え方と議論の技法」の履修ガイドも参考になりますので、参照することをおすすめします。

経済学分野

モノやお金の取引は人類が長い歴史の中で培って来た規則にしたがっています。その規則は誰かが設計したものではなく、言語における文法のように出来上がったものです。言葉は日常的に用いられていますが、改めてその規則性を問い直そうとすると思った以上に複雑かつ精妙です。

経済活動を支配する法則も同様です。不便だから、不合理だからといって文法の一部を変更すると言語そのものが混乱してしまうのと同じように経済の仕組みを人為的に変化させると社会は機能しなくなることもしばしばです。この意味で経済学は言語学に似ていますし、一度手を加えるとなかなか元に戻らないという意味では生態学にも似ています。経済の営みの背後にある人々の深い結びつきを探究するのがミクロ経済学とゲーム理論です。具体的な統計データを使って経済全体の動きを分析するのがマクロ経済学です。これらをもとに経済の仕組みの中で何が基本で何を変えてはいけないのかを明らかにするのが経済学です。

貧困、暴力など、さまざまな問題が山積していますが、何かを変えると、また別の問題が発生します。

複数の理想が同時に達成できないことを示す不可能性定理も、たくさん存在しています。どうしても何かを変えたいなら事前のテストも必要です。そのために最近では実験経済学が発展しています。

理想を語るのではなく何ができて何ができないかを冷静に見極める視点を養うことが大切です。そうした大人の教養を身につけることを目指して経済学を勉強してください。

商学分野

企業の経営資源に「人」「物・サービス」「資金」「情報」があります。商学系列の科目を履修することで、これら経営資源を有効に活用し、高い生産性と企業価値の向上を達成するためのマネジメントについて理論的・実証的に学んでいくことができます。商学系列では「経営学入門」、「マーケティング入門」、「会計学入門」をコア科目として設置しています。「経営学入門」では、企業の活動や、経営の仕組みについて基礎概念を取得することを目的としています。「マーケティング入門」では、商品やサービスなどの消費者との接点の諸相について、事例を踏まえて学んでゆきます。「会計学入門」では企業の財務状況や経営成績を分析する方法について学びます。

経営について、より専門的には「経営学」で学ぶことができます。また、現代企業に必須とされる科学的方法論のスキルは「経営科学」によって得られます。上述の経営資源に対応する固有領域は「経営組織論」「流通論」「国際貿易論」「管理会計」「外部報告会計論」「企業財務論」「情報科学論」に対応していますので、各分野における専門知識を習得することができます。いずれも経営のプロフェッショナルとして必須の内容です。

商学は金融・証券・保険・貿易など、様々な場面における取引がその対象領域とされていますが、本学部では経営に係わる広範な学問領域を学ぶことができます。

情報科学分野

情報科学分野の科目は、主として1、2年生を対象とした社会科学基礎教育課程と高学年を対象とした学際・複合教育課程の科目があります。前者は社会科学諸分野に共通するコンピュータアプリケーションソフトウェアの扱い方やインターネットの活用法を学びながら、社会科学に関わるデータの収集、処理、加工、蓄積、表現の基本的方法を、実習を通して学んでゆく科目です。その中で、簡単なプログラムを作成することも含まれています。後者は、社会科学それぞれの分野固有の問題を情報科学的立場からシステムとして複合的に解析すること、問題解決を目指した情報システムのデザイン、テキスト・画像・音声を総合的に融合し、表現するマルチメディアデータの処理を学んでゆく科目があります。

これらの科目を社会科学科目と併行して履修することにより、学んだことがらをより広く、深く理解し、更にその内容を多様な方法で表現することを体得することが出来ます。

3. 履修計画の指針

年間の登録制限単位数は 40 単位（半期 24 単位）です。（P.43 参照）

科目登録の第 1 ステップである新入生必修科目登録では、1 年次の時間割の一部が決まり、それらの登録で春学期・秋学期の 20 単位前後が登録されます。続いて、第 2 ステップの 1 次登録が始まり、自身で春学期の時間割を完成させることとなります。ご自身の目的に沿った科目履修の計画を立ててください。

社会科学部には、社会科学を総合的に学ぶ社会科学総合と、政治学、経済学、法学、商学、人文科学、自然科学まで幅広い科目が設置されています。

科目履修は学生個人の興味に応じた設計が可能となるように高い自由度を有していますが、このことは履修科目あるいは知識や技術の虫食いの習得を容認するものではありません。

学問的な体系を考慮しない履修計画など、無計画な履修を行うことなく、学生個人の自己責任で自らにマッチした計画的な科目履修を大前提としています。

計画的な科目履修の指針の履修ガイドとして次の二つの指針を利用することが大切です。

ひとつは、アカデミックカテゴリーです。社会科学の様々な問題に理論的、実証的に取り組むため、伝統的な学問分野について学ぶ Academic Approaches と、今日の社会で生起している様々な問題から社会科学方法論を学ぶ Themes & Subjects があり、自分の興味に合わせて計画的に履修してください。

いまひとつは、2 年次秋学期から履修が可能になるゼミナールです。ゼミナールでは少人数でディスカッションを中心とした形式で行われます。2 年半同一のゼミナールを履修するのが原則ですので、自らの興味に合致したゼミナールの関連科目を履修することが重要です。

社会科学部で大きく成長するために、自らの将来を見定めた科目設定を行ってください。

3-1. 「アカデミックカテゴリー（特定テーマ研究）」とは

アカデミックカテゴリーは、他学部における専攻や専修にあたります。各自の履修計画の指針として、2 つの視点から構成される、科目グループ（カテゴリー）を用意しています。これらは卒業必須要件ではありませんが、3 年生までに履修することが望ましく、可能な限り複数の領域に挑戦してみてください。

Academic Approaches

社会科学部の特色のひとつは「学際」です。逆説的のように見えますが、「学際」的なアプローチを行うには、伝統的な学問領域をしっかりと学ぶことが重要です。伝統的な学問領域を体系的に学ぶことで、はじめて「学際」を理解することが可能になるからです。この分野群では、このような目的のために科目群を提供しています。

- 政治学・政治理論研究 …………… P. 10
- 経済学 …………… P. 11
- リーガルマインド …………… P. 13
- ビジネス・アドミニストレーション …………… P. 15
- グローバル社会と文化理解 …………… P. 17
- データサイエンス …………… P. 18
- ヨーロッパ研究 …………… P. 19
- 社会学 …………… P. 20

Themes & Subjects

今日の社会が抱える問題や、グローバル社会のなかでの日本のアイデンティティについて、サブジェクトベースでのアプローチを行う科目群です。伝統的な学問分野の枠を超えてアプローチすることが求められる問題に多面的にアプローチします。

- 法と経済学 …………… P. 21
- サステナビリティ学 …………… P. 22
- 社会デザイン …………… P. 23
- 日本の社会と公共政策 …………… P. 25
- 平和研究 …………… P. 27
- 日本の歴史と文化 …………… P. 29
- アメリカ研究 …………… P. 30
- 社会調査 …………… P. 31

Academic Approaches

政治学・政治理論研究 / Political Science

1. 概要

「政治」などという、ダサくて鬱陶しいものとは関わり合いになりたくないという諸君も多いであろう。しかし、政府の政策に何の影響も受けずにいられるかと言えば、そうではない。民主国家に生きる国民として、必要な政治現象に関する知識と判断力を得ることが、このアカデミックカテゴリーの目標である。政治現象を学ぶための政治学科は、必ずしも多くの大学に設置されてはいない。学科組織を取らないために見逃しやすいことは、本学部設置されている政治学関連科目がカバーする範囲と内容は、多くの他大学の政治学科のそれに遜色がないことである。この条件を生かしてほしい。

2. 修了必要単位：14単位（必須科目から4単位、選択科目10単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
政治分析の基礎	コア科目	1年～	2
政治学入門	コア科目	1年～	2
政治学原論Ⅰ	基盤専門	2年～	2
政治学原論Ⅱ	基盤専門	2年～	2
政治学史Ⅰ	基盤専門	2年～	2
政治学史Ⅱ	基盤専門	2年～	2

※必須科目のうち、4単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位として取り扱う。

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
選挙制度論	基盤専門	1年～	2
政治分析	基盤専門	1年～	2
日本政治史Ⅰ	基盤専門	1年～	2
日本政治史Ⅱ	基盤専門	1年～	2
外国政治史Ⅰ	基盤専門	1年～	2
外国政治史Ⅱ	基盤専門	1年～	2
現代政治制度論	基盤専門	2年～	2
比較政治制度論1	基盤専門	2年～	2
比較政治制度論2	基盤専門	2年～	2
行政学Ⅰ	基盤専門	2年～	2
行政学Ⅱ	先進専門	2年～	2
現代選挙論1	先進専門	2年～	2
現代選挙論2	先進専門	2年～	2
現代政治分析	先進専門	3年～	2
政治過程論1	先進専門	3年～	2
政治過程論2	先進専門	3年～	2
政治行動論Ⅰ	先進専門	3年～	2
政治行動論Ⅱ	先進専門	3年～	2

Academic Approaches

経済学 / Economics

1. 概要

ポイント：経済学関連の科目の履修に際しては、ミクロ経済学ならびにマクロ経済学の基礎知識が必要不可欠である。経済学アカデミックカテゴリーでは、「経済学入門1〔ミクロ経済学〕」、「経済学入門2〔マクロ経済学〕」の履修を必須とすることで、それらを応用した科目の履修がスムーズに行われるよう配慮されている。

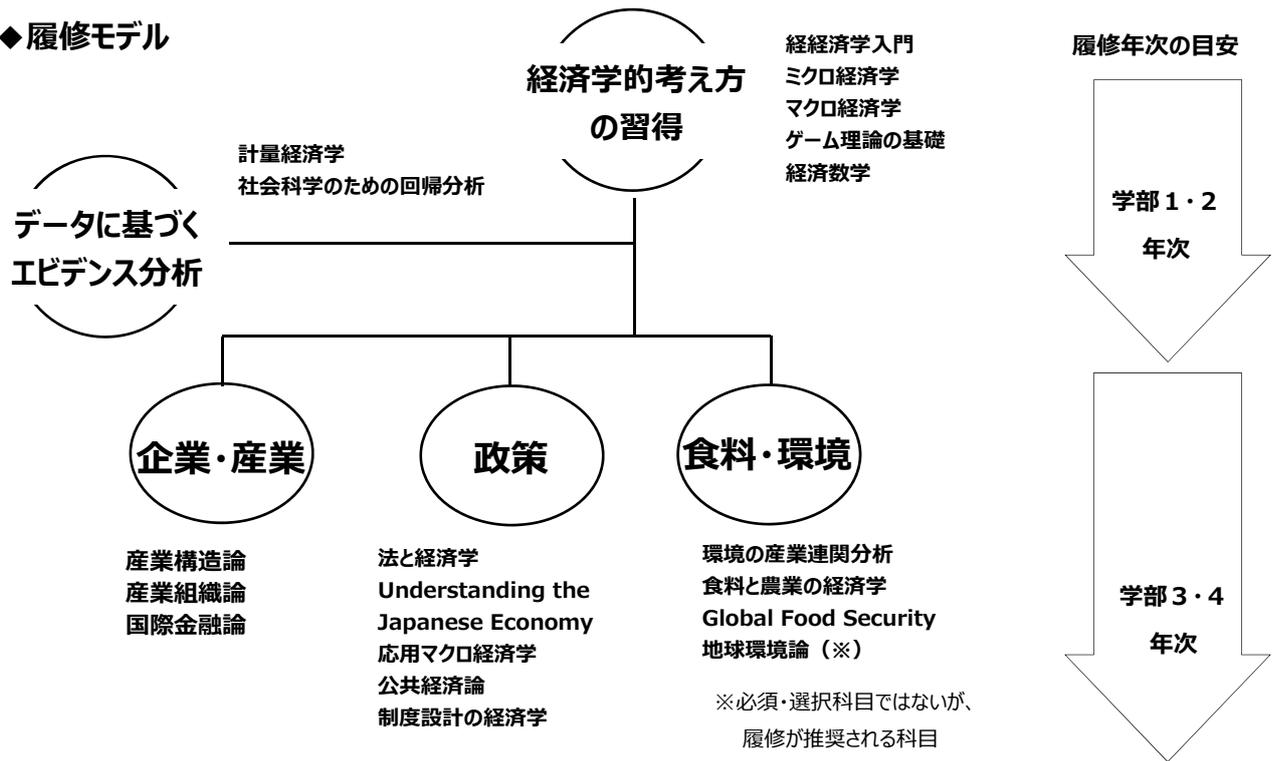
私たちの生活にとって経済活動は欠かせないものである。しかし、その背後にある経済の仕組みを理解し、それをより良いものにするための方策を明瞭に語れる人は少ないだろう。特に現代の経済は、急速なグローバル化の影響もあり、非常に複雑化している。このように身近な存在であるにも関わらず、難解とも思える経済に対して、経済学は「経済モデル」と呼ばれる現実を簡略化した理論モデルを用いることによって、その実体（性質や構造など）を明らかにしようと試みる学問である。従って経済学では、この経済モデルを丹念に学習していくことが中心となる。

ところで経済を学ぶ上で、どのようなことを知りたいと思うだろうか。「物の値段がどのように決まるのかを知りたい」、「自由な市場取引の利点と限界を知りたい」、「そもそも人は、どのように財の購入を決定しているか知りたい」という人もいるかもしれない。このような、個々の市場や主体の行動に関するテーマを扱う分野は、**ミクロ経済学**と呼ばれる。一方で、「日本の国内総生産（GDP）がどのように決まるのかを知りたい」、「国によって経済成長率、インフレ率、失業率などが異なるのはなぜかを知りたい」、「政府の財政政策や金融政策が、どのように経済に影響するのかを知りたい」と思う人もいるだろう。これらは一国全体の経済の動きに関するものであり、**マクロ経済学**と呼ばれる分野で扱うテーマである。そして経済学は大きく分けて、これらの2つの分野から構成される。これらに加えて、**現実のデータ**を用いて経済モデルを検証したり、経済の動きを分析したりするアプローチも存在する。実際、経済学は理論モデルと現実のデータを、上手に融合する形で発展を遂げてきている。

経済学アカデミックカテゴリーでは、上述のミクロ経済学とマクロ経済学を理解する上で前提となる知識を得るために、「**経済学入門1・2**」の履修を必須としている。これらの科目は最初に履修することが望ましく、その上で学部**2年次**までに「**ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ**」、「**マクロ経済学**」、「**ゲーム理論の基礎**」、「**経済数学1・2**」を履修することが**強く推奨**される。ゲーム理論は、戦略的な状況下における人々や企業などの行動を分析する分野であり、伝統的な経済学に対して新しい視点を与える分析ツールの一つとして知られている。経済数学は、経済モデルを正確に理解し、自在に使いこなせるようになるための基礎を与える科目である。また、現実のデータを通じて経済を理解するために、「**計量経済学Ⅰ・Ⅱ**」を同時並行的に履修することも推奨する。

これらの基礎的な学習の後、学部3・4年次では、より専門的なテーマを学習する。ここでは、企業の行動や産業の規制方法などを分析する『**企業・産業**』、経済的な問題に対する政策のあり方などを学ぶ『**政策**』、食料・環境問題といった現代の経済を取り巻く諸問題などを扱う『**食料・環境**』の3つのテーマが用意されている。これらの中から1つを選んで深く学習することで、そのテーマに関するスペシャリストを目指しても良いし、いくつかのテーマを横断的に選択することで、総合力を身につけても良い。いずれにおいても、1・2年次でしっかりと経済モデルやデータの扱い方の基礎を身につけ、3・4年次でそれを土台として応用力を磨くことで、経済学の全貌が見えてくる。

◆履修モデル



2. 修了必要単位：14単位（必須科目4単位、選択科目10単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数	科目名	科目区分	配当年次	単位数
経済学入門1(ミクロ経済学)	コア科目	1年～	2	経済学入門2(マクロ経済学)	コア科目	1年～	2

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数	科目名	科目区分	配当年次	単位数
統計解析の基礎(2020年度以前履修分)	コア科目	1年～	2	ゲーム理論の基礎 ※推奨科目	コア科目	1年～	2
経済数学1 ※推奨科目	基盤専門	1年～	2	経済数学2 ※推奨科目	基盤専門	1年～	2
ミクロ経済学I ※推奨科目	基盤専門	2年～	2	ミクロ経済学II ※推奨科目	基盤専門	2年～	2
マクロ経済学 ※推奨科目	基盤専門	2年～	4	産業構造論	基盤専門	2年～	2
計量経済学I(2020年度以前履修分)	基盤専門	2年～	2	計量経済学II(2020年度以前履修分)	基盤専門	2年～	2
社会科学のための回帰分析I	基盤専門	2年～	2	社会科学のための回帰分析II	基盤専門	2年～	2
公共経済論I	基盤専門	2年～	2	公共経済論II	基盤専門	2年～	2
Understanding the Japanese Economy: Microeconomic Perspectives	基盤専門	1年～	2	Understanding the Japanese Economy: Macroeconomic Perspectives	基盤専門	1年～	2
食料と農業の経済学1〔食料需給の決定要因と食料問題・農業調整問題〕	先進専門	2年～	2	食料と農業の経済学2〔日本の経験と教訓〕	先進専門	2年～	2
Global Food Security: Demand and Supply Challenges	先進専門	2年～	2	Global Food Security: Climate Change, Food and Agriculture	先進専門	2年～	2
国際金融論I(2019年度以前履修分)	先進専門	3年～	2	国際金融論II(2019年度以前履修分)	先進専門	3年～	2
International Finance	先進専門	1年～	2	国際金融論	先進専門	2年～	2
環境の産業連関分析	先進専門	3年～	2	法と経済学(2018年度以前履修分)	先進専門	3年～	2
法と経済学I	先進専門	3年～	2	法と経済学II	先進専門	3年～	2
制度設計の経済学I	先進専門	3年～	2	制度設計の経済学II	先進専門	3年～	2
応用ミクロ経済学1	先進専門	3年～	2	応用ミクロ経済学2	先進専門	3年～	2
応用計量経済学I	先進専門	3年～	2	応用計量経済学II	先進専門	3年～	2
産業組織論	先進専門	3年～	4	応用マクロ経済学	先進専門	3年～	4

▼必須・選択科目ではないが、履修が推奨される科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
地球環境論	先進専門	3年～	4

Academic Approaches

リーガルマインド—法的なものの考え方と議論の技法 / Legal Mind

1. 概要

「リーガルマインド」という言葉は、「法的思考」、「法律の実際の適用に必要とされる、柔軟、的確な判断」などと定義されることがありますが、もう少し広い意味でも使われます。このアカデミックカテゴリーは、法学分野のうち特に基本となる法律科目の総合的学習を通じて、法解釈の基本の習得、法的思考や議論の技法の獲得を目指すものです。

社会科学部には、基本的科目から、他大学・学部にはほとんど例を見ない学際・複合的な科目まで、多くの法律系科目が設置されています。「六法」に載っている法律の条文をあまり使わない科目もあります。科目によっては、このアカデミックカテゴリーに含まれるような基本的科目をある程度履修した上での履修が望まれます。

法律の中には、正確に覚えておいた方がよい条文があります。ただ、「六法全書」に載っている膨大な数の条文をやみくもに暗記・記憶しようとしても、すぐに挫折するでしょうし、暗記できたとしてもそれだけでは正しく使いこなすことはできません。条文の読み方や解釈については、長い歴史を経てある程度明確に固まった手法もあれば、暗黙のルールや運用のようなものもあります。

法律問題について、解釈の結果、全員一致で一つの結論に落ち着くとは限りません。特定の条文や論点の解釈について、明治時代からずっと多くの学説や判例の対立が続いていることも少なくありません。なぜ学説や判例が矛盾・対立しているのか、その理由を探求することで、法的な論理構造や発想法に触れることができます。

法律は専門家だけのものではありません。だれしも、生活していく上で必要な法律知識や法的発想法を身に付けておく必要があります。法律に直接関係なく暮らしていると考えている人々にとっても、現代社会を生きていく上で知っておくべき法的情報や知識があります。情報や知識だけでなく、法的な思考方法、論理展開に慣れておくことも重要でしょう。

法律の専門家を志す学生、法律に強い興味を持ち専門的学習を目指す学生にとって、法律学の基本となる憲法、民法、刑法について総合的な知識を身に付けることは、その後の学習・研究にとって極めて重要であることはいうまでもありません。ある条文・論点について、なぜ学説が対立しているのか、なぜ複数の判例は矛盾したかのような結論に至っているのか、それらの理由、背景、沿革などを理解し、さらにいくつかの法律を学ぶ過程で、「解釈」の種類や方法についての理解が深まるはずで

また、一見すると法律とは直接関係がないように見える他の専門分野の専門的学習を志す学生にとっても、基本的な法律知識はもちろん、条文解釈の技法や法的議論の様式を学ぶことは、それぞれの専門分野で必要となる法的知識の修得を容易にし、その後の学習・研究をさらに深めるのに資するものとなるでしょう。

◆履修モデル：

Step	私法系	公法系	学際／複合系	科目部門との対応
Step 4	・会社法3〔組織再編・M&A〕 ・金融商品取引法2	・刑法各論2 ・学校教育と憲法 ・刑事政策 ・犯罪学	・生命倫理と法1・2 ・法情報学 ・現代雇用社会の法と政策 ・Bioethics, Family and the Law	おもに 先進専門科目
Step 3	・会社法2〔会社のファイナンス〕 ・金融証券取引法1 ・民法3〔債権総論〕 ・民法4〔債権各論〕	・刑法各論1 ・国際法2	・法社会学Ⅰ・Ⅱ ・環境法1・2 ・知的財産権法（著作権法） ・知的財産権法（特許法，商標法，不正競争防止法） ・国際経済法2 ・労使関係法 ・労働市場法	
Step 2	・民法2〔物権〕 ・民法5〔親族〕 ・民法6〔相続〕 ・会社法1〔会社のガバナンス〕	・行政法 ・国際法1 ・刑法総論 ・刑法総論Ⅰ ・刑法総論Ⅱ	・医事法 ・国際経済法1 ・雇用関係法Ⅰ ・雇用関係法Ⅱ	おもに コア科目／ 基盤専門科目
Step 1	・私法入門（市民と法） ・民法1〔総則〕	・公法入門（国家と法） ・憲法Ⅰ・Ⅱ		

2. 修了必要単位：10単位（必須科目から2単位、選択科目8単位）

▼須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
憲法Ⅰ	基盤専門	1年～	2
公法入門（国家と法）	コア科目	1年～	2
私法入門（市民と法）	コア科目	1年～	2

※必須科目のうち、2単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位として取り扱う。

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
憲法Ⅱ	基盤専門	2年～	2
刑法総論Ⅰ〔犯罪論の基本構造〕	基盤専門	1年～	2
刑法総論Ⅱ〔犯罪の諸形態〕	基盤専門	1年～	2
刑法総論	基盤専門	1年～	4

Academic Approaches

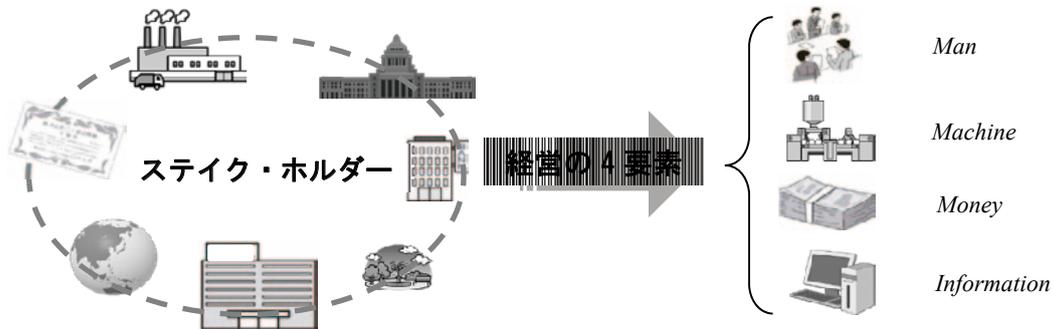
ビジネス・アドミニストレーション/ Business Administration

1. 概要

学生の皆さんはすでに企業・会社と、さまざまな形で接点を持っていることと思います。最も身近な企業との関わり合い方は、顧客(消費者)としての立場であろうと思います。企業が我々に提供するものは製品ばかりでは無いことは、指摘するまでもありません。企業が提供する財には、人が直接サービスという価値を提供する形態(例えば学習塾やコンサルティング業務)、企業の運営する資産が人を介さずにサービスを提供するケース(例えば、インターネット接続サービスや、インターネットバンキング)など様々な形態が取られています。そしてこれらに何らかの形で人(従業員)が介在していることは指摘するまでもありません。

企業が提供する製品やサービスは今後も多様化してゆくことが予想されますが、経営の3要素あるいは4要素とよばれるト・モノ・カネとして情報を適切に管理運営しなければ、安定的な生産やサービスの提供は継続できませんし、利益を確保することもできません。利益を確保することが出来なければ企業の存続さえ危険にさらされるのです。

このカテゴリーでは、ベーシック・コースとして、経営の4要素に関わる基本的な知識を学ぶことで、会社を中心として将来社会人として社会で活躍するために必要な能力の基礎となるカリキュラムを提供しています。



さらにアドバンス・コースでは、企業経営者に必要な知識を提供しています。また、ここではより広範なステイク・ホルダー(利害関係者)を対象に様々な分析が行われます。顧客や従業員のほかに、企業には様々なステイク・ホルダーが存在します。資金を提供する投資家(株主・債権者)、銀行、協力企業(サプライヤ)、地域社会・国家など多彩な利害が介在しています。アドバンス・コースでは、より広い視点から企業を分析してゆきます。

企業を取り囲む経営環境は日々変化し、様々な環境要因が複雑に絡み合っています。従って、他の社会科学の領域と同様に、全く同じ環境で“実験”を行うことや、一度生じた事象を“再現”することは不可能です。しかし、企業の経営成績は偶然の産物として得られるわけではありません。取り扱う製品やビジネスモデルが秀逸だからといって、必ずしも好業績が得られるとは限らないのです。企業には経営の巧拙があります。名経営者と呼ばれる人たちは、複雑に絡み合った糸を丁寧にほぐして、その本質を突き詰めて意思決定を行っていると考えられます。優秀な経営者は、極めて抽象化された世界で、経営の本質を見抜くからこそ、複雑な要因が介在しても、経営環境が変化しても好業績を残せるのだと考えられています。トップ・マネジメントにとってこのような思考は極めて重要ですから、将来に向けて企業に対する高い視点を手に入れたい方は、より普遍的なアプローチを指向するアドバンス・コースにチャレンジしてみてください。

人に関わる領域	モノ・情報に関わる領域	カネに関わる領域	経営全般	
経営組織論	流通論 I・II 経営科学 2 品質管理	企業財務論 管理会計	経営戦略 1・2	ビジネスのための 専門知識
	ビジネスのための データサイエンス 経営科学 1 国際貿易論 1・2 グローバル・サプライ チェーン・マネジメント 情報科学論	経営分析 証券論 簿記 会計学	国際経営論 1・2	
経営学				ビジネスのための 基礎知識
経営学入門	マーケティング入門	会計学入門	経営学入門	

◆ビジネスのための基本知識

学部2年生までの履修を前提とした科目群です。概要でのべたように、会社を運営して行くためには、ヒト・モノ・カネ・情報を効率的に管理運営しなければなりません。これらの個別要素がどのように関わって会社が運営されているのかを理解することは、会社を知る第一歩です。会社で働く、あるいは、会社と取引(商売)を行うために、ビジネスの仕組みに関する基本的な知識を提供すると言い換えることもできるでしょう。この科目群では、そのための基本を提供するとともに、さらにビジネス関係の科目を深く学習したい学生のための基礎的知識を提供します。

◆ビジネスのための専門知識～経営者の必須知識～

学部3年生以上の履修を前提とした科目群です。ビジネス関連のゼミナールを履修してより専門的に学習する学生はもちろん、ビジネスの固有領域における専門性を身につけたい学生のための科目群です。これらの科目は、自らが経営者あるいは起業家として、会社と主体的に関わるための必須の知識であると同時に、シンクタンクを含む研究機関で企業の様々な行動を分析・研究するための基盤を提供することを目的としています。

2. 修了必要単位：14単位（必須科目から4単位、選択科目10単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
マーケティング入門	コア科目	1年～	2
経営学入門	コア科目	1年～	2
会計学入門	コア科目	1年～	2

※必須科目のうち、4単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位として取り扱う。

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
簿記	基盤専門	1年～	4
情報科学論	基礎専門	1年～	4
国際貿易論 1	基盤専門	2年～	2
国際貿易論 2	基盤専門	2年～	2
産業心理学 I	基盤専門	2年～	2
産業心理学 II	基盤専門	2年～	2
経営分析	基盤専門	2年～	2
会計学	基盤専門	2年～	4
経営学	基盤専門	2年～	4
証券論	基盤専門	2年～	4
グローバル・サプライチェーン・マネジメント	基礎専門	2年～	4
ビジネスのためのデータサイエンス	基盤専門	2年～	4
経営科学 1	基盤専門	2年～	4
品質管理	先進専門	2年～	2
国際経営論 1	先進専門	2年～	2
国際経営論 2	先進専門	2年～	2
生産システム論	先進専門	3年～	2
経営戦略 1	先進専門	3年～	2
経営戦略 2	先進専門	3年～	2
人的資源管理論 I	先進専門	3年～	2
人的資源管理論 II	先進専門	3年～	2
管理会計	先進専門	3年～	4
経営組織論	先進専門	3年～	4
企業財務論	先進専門	3年～	4
経営科学 2	先進専門	3年～	4

Academic Approaches

グローバル社会と文化理解 / *Cultures in Global Society*

1. 概要

私たちは、かつてないほどのグローバル化の時代を生きています。早稲田大学でも 100 を超える国や地域出身の 5,000 人以上の留学生がともに学び、日本で教育を受けてきた学生たちも世界各地に学びの場を広げています。また卒業後のみなさんは海外あるいは地域社会で、日常的にアイデンティティや他者認識を問われていくことになるでしょう。このような変化のなかで、私たちには自文化、異文化を理解し、異なった文化的背景をもつ人びととコミュニケーションする能力が求められています。それは国籍だけでなく、エスニシティ、宗教、ジェンダーなどにも関わります。多層的に交錯する多様性のなかで、どのように差異を認識し、受け止め、「異なっていること」を前提としながら共生を指向していくのかを、私たちは考えていかなばなりません。そのためには、文化に関わる現状およびその分析手法について、理解する必要があります。

このアカデミックカテゴリーでは、文化表出のさまざまな形、文化の社会的機能、そこから派生している現実の諸問題等を理解するための知識を修得し、自文化、異文化に対する自らの向き合い方を考えることを目的としています。ここでは文化を特定の集団内で共有される思考様式、行動様式、価値観など、広い概念として捉え、伝統的なもの・新たに創出されるもの、結束・連帯の強化あるいは対立・紛争の要因としての文化、様々な目的のために利用される資源としての文化など、さまざまな視角から文化をとらえています。

1 年生から履修できる科目がほとんどです。いくつかの科目を履修し、関心が強まれば 2 年以上配当のより専門性の高い科目や、関連するゼミの履修につなげてください。

1. (1 年以上配当) 多様な視点からの文化理解のための科目

文化人類学 1・2 日本文化論 漢字文化圏論 1・2 異文化コミュニケーション論

2. (2 年以上配当)

2-1. 思想、歴史、政策的視点からの文化理解のための科目

日本文化研究 中国研究 1・2 (3 年以上)

2-2. 外国語文献の講読による文化理解のための科目

中国書研究 1・2 西書研究 1・2 (3 年以上)

2. 修了必要単位：12 単位 (選択科目のみ)

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
文化人類学 1	基盤専門	1 年～	2
文化人類学 2	基盤専門	1 年～	2
日本文化論	基盤専門	1 年～	2
漢字文化圏論 1	基盤専門	1 年～	2
漢字文化圏論 2	基盤専門	1 年～	2
異文化コミュニケーション論	基盤専門	1 年～	2
芸術論 1	基盤専門	1 年～	2
芸術論 2	基盤専門	1 年～	2
日本研究 1	基盤専門	1 年～	2
日本研究 2	基盤専門	1 年～	2
日本文化研究	先進専門	2 年～	2
中国書研究	先進専門	2 年～	2
中国研究 1	先進専門	3 年～	2
中国研究 2	先進専門	3 年～	2
西書研究	先進専門	3 年～	2

Academic Approaches

データサイエンス / Data Science

1. 概要

近年、ビッグデータや、AI、機械学習などという用語を頻繁に目にするようになりました。インターネットをはじめとする様々なネットワークや、IoT(Internet of Things)機器から、時々刻々と膨大なデータが生み出され、これら大量のデータを有効に活用しようという動きが広く社会の中で活発になっています。また、様々な学問分野においても、「データによる実証」の重要性が再認識されています。

「データサイエンス」というと非常に難しい分野のように感じるかもしれませんが、しかし、データサイエンスの考え方は実は非常にシンプルです。それは、現実世界における現象を何かしらの方法で観測し、そこから得られたデータを定量的に評価、意思決定に繋げるという考え方です。また、このデータサイエンスの考え方は決して新しいものではありません。例えば、1800年代に活躍した近代看護の母であるフローレンス・ナイチンゲールの重要な功績は、野戦病院における衛生環境に関するデータ分析によってもたらされたのは有名な話です。本学の創設者である大隈重信は、日本における初の統計機関である統計院を設置するなど、政策決定における統計の重要性を訴えていました。つまり、現在の世界的なデータサイエンスのブームは、決して一過性のものなどではなく、もともと古くから重要視されていた考え方が技術の進歩により、今まで充分適用できなかった様々な場面に活用できるようになったため起きていると考えられます。

データサイエンスはデータから有用な知識を抽出するための方法論です。そのため、データサイエンスの手法だけがそこにあっても何もできません。分析対象となるデータやその背景にある問題と合わさることで、データサイエンスは初めてその本領を発揮します。また、データサイエンスの応用範囲は極めて広く、ビジネスはもちろん、政治、経済、社会、あらゆる実社会、学問分野で活用できます。そのため、社会科学部で学ぶ事のできる、様々な専門知識とデータサイエンスの知識を融合することで、個々の専門領域をより深く理解できるようになると共に、データサイエンスの知識も深く学ぶことができます。

本アカデミックカテゴリーでは、データサイエンスの基礎から、様々な分野における応用について学んでいきます。更に、今後ますます重要になっていくであろう、社会におけるデータ活用に関する諸問題についても学ぶことができます。

2. 修了必要単位：14単位（必須科目から4単位、選択科目10単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
統計解析の基礎（2020年度以前履修分）	コア科目	1年～	2
社会調査の基礎	コア科目	1年～	2
社会科学のための基礎コンピュータ	コア科目	1年～	4
データ科学入門α（フルオンデマンド）	初年次教育 または他箇所科目	1年～	1
データ科学入門β（フルオンデマンド）	初年次教育 または他箇所科目	1年～	1

※必須科目のうち、4単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位として取り扱う。

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
情報科学論	基盤専門	1年～	4
社会科学のための数学	基盤専門	1年～	4
計量経済学Ⅰ（2020年度以前履修分）	基盤専門	2年～	2
計量経済学Ⅱ（2020年度以前履修分）	基盤専門	2年～	2
社会科学のための回帰分析Ⅰ	基盤専門	2年～	2
社会科学のための回帰分析Ⅱ	基盤専門	2年～	2
産業構造論	基盤専門	2年～	2
ビジネスのためのデータサイエンス	基盤専門	2年～	4
International Finance	先進専門	1年～	2
品質管理	先進専門	2年～	2
国際金融論	先進専門	2年～	2
国際金融論Ⅰ（2019年度以前履修分）	先進専門	3年～	2
国際金融論Ⅱ（2019年度以前履修分）	先進専門	3年～	2
データ倫理	先進専門	3年～	1
法情報学	先進専門	3年～	2
環境の産業連関分析	先進専門	3年～	2
応用計量経済学Ⅰ	先進専門	3年～	2
応用計量経済学Ⅱ	先進専門	3年～	2
金融データ解析Ⅰ	先進専門	3年～	2
金融データ解析Ⅱ	先進専門	3年～	2
経営科学Ⅱ	先進専門	3年～	4

Academic Approaches

ヨーロッパ研究 / *European Studies*

1. 概要

自由民主主義、資本主義経済、立憲主義、福祉国家など、近現代社会の政治経済の基本的な原理や制度は、そのほとんどがヨーロッパに起源をもっています。明治維新以後の日本もまた、ヨーロッパ諸国を手本に近代化を進めました。現代においても、日本国憲法をはじめとする法制度や、議会制度、教育制度、社会保障制度には、ヨーロッパで生まれた「市民社会（civil society）」の理念の強い影響がみられます。

また、多様な民族と文化から成る今日のヨーロッパでは、絶えまない戦争の歴史や、帝国主義や植民地支配の影響が残る一方で、EU に代表される国民国家体制を超えた政治・経済・社会の統合への模索がみられます。このような国家の枠組みの変更は、市民の移動や移民の流入とあいまって、都市や市民権の考え方にも変化をもたらしています。こうしたヨーロッパの試みを学ぶことは、変容する国際政治や、グローバル経済、多文化社会の未来を展望するうえで、欠かせないものであるといえます。

「ヨーロッパ研究」は、ヨーロッパ諸地域の独自性への関心とともに、現代社会の基礎をなす「市民社会」の歴史・思想・制度への視座、およびグローバル化する政治・経済・社会の未来像への展望をあわせもつ、多角的・学際的な研究分野です。それはまた、ヨーロッパ中心主義的な価値観や植民地主義など、ヨーロッパが世界へもたらしてきた負の遺産への批判的な視点を身につけることにもつながるでしょう。

このアカデミックカテゴリーは、「政治・経済・社会」の3つの観点からヨーロッパ市民社会の歴史と現状を学ぶことを通して、現代社会とその展望についての深い理解をもたらすことを目指します。

- ◆ 政治にかかわる科目
現代市民権理論、EU 地域研究 I、政治学史 I、政治学史 II
- ◆ 経済にかかわる科目
近代経済社会思想史 1、近代経済社会思想史 2、比較経済史 1、比較経済史 2、商業史 I、商業史 II、社会科学総合研究（ロシア東欧現代経済） 1、社会科学総合研究（ロシア東欧現代経済） 2
- ◆ 社会に関わる科目
ヨーロッパ市民社会論 I、ヨーロッパ市民社会論 II、EU 地域研究 II、比較近代社会思想 1、比較近代社会思想 2、EU・ドイツの都市づくり、仏書研究

2. 修了必要単位：14 単位（必須科目 4 単位、選択科目 10 単位）

▼ 必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
ヨーロッパ市民社会論 1（2020 年度以前履修分）	基盤専門	1 年～	2
近代経済社会思想史 1	基盤専門	1 年～	2
現代市民権理論	先進専門	3 年～	2
ヨーロッパ市民社会論 I	先進専門	3 年～	2

▼ 選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
EU 地域研究 1（2019 年度以前履修分）	基盤専門	1 年～	2
EU 地域研究 2（2019 年度以前履修分）	基盤専門	1 年～	2
近代経済社会思想史 2	基盤専門	1 年～	2
比較経済史 1	基盤専門	1 年～	2
比較経済史 2	基盤専門	1 年～	2
政治学史 I	基盤専門	2 年～	2
政治学史 II	基盤専門	2 年～	2
商業史 I	先進専門	2 年～	2
商業史 II	先進専門	2 年～	2
比較近代社会思想 1	先進専門	2 年～	2
比較近代社会思想 2	先進専門	2 年～	2
EU・ドイツの都市づくり	先進専門	2 年～	2
EU 地域研究 I	先進専門	3 年～	2
EU 地域研究 II	先進専門	3 年～	2
ヨーロッパ市民社会論 2（2020 年度以前履修分）	先進専門	3 年～	2
ヨーロッパ市民社会論 II	先進専門	3 年～	2
仏書研究	先進専門	3 年～	2
社会科学総合研究（ロシア東欧現代経済） 1	社会科学総合研究	3 年～	2
社会科学総合研究（ロシア東欧現代経済） 2	社会科学総合研究	3 年～	2

Academic Approaches

社会学 / Sociology

1. 概要

社会学は、さまざまな価値観をもった人々が集まって形づくる集団・社会や社会生活を研究し、社会的存在としてのわれわれ自身の行動を研究対象とする学問です。社会学と社会科学の区別が付いていない学生がしばしば見受けられますが、社会科学は社会諸科学（政治学、法学、経済学、商学など）の総称であるのに対し、社会学は社会科学の一領域であり、他の社会科学と（社会的なもの）についての研究を分担します。

本学部の社会学のカリキュラムは、他大学の社会学部のカリキュラムのように、社会学の各専門分野（連字符社会学＝〇〇社会学）を個別に学習するのではなく、社会学の全域を見据え、他の社会科学との違いを意識しながら、社会学特有のモノの見方や考えから学ぶことで、効率的かつ効果的に学習を進めることに特徴をもちます。ときに常識を揺さぶる社会学の考え方は、厳しく感じられることがあるかもしれませんが、社会をより深く知り理解するためには、社会学の学習が欠かせません。

アカデミックカテゴリー「社会調査」や社会調査士資格取得プログラムと併せて履修することで、学習効果が一層高まります。

〔カリキュラム体系〕

【入門】 コア科目	社会学入門			
【基礎】 基盤専門科目	開発社会論	社会意識論	社会学原論	現代家族論 1・2
【応用】 先進専門科目	環境社会学 1・2	知識社会学	社会学の思想と理論 現代社会学の方法	観光学
(社会調査実習)	ソーシャル・リサーチ (開発・環境)	ソーシャル・リサーチ (文化・メディア)		
(分野)	開発・環境	文化・社会意識	理論・社会学史	その他

2. 修了必要単位：14単位（必須科目4単位、選択科目10単位）

▼必須科目 ※

科目名	科目区分	配当年次	単位数
社会学入門	コア科目	1年～	2
社会意識論	基盤専門	1年～	2
開発社会論	基盤専門	1年～	2
Development and Society	基盤専門	1年～	2

※必須科目のうち、4単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位として取り扱う。

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
社会学原論	基盤専門	1年～	2
現代家族論 1	基盤専門	1年～	2
現代家族論 2	基盤専門	1年～	2
環境社会学 1	先進専門	2年～	2
環境社会学 2	先進専門	2年～	2
社会学の思想と理論	先進専門	2年～	2
知識社会学	先進専門	2年～	2
現代社会学の方法	先進専門	2年～	2
観光学	先進専門	2年～	2
ソーシャル・リサーチ（文化・メディア）Ⅰ	先進専門	2年～	2
ソーシャル・リサーチ（文化・メディア）Ⅱ	先進専門	2年～	2
ソーシャル・リサーチ（開発・環境）Ⅰ	先進専門	2年～	2
ソーシャル・リサーチ（開発・環境）Ⅱ	先進専門	2年～	2

Themes & Subjects

法と経済学/ Law and Economics

1. 概要

現代の社会現象の多くは法律的な側面と経済学的な側面を兼ね備えている。たとえば国際貿易は経済活動という意味では経済学の範疇ではあるが通関手続を始めとして国内あるいは国際的な法律や条約に基づくという意味では広く法律学の範疇でもある。また企業行動も経済学と法律学の双方から理解する必要がある。さらには民法や刑法の対象となるような純粋に法学の範疇にあると思われる人間行動も経済学的な動機付けによる理解がその分析を豊かにすることが知られている。そこで、「法と経済学」は、法律と経済の両方の知識を備えた総合的な視点を養うことを目的として設置する。

2. 修了必要単位：14単位（必須科目6単位、選択科目8単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
ゲーム理論の基礎	コア科目	1年～	2
民法概論（2019年度以前履修分）	基盤専門	1年～	2
法と経済学（2018年度以前履修分）	先進専門	3年～	2
法と経済学 I	先進専門	3年～	2

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
会社法1〔会社のガバナンス〕	基盤専門	1年～	2
会社法2〔会社のファイナンス〕	基盤専門	1年～	2
国際経済法1	基盤専門	1年～	2
刑法各論1〔個人、社会、国家に対する罪〕	基盤専門	2年～	2
刑法各論2〔財産に対する罪〕	先進専門	2年～	2
国際経済法2	先進専門	3年～	2
会社法3〔組織再編・M&A〕	先進専門	3年～	2
法と経済学 II	先進専門	3年～	2

Themes & Subjects

サステナビリティ学/Sustainability Study

1. 概要

持続可能な発展・開発(sustainable development)という言葉聞いたことがあると思います。宇宙船地球号という認識を受けて、地球の環境・資源の利用に関する現在世代と将来世代との間の世代間衡平を求める原理を表現する言葉です。もっと具体的に言えば、現在世代は将来世代が幸せに生きていけないような形で、地球の資源を使ったり、環境を破壊したりして、発展・開発をしてはいけないという原理です。1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された地球サミット(国連環境開発会議)で指導原理として用いられて以来、環境と開発について議論するときのキーワードとなっています。ただし、本来は、世代間の公平に関する基本原理であったのですが、国際会議の場では、開発によって貧困からの脱出を目指す発展途上国と、開発による環境破壊を防ぎたい先進国との利害対立を調整する原理として機能してきました。発展途上国には開発の権利があるけれども、その開発は持続可能なものでなければならないという形で、利害の調整がなされてきました。持続可能な発展・開発という言葉には、開発の促進のニュアンスが残って議論も多いので、近年では、サステナビリティ(持続可能性)という言葉が好んで使われるようになってきています。

「サステナビリティ学」では、持続可能な社会の実現の理解に必要な知識を学ぶことを目標とします。環境、経済そして社会の各側面からの理解が必要になってきます。たとえば、森林の持続可能な管理を素材にして考えるとよくわかります。森林の生態系そのものについての理解がなければ、どのように森林を管理していけば良いか方針すら持てません。今日の森林のほとんどは、天然の原生林ではなく、林業・農業など人々の産業的な働きかけとの関係で形成されてきたものです。これらが経済的に成り立たなくなると、バランスが崩れてしまいます。食糧生産のために森林を開墾して農地を増やすことも、森林生態系の保全、および地球温暖化緩和の観点からは、必ずしも良いことと評価できません。まして、貧困が原因で、やむなく森林を伐採して農地に変えることは許容しがたいことです。

このようなサステナビリティにかかわる問題は、生態学などの科学的知見を基礎にして、経済学的な分析を的確に行い、環境にかかわる政治過程を通じて政策を形成し、法律によって制度化することによって対応されることが必要です。すなわち、生態学、環境経済学、環境政治学、環境法学を学び、学際的なアプローチで問題に挑むことが必要です。「サステナビリティ学」では、表に示すこれらの学問領域の科目をパッケージとして習得することを推奨しています。また、学際領域にある諸課題の理解には、各専門領域の基礎を習得していることも重要なので、1・2年次にはいろいろな分野の「コア科目」を積極的に履修することを推奨します。

2. 修了必要単位：14単位（必須科目6単位、選択科目8単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
環境社会学 1	先進専門	2年～	2
環境法 1〔公害規制法〕	先進専門	3年～	2
環境の産業連関分析	先進専門	3年～	2
地球環境論	先進専門	3年～	4

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
持続可能な開発のための社会科学	基盤専門	1年～	2
生態学 1	基盤専門	1年～	2
生態学 2	基盤専門	1年～	2
環境科学概論	基盤専門	1年～	2
環境社会学 2	先進専門	2年～	2
食料と農業の経済学 1〔食料需給の決定要因と食料問題・農業調整問題〕	先進専門	2年～	2
食料と農業の経済学 2〔日本の経験と教訓〕	先進専門	2年～	2
Global Food Security: Climate Change, Food, and Agriculture	先進専門	2年～	2
Global Food Security: Demand and Supply Challenges	先進専門	2年～	2
環境法 2〔自然保護法〕	先進専門	3年～	2

Themes & Subjects

社会デザイン / Social Design

1. 概要

〔社会デザインとは？〕

地球規模の危機がますます深刻になっている中で、新しい社会を創るための理論と実践が必要です。現状の社会の課題は何か、どういう未来の社会像を描き、市民がどう向き合うか、どう変化をもたらすか、市民が情報を共有・活用し、そのビジョンとプログラムを考えるのが「社会デザイン」(social design)という新しい学問分野です。

〔社会デザインを学ぶポイント〕

社会科学部では、2009年に「社会デザイン論入門」を開講、2015年には体系的に社会デザインを学ぶプログラムを日本で最初に設置しました。社会が直面する課題を乗り越え、望ましい社会を創造するための「理論」と「実践」の枠組みを学びます。

私たちをとりまく社会は、安定と変動を繰り返しています。科学技術の進歩・発展により、新たな欲求の高まり、余剰エネルギー（余暇、お金、人材など）の蓄積、社会的な意識の高まり、の3つの条件が相互作用することで新しい時代が準備されてゆきます。一方、そこはフロンティアの領域であり、既得権益の流動化、それにとまなう政治・経済・社会的な新たな機会への期待とリスクの不安の両方が伴い、阻害要因（旧態依然とした体制や思考習慣、時代遅れの法や習慣など）が壁になり、多様なコンフリクトが発生します。西欧の一元的世界の限界から、非欧州世界で蓄積されてきた多様な暗黙知との対話への期待が高まっています。それらを乗り越える新たな社会のイノベーターが求められています。

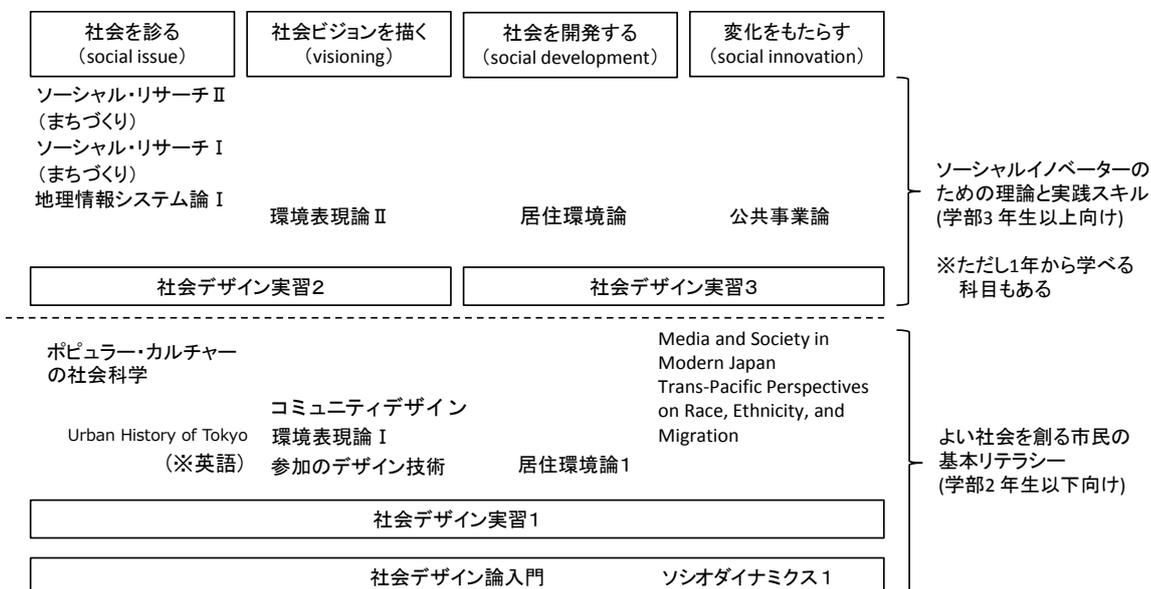
〔4つのイシュー〕

以下の①～④のアカデミックな理論と実践スキルを学びます。

- ① 社会を診る (social information and research)
- ② 社会ビジョンを描く (visioning)
- ③ 社会を開発する (social development)
- ④ 変化をもたらす (social innovation)

〔身につけたい資質とスキル〕

豊かな感性と主体的な問題意識をもとに、社会情報を共有・活用する探索力、現代的ニーズへの気づきや他者への共感力、ビジョンを明らかにする計画と社会構想力、新しい社会システムの設計をおこなう創造性や思考力、コミュニティ開発とキャパシティの形成力、自らの考えを伝える表現力、多様な主体とのコミュニケーション力や協働性、市民の立場から政策を熟議、合意形成する判断力、プログラムの導入、資源動員、やり遂げる行動力など、新たな社会の変化を導入し、安定化させるプロセスに必要な知を学びます。



◆よい社会を創る市民の基本リテラシー(学部2年生以下向け)

社会デザインを市民として共通に心得るべき現代社会の社会的教養と考え、アクターとしていかに社会デザインに関与することが可能か、多様なアプローチを理解し、自分なりの道筋で思考、機会をとらえて行動できるようになることをベースラインとして目指します。

自分らしい思考をベースにして表現の基本を身につけながら、他者と出会い対話すること、社会や地域の抱える課題を発見し、それに対する提案が行なえることが目標です。

◆ソーシャルイノベーターのための理論と実践スキル(学部3年生以上向け)

公共団体、企業・組合、地域社会、NGO・NPO等において、新しい変化をもたらすソーシャルイノベーターに求められる素養、研究機関やシンクタンクの専門家、研究者の分析スキルの基礎を学びます。豊かな問題意識とアカデミックなスキルをもとに調査、分析、考察をまとめ、社会への提言、働きかけ、熟議、合意形成、社会的アクションを起こすためのスキルを身につけることが目標です。3年生以上向けですが、1年生から学べる科目もあります。

2. 修了必要単位：14単位（必須科目6単位、選択科目8単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
社会デザイン論入門	コア科目	1年～	2
社会デザイン実習1	基盤専門	1年～	2
社会デザイン実習2 または 社会デザイン実習3	基盤専門	1年～	2

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
ソシオダイナミクス1	基盤専門	1年～	2
ポピュラー・カルチャーの社会科学	基盤専門	1年～	2
地理情報システム論I	基盤専門	1年～	2
コミュニティデザイン	基盤専門	1年～	2
環境表現論I	基盤専門	1年～	2
Media and Society in Modern Japan (2017年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
Trans-Pacific Perspectives on Race, Ethnicity, and Migration	基盤専門	1年～	2
参加のデザイン技術	基盤専門	1年～	4
ソーシャル・リサーチ(まちづくり)I	先進専門	2年～	2
ソーシャル・リサーチ(まちづくり)II	先進専門	2年～	2
公共事業論	先進専門	2年～	2
環境表現論II	先進専門	2年～	2
居住環境論	先進専門	3年～	2
Urban History of Tokyo	先進専門	3年～	2

Themes & Subjects

日本の社会と公共政策/ Japanese Society and Public Policies

1. 概要

2つの視点から構成されている「アカデミックカテゴリー」のなかで、「日本の社会と公共政策(Japanese Society and Public Policies)」は Theme & Subjects に該当するものです。Theme & Subjects は、今日の社会が抱える問題や、グローバル社会のなかでの日本のアイデンティティについて、サブジェクトベースでのアプローチを行う科目グループで構成され、伝統的な学問分野の枠を超えてアプローチすることが求められる「問題」に多面的にアプローチすることとなっています。もちろん、現代の日本社会をどのようなものとして捉えるかについては様々な手法があります。そのこととの関係で、「日本の社会と公共政策(Japanese Society and Public Policies)」について厳密に述べることも無理があります。「日本の社会と公共政策」について、例えば、経済的側面から光を当てて描くこともできますし、法的側面から光を当てて描くことも出来ます。それぞれは、どちらが「日本の社会と公共政策」の本質に近いものを表現できるかということではなく、対象としての「日本の社会と公共政策」を捉えて描くための枠組みの相違にすぎません。その意味で、捉えるための枠組み次第で、「日本の社会と公共政策」は異なる「意味合い」を持って現れることとなります。では、「日本の社会と公共政策(Japanese Society and Public Policies)」というアカデミックカテゴリーは、どのような意図のもとで「特定テーマ研究」を構成しているのでしょうか。アカデミックカテゴリーの中で Theme & Subjects が置かれている位置からすれば、「日本の社会と公共政策」については以下のように説明できるでしょう。

「日本の社会と公共政策(Japanese Society and Public Policies)」は、現代の日本社会が直面する諸問題（例えば、経済、家族、福祉、環境、働き方など）とその解決に向けた民間の活動や公的政策について、多面的な視点から理解を深めるものです。諸問題に対応すべきは公的なセクターであると当初よりきめられてはいません。それは時代や状況によって異なってきます。「日本の社会」のありようが「公共政策」のありように影響を及ぼし、さらに、その結果として日本の社会の姿が形作られることとなります。その意味では、「日本の社会と公共政策」について、より深く理解しようとするならば、構成している科目群の履修だけでは十分とはいえないでしょう。その不十分性は、「日本の社会と公共政策」について学びたいと思った受講生が、関連科目を積極的に履修することで補ってください。もう一つ、「日本の社会と公共政策」が目指しているものがあります。それは、「日本の社会と公共政策」が、日本語および英語で行われる科目を合わせて履修することにより、一般プログラムの学生は英語で、英語学位プログラムの学生は日本語で、現代の日本社会について説明できる能力の習得を目指すというものです。「日本語による表現だけでは深まらなかったこと」や「英語による表現だけでは深まらなかったこと」を総合させることによって、「問題」とされるものを捉え、表現する能力を高めてください。このような「日本の社会と公共政策(Japanese Society and Public Policies)」の有する特殊性から、早い段階で履修することを推奨しますが、3年次以上の段階で履修し、「日本語による表現だけでは深まらなかったこと」や「英語による表現だけでは深まらなかったこと」を総合させることによって、学んできたことをまとめるという意味合いで活用していただくことも可能です。

アカデミックカテゴリーには通常、必須科目と選択科目が設置されていますが、この「日本の社会と公共政策 (Japanese Society and Public Policies)」では、修了必要単位を選択科目のみ 1 2 単位としています。

社会科学部が提供している科目群は多種多様に存在しています。見ようによっては系統立てられているように感じるかもしれませんが、ばらばらのように感じるかもしれません。履修についての自由度が高いことから、科目登録に際してアルバイトなどを念頭に選択してしまうと、結果として、「何を勉強したかのかわからない」というようになってしまう可能性もあります。ただし、「自分はこのようなことについて勉強する」というような意図で、履修科目を組み立てていけば、「専門性を深めること」も可能ですし、「自分なりのテーマを設定し多角的にアプローチすること」が可能となります。

2. 修了必要単位：12単位（選択科目のみ）

※ただし日本語・英語の科目群からそれぞれ2単位以上を修得すること

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
現代家族論 1	基盤専門	1年～	2
現代家族論 2	基盤専門	1年～	2
比較福祉論 1 (2020年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
比較福祉論 2 (2020年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
日常生活の社会学	基盤専門	1年～	2
社会問題の社会学 1	基盤専門	1年～	2
社会問題の社会学 2	基盤専門	1年～	2
ソシオダイナミクス 1	基盤専門	1年～	2
ソシオダイナミクス 2	基盤専門	1年～	2
Environmental Law in Japan	基盤専門	1年～	2
Japan in the Age of Globalization	基盤専門	1年～	2
Politics in Modern Japan	基盤専門	1年～	2
Social Issues in Modern Japan (2017年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
The Japanese of the 20th Century: The Immigrant Experience (2017年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
The Japanese of the 20th Century: Work, Culture, and Society	基盤専門	1年～	2
Trans-Pacific Perspectives on Race, Ethnicity, and Migration	基盤専門	1年～	2
Trans-Pacific Perspectives on Work, Culture, and Society	基盤専門	1年～	2
Understanding the Japanese Economy: Macroeconomic Perspectives	基盤専門	1年～	2
Understanding the Japanese Economy: Microeconomic Perspectives	基盤専門	1年～	2
Women in Modern Japan: Contemporary Japanese Women	基盤専門	1年～	2

Themes & Subjects

平和研究/ *Peace Studies*

1. 概要

平和研究の射程は広い。平和の反対は戦争ではなく、「平和ならざる状態」(Peacelessness)であると言ったのは、インドのスガタ・ダスグプタであった。また、平和研究者として著名なヨハン・ガルトゥングは構造的暴力という概念を提起した。つまり、現代社会には物理的暴力のみならず、貧困、格差、人権抑圧、環境破壊など様々な脅威が存在し、人びとの日常性を脅かしている現実を指摘する。そこで、戦争や紛争などの物理的暴力が不在な状態は消極的平和と呼び、構造的暴力がなくなって初めて積極的平和と呼ぶことができると述べている。したがって、本平和研究は、ガルトゥングの積極的平和に基づき関連科目が設置されている。平和学Ⅰ、平和学Ⅱは、本平和研究の基本的枠組みを理解する必須の科目である。

しかし他方で、社会科学としての平和研究である以上、広く国際関係論、国際政治学などの理論的枠組みの理解は必要になる。また、応用科目としての平和構築論は、平和研究の諸理論を基礎としながらも実践的な科目として、紛争の再発の芽を摘むことに主眼がある。現代の紛争原因は言うまでもなく多様である。植民地独立戦争から、東西冷戦時代は米国・ソ連の代理戦争を背景とした国家間紛争、冷戦後は宗教、言語などエスニシティなどを理由する国内紛争、さらにはテロリストとの紛争と、非対称的紛争が増大している。

紛争の原因となる様々な理由を理解すると同時に、紛争後の社会を平和な社会に転換するうえで必要な国際協力の在り方を平和研究の視点から学ぶことが求められる。平和構築論は上記したように実践的応用科目である。その点で、現場の視点を学ぶうえで、フィールド経験を積む必要がある。紛争解決論実習 1、2、3は、紛争後、あるいは紛争を抱える社会を訪問することで、平和構築の現実を理解する絶好の機会になる。

また、平和構築に取り組むアクターは、政府や非政府組織(NGO)、主権国家の集合体である国際機関、援助機関、地方自治体など多様である。政府に関わる援助体制を理解するうえで国際開発制度論は重要であり、国際 NGO 協力論は NGO の視点からみた国際協力を知るうえで必要になる。なお、英語学位プログラム科目として、日本を視点にして上記科目を理解する科目群が設置されている。一般プログラムの学生は英語で、TAISI の学生は日本語で平和研究の理解を互いの議論を通じて深めることを目指している。

(1) 平和研究のための基本的科目群(学部2年生以下向け)

平和研究の基本的な枠組みを平和学Ⅰで学ぶ。平和研究がなぜ学問として生まれたのか。国際社会に「平和ならざる状態」がいかに存在しているのかを理解する。また、同状態が多くみられる途上国を概観することも有益である。なおTAISI科目では、Japan in East Asia: Basic Studies、War and Japan、Japan and Peacebuilding: UN Policies、Japan in East Asia: Contemporary Social Issues、Educational Development in Developing Countriesなどで平和研究の理解を深めることが可能である。

(2) 平和研究を深める応用的科目群(学部3年以上向け)

平和研究の基本的な知識や概念の理解を前提に、次に具体的なイシューで平和研究の理解を深める必要がある。平和学Ⅱは構造的暴力とは何かを考えるうえで必須である。また、応用科目として平和構築論、国際 NGO 協力論、国際開発制度論、人間の安全保障論、国際教育協力論、日本との関連からは TAI SI 科目群から、Japan and Peacebuilding: Asian Policies、Development Assistance by Japan: ODA and NGOs、Contemporary Japanese Foreign Policy が該当する。最後に、平和研究をいっそう理解するうえでフィールド・スタディーズが求められる。本学部が提供する紛争解決論実習 1、2、3に参加することを勧める。

2. 修了必要単位：12単位（必須科目2単位、選択科目10単位）

※ただし日本語・英語の科目群からそれぞれ2単位以上を修得すること

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
平和学 I	基盤専門	1年～	2

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
平和学 II	先進専門	2年～	2
平和学 II - 1（平和と戦争）（2019年度以前履修分）	先進専門	2年～	2
平和学 II - 2（貧困・格差・人権・環境と平和）（2019年度以前履修分）	先進専門	2年～	2
平和構築論	先進専門	3年～	2
紛争解決論実習 1	先進専門	2年～	2
紛争解決論実習 2	先進専門	2年～	2
紛争解決論実習 3	先進専門	2年～	2
第三世界論(2018年度以前履修分)	先進専門	3年～	2
国際NGO協力論	先進専門	3年～	2
国際開発制度論	先進専門	3年～	2
人間の安全保障論	先進専門	3年～	2
国際教育協力論	先進専門	3年～	2
Japan in East Asia: Basic Studies	基盤専門	1年～	2
Japan in East Asia: Contemporary Social Issues	基盤専門	1年～	2
Development Assistance by Japan: ODA and NGOs	基盤専門	1年～	2
Contemporary Japanese Foreign Policy	基盤専門	1年～	2
War and Japan	基盤専門	1年～	2
Education and Development	先進専門	2年～	2
Japan and Peacebuilding: UN Policies	先進専門	3年～	2
Japan and Peacebuilding: Asian Policies	先進専門	3年～	2

Themes & Subjects

日本の歴史と文化/ Japanese History and Culture**1. 概要**

歴史和解が達成されていない東アジアにおいて、地域研究の一領域としての「日本研究」は各国のコンテキストの中で展開されている。例えば、中国と韓国の研究者がもっている近代の日本像と、日本人研究者がもっているそれとの距離を縮めることは難しい。日本研究をめぐる知的交流の停滞は、学問の進歩のみならず、この地域の国際関係の安定にも大きな影響を及ぼしている。

いままでの「日本研究」は「アジア研究」から独立し、「日本的空間」のなかに存在してきた。その結果、日本の「独自性」が特別に強調されてきた。しかし、19世紀以来のアジアの歩みには、戦争と革命はいままでもなく、社会・経済の近代化や文化の伝達と発展など、どの分野からみても、日本が深く関わってきたことは周知の通りである。日本研究の範囲を広げ、アジア研究のなかに日本研究を取り入れ、さらに世界のなかの日本という問題意識を確立させることは、グローバルな日本理解と、世界が共有する「日本研究」にとって不可欠な作業である。

大学教育の国際化が進むなか、早稲田大学の学生には世界に向けて、「日本」を伝える能力が求められている。一方、外国からの留学生は、異文化としての「日本」への理解を渴望しているのみならず、アジアのなかの「日本」、世界のなかの「日本」についての幅広い知識と情報への関心も高い。

このアカデミックカテゴリーは、アジア諸国の歴史と文化との関係を意識しながら、日本の歴史と文化に対する理解を深めることを目的とする。日本の歴史と伝統文化は本アカデミックカテゴリーの重要な柱であるが、近代以降、日本が経験した成功と失敗の歴史と、このような歴史のなかで形成された新たな文化への探求も重要な内容となる。とりわけ、戦後の日本はアジアのどの国よりも、環境問題、高齢化問題、エネルギー問題、自然災害などの問題をたくさん経験し、多くの経験を蓄積してきた。教員と学生とのコミュニケーションを深めながら、「日本経験」をアジアの公共財に育て上げていきたい。

2. 修了必要単位：12単位（選択科目のみ）

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
歴史学（日本史）1	基盤専門	1年～	2
歴史学（日本史）2	基盤専門	1年～	2
歴史学（日中関係史）1	基盤専門	1年～	2
歴史学（日中関係史）2	基盤専門	1年～	2
日本文学1〔古典と近代〕	基盤専門	1年～	2
日本文学2〔近代と現代〕	基盤専門	1年～	2
日本文化論	基盤専門	1年～	2
漢字文化圏論1	基盤専門	1年～	2
漢字文化圏論2	基盤専門	1年～	2
日本研究1	基盤専門	1年～	2
日本研究2	基盤専門	1年～	2
Japan and World War II: Historical Controversies	基盤専門	1年～	2
Women in Modern Japan: Outside Encounters and Early Changes	基盤専門	1年～	2
日本文化研究	先進専門	2年～	2
Urban History of Tokyo	先進専門	3年～	2

Themes & Subjects

アメリカ研究 / American Studies

1. 概要

アメリカ研究は国内外の主要な大学に講座が設置されている確立された研究分野です。アメリカ合衆国は軍事、政治、経済、社会、文化、メディアにおいて世界に大きな影響を与えています。

対米戦争で日本が敗北し、占領を受けたこともあり、戦後の日本の諸制度を理解するうえでも、アメリカ合衆国について知ることは必要です。今後も日本とのかかわりは深くなり、重要性も大きくなると考えられます。

しかしながら、この国はさまざまな文化と価値観を持った移民たちによって建国され、地域的多様性の大きい州の連合体である「合衆国」なので、それを理解するには多角的、学際的アプローチが必要になります。

このアカデミックカテゴリーでは、政治、社会、文化、メディアの各分野の多角的、学際的視点からアメリカ合衆国を総合的に深く理解することを目指します。

政治にかかわる領域

現代政治制度論(アメリカ)、現代政治分析(アメリカ)

社会にかかわる領域

ポピュラー・カルチャーの社会科学

文化にかかわる領域

公共文化論 1

メディアにかかわる領域

メディア論 1、メディア論 4 (隔年開講)

履修可能学年は以下の通り

「現代政治制度論」および「公共文化論」2年以上、「現代政治分析」3年以上、その他科目は1年以上

2. 修了必要単位：8単位（必須科目6単位、選択科目2単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
ポピュラー・カルチャーの社会科学	基盤専門	1年～	2
メディア論 4	基盤専門	1年～	2
現代政治制度論（アメリカ合衆国）	基盤専門	2年～	2

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
メディア論 1	基盤専門	1年～	2
公共文化論 1	先進専門	2年～	2
現代政治分析（アメリカ合衆国）	先進専門	3年～	2

Themes & Subjects

社会調査 / Social Research

1. 概要

社会調査は、社会科学において新しい知見を得る手段や、理論や仮説の実証的検証の手段として、学術研究に欠かせない手法です。また、官公庁が行う統計調査や世論調査は基礎的なデータを得る上で、マス・メディアが行う世論調査や選挙予測調査は世論や政治動向を知る上で、企業が行うマーケティング・リサーチは消費者の動向やニーズを知る上で、それぞれ欠かせないものになっています。このように社会調査は、社会のさまざまな分野で人びとの動向を知る有用な手段として活用されています。

これらの調査の手法は、量的データを得るための定量調査と、質的データを得るための定性調査の大きく二つに分類されます。それぞれにさまざまな技法が存在しますが、これらの技法の実際の調査現場での適用は、調査課題によって定量調査・定性調査の一方の技法が用いられたり、両者の技法が併用されたりします。

本アカデミックカテゴリーでは、これらの調査技法のうち、定量調査における基本的な技法のひとつである質問紙調査法を中心に、社会科学のさまざまな分野で必要となる調査の方法と分析技法を学びます。

本アカデミックカテゴリーは、本学部が提供する社会調査士カリキュラムのうち、講義科目のみによって構成されています。本アカデミックカテゴリーの履修に加え、実習科目（「ソーシャル・リサーチ」または「紛争解決論実習」）を履修すれば、社会調査士資格の取得が可能です。

2. 修了必要単位：10～12単位（必須科目8単位、選択科目2～4単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
社会調査の基礎	コア科目	1年～	2
社会調査法 1	基盤専門	1年～	2
社会統計の読み方	基盤専門	1年～	2
統計解析の基礎（2020年度以前履修分）	コア科目	1年～	2
統計リテラシーα（フルオンデマンド）	初年次教育 または他箇所科目	1年～	1
統計リテラシーγ（フルオンデマンド）	コア科目 または他箇所科目	1年～	1

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
社会調査法 2	基盤専門	1年～	2
社会科学のための数学	基盤専門	1年～	4

3-2. 各ゼミナールにおいて履修が望まれる科目

2年次より「ゼミナール」履修が開始します。一部ゼミナールでは、担当教員が「履修が望まれる科目」を設定しています。これは必修や前提科目ではなく、既得か同時履修または今後の履修が望まれる科目のことで、科目選択の指針のひとつとしてください。関連科目を設けていないゼミナールは、下記表に掲載されていません。各ゼミナール、科目の詳細については Web シラバスを参照してください。

なお、ゼミナール履修は卒業要件ではありませんが、例年約9割の学生が履修しています。

テーマ (担当教員)	ゼミナールⅠ関連科目	ゼミナールⅡ・Ⅲ関連科目
政策科学研究 (上沼 正明)	—	—
比較経済史研究 (君塚 弘恭)	—	歴史学 (アジア史) 1・2、 歴史学 (ヨーロッパ史) 1・2、比較経済史 1
人口と家族の比較研究 (小島 宏)	—	—
労働研究 (篠田 徹)	—	—
ヨーロッパ市民社会研究 (鈴木 規子)	フランス語	EU 地域研究 I・II、ヨーロッパ市民社会論 I・II、フランス語
現代社会学研究 (周藤 真也)	社会学入門、現代社会学の方法、観光学	社会意識論、現代社会学の方法、観光学
組織・人材マネジメント (鄭 有希)	組織行動論、国際的資源マネジメント I・II	組織行動論、国際的資源マネジメント I・II
福祉社会研究 (寺尾 範野)	比較近代社会思想 1・2	比較近代社会思想 1・2
多国籍企業の研究 (長谷川 信次)	経営学、社会科学のための基礎コンピュータ	—
開発・環境社会学研究 (浜本 篤史)	社会学入門、環境社会学 1・2	社会学入門、環境社会学 1・2
社会保障と人権 (棟居 徳子/菊池 馨美)	社会保障の法と政策 1、国際人権論 1、健康と人権	社会保障の法と政策 1、国際人権論 1・2
社会科学の哲学 (吉田 敬)	社会科学の基礎	社会科学方法論
マスメディア研究 (有馬 哲夫)	メディア論 1・2	メディア論 1・2
近現代日本社会研究 (ゲイル カーティス アンダーソン)	—	—
公共文化研究 (小長谷 英代)	—	—
メディアと言語の研究 (笹原 宏之)	漢字文化圏論 1・2、言語表現論 1・2	漢字文化圏論 1・2、言語表現論 1・2
哲学・倫理学 (千葉 清史)	政治学史、近代経済社会思想史、社会科学の基礎	政治学史、近代経済社会思想史、社会科学の基礎
スペイン語圏の社会と文化 (寺尾 隆吉)	スペイン語	スペイン語
日本文化研究 (内藤 明)	日本文化論	日本文化論、日本文化研究
異文化コミュニケーション研究 (花光 里香)	異文化コミュニケーション論	異文化コミュニケーション論
多言語社会の会話研究 (古川 敏明/山下 里香)	英語圏の社会と文化 1・2、 Sociolinguistics and Multilingualism	英語圏の社会と文化 1・2、 Sociolinguistics and Multilingualism
中国研究 (劉 傑)	歴史学 (日中関係史) 1、中国研究 1・2	歴史学 (日中関係史) 1、中国研究 1・2
環境及び資源経済学研究 (赤尾 健一)	経済学入門 (ミクロ、マクロ)、計量経済学、環境科学概論	経済学入門 (ミクロ、マクロ)、計量経済学、環境科学概論
都市・コミュニティデザイン (卯月 盛夫)	参加のデザイン技術、社会デザイン実習 1・3、 地域計画システム論 I・II	参加のデザイン技術、社会デザイン実習 1・3、 地域計画システム論 I・II
農村デザイン研究 (落合 基継)	地域計画システム論 I・II、農と地域社会 (総合講座)、 農からの社会連携 (実習) I、 JA 共済寄附講座 農からの社会連携 (実習) II	地域計画システム論 I・II、農と地域社会 (総合講座)、 農からの社会連携 (実習) I、 JA 共済寄附講座 農からの社会連携 (実習) II
空間映像研究 (佐藤 洋一)	社会デザイン実習 1・3、環境表現論 I・II	社会デザイン実習 1・3、環境表現論 I・II
都市再生アクションリサーチ (早田 幸)	—	—
人類進化モデル (中橋 渉)	理論人類学 1・2、社会、社会科学のなかの自然科学	理論人類学 1・2、社会、社会科学のなかの自然科学
政治思想研究 (厚見 恵一郎)	政治学史 I・II	政治学史 I・II
比較政治研究 (池谷 知明)	比較政治制度論 1・2	比較政治制度論 1・2
行政・地域自治研究 (稲生 信男)	地域自治論 1・2	行政学 I・II
アメリカ政治研究入門/現代アメリカ政治過程の研究 (今村 浩)	—	—
選挙・世論研究 (遠藤 晶久)	現代選挙論 1・2、政治分析	現代選挙論 1・2、政治分析
国際関係研究 (奥田 元)	国際関係論入門、国際関係論	国際関係論入門、国際関係論
人間の安全保障 (利根川 佳子)	国際関係論入門	人間の安全保障論、国際関係制度論、国際教育協力論
平和学研究 (堀 芳枝)	平和学 I・II、国際関係論入門	平和学 I・II、国際関係論入門
国際協力と平和構築 (山田 満)	国際関係論	国際関係論
会社法の研究 (川島 いづみ/林 孝宗)	—	会社法 2 (会社のファイナンス)、 金融商品取引法 1
環境法政策研究 (黒川 哲志/辻 雄一郎)	—	—
現代社会における基本的人権と民主主義 (阪口 正二郎)	憲法 I	憲法 I・II
雇用社会の法 (鈴木 俊晴)	雇用関係法 I・II	雇用関係法 I・II
刑法研究 (仲道 祐樹)	刑法総論 I、刑法各論 1	刑法総論 I・II、刑法各論 1・2
国際経済法研究 (福永 有夏/清水 章雄)	国際法 1、国際経済法 1	国際法 2、国際経済法 2
医療と法 (横野 恵)	医事法、生命倫理と法 1・2	医事法、生命倫理と法 1・2
契約法研究 (吉田 和夫)	私法入門 (市民と法)	私法入門 (市民と法)
応用計量経済学研究 (荒井 洋一)	統計リテラシー-a、β、γ、 社会科学のための回帰分析 I	社会科学のための回帰分析 I・II
応用マクロ経済学研究 (及川 浩希)	マクロ経済学、ミクロ経済学 I・II	マクロ経済学、ミクロ経済学 I・II、 社会科学のための回帰分析 I・II
制度設計の経済学 (笠島 洋一)	ミクロ経済学 I・II	ミクロ経済学 I・II
国際経済と金融システム (北村 能寛)	経済学入門 1 (ミクロ経済学)、 経済学入門 2 (マクロ経済学)、 Introduction to Economics	経済学入門 1 (ミクロ経済学)、 経済学入門 2 (マクロ経済学)、 Introduction to Economics
世界経済の研究 (弦間 正彦)	経済学入門 1 (ミクロ経済学)、 経済学入門 2 (マクロ経済学)、 ミクロ経済学 I・II	経済学入門 1 (ミクロ経済学)、 経済学入門 2 (マクロ経済学)
ゲーム理論とその応用 (戸田 学)	ゲーム理論の基礎、ミクロ経済学 I・II	ゲーム理論の基礎、ミクロ経済学 I・II
情報産業の経済分析 (土門 見二)	産業組織論、経営のための経済学	産業組織論、経営のための経済学
経済と環境の実証分析 (篤津 明由)	産業構造論、環境の産業連関分析	産業構造論、環境の産業連関分析
企業活動の研究 (井上 正)	経営学、経営学入門	経営学、経営学入門
企業財務論研究 (葛山 康典)	証券論、社会科学のための数学	企業財務論、金融データ解析 1・2
財務会計研究 (菅野 浩勢)	会計学、簿記、経営分析	会計学、簿記、外部報告会計論
経営科学 (須子 統太)	経営科学 1、ビジネスのためのデータサイエンス、 社会科学のための基礎コンピュータ	経営科学 1・2、ビジネスのためのデータサイエンス
情報科学 (中島 健一)	情報科学論	生産システム論、品質管理
マーケティング管理研究 (野口 智雄)	マーケティング入門、流通論 I・II	マーケティング入門、流通論 I・II

4. 社会科学部以外で履修できる科目

社会科学部では、学生の学習の自由度を高めるため、社会科学部の科目以外にも、本学他箇所や協定他大学が提供する「全学オープン科目※」を卒業算入単位に含めることができます（在学中最大 36 単位まで）。また、社会科学部のカリキュラムとしては卒業単位には算入できない科目も、ご自身の進路、研究や興味に合わせて履修が可能です（教職科目等）。単位の算入区分については、P.44 をご確認ください。

※全学オープン科目とは、学生の所属学部を問わず全学に提供されている科目で、各学部・グローバルエデュケーションセンター（以下 GEC）・留学センター・協定他大学より提供されています。

グローバルエデュケーションセンター（GEC）提供 全学オープン科目 (<https://www.waseda.jp/inst/gec/>)

GEC では、全学部・全研究科の学生が、専門分野に限らず全く異なる分野も学習できる多種多様な科目を展開しています。

すべての学問の基礎となる大学生の必須スキルとして、アカデミック・ライティング科目、数学科目、データ科学科目、情報科目、英語科目、国際教育科目、日本語教育科目を提供します。また、早稲田大学以外では学ぶ機会の少ない言語科目や、多数の特色あるスポーツ実習等も設置しています。人間的力量と呼ばれる科目群には、国内・海外での実習や企業等と協同で実施するワークショップといった問題解決型・体験型の実践的な学びを多く取り入れています。

※GEC 提供科目のうち、インターンシップ科目は在学中最大 2 単位まで、保健体育科目は 4 単位まで卒業算入単位として扱うことができます。また、GEC 提供の言語科目のうち、1 年次に「英語 1 - 2」として履修する「Tutorial English」、および「教養外国語」として履修する「イタリア語」「朝鮮語」の各科目については他箇所提供科目の卒業算入上限（36 単位）には含まれません。

他学部提供 全学オープン・聴講科目

他学部が自箇所学生以外にも履修を認める科目については、社会科学部生も履修することができます。他学部が提供する科目には、全学オープン科目と他学部聴講科目があります。

【全学オープン科目】 GEC が提供する全学オープン科目と同じく、学生所属学部に関係なく履修を認める科目です。他学部が公開している科目を、1 次登録から登録することができ、修得した単位は卒業算入単位に含めることができます。

【他学部聴講科目】 他学部が自箇所学生以外の履修を認め、自箇所学生の登録を優先したのち、定員に余裕があれば開放される科目です。3 次登録から登録することができますが、修得した単位は卒業算入単位には含まれません。

※他学部聴講科目のうち、政治経済学部、法学部、商学部の提供の一部科目は、基盤専門科目として卒業単位に算入できます。これらの学部は、社会科学部とは異なった特徴を持っていますので、強い専門性を志向する学生の皆さんの履修を推奨しています。但し、科目登録は 3 次登録に限られていますので、科目提供学部の学生で定員に達している場合には履修ができません。

協定他大学 提供科目 (https://www.waseda.jp/inst/gec/undergraduate/other_univ/)

早稲田大学は協定を結んでいる他大学と互いに科目を提供しあっています。早稲田大学には設置されていない各大学特有の科目も多くラインナップされており、登録の選択肢も広がります。他大学からの提供科目も所属学部のルールに従い卒業単位に算入することが可能です。履修は 2 年生以上が対象ですが、一部科目については、1 年生も履修可能です（詳細は「全学オープン科目履修ガイド」で確認できます）。

留学センター 提供科目 (<https://www.waseda.jp/inst/cie/>)

留学センターは、海外からの留学生受入れや早大生の海外留学支援はもちろん、国際教育プログラムの実施拠点として、留学プログラムと連動し、留学先で履修できる科目、外国語学習・テーマ研究・異文化体験を中心とした短期留学科目のほか、海外の学生とともに授業を本学で履修するサマーセッション科目、海外大学からの教員を招へいして実施する「International Japanese Studies」の科目など、独自の科目を学部生に提供しています。

教育学部提供 資格関連科目（教職課程、図書館司書など）

社会科学部生も教育学部提供の資格関連科目を履修することで、教員免許・図書館司書・博物館学芸員などの資格取得が可能です。教育学部提供の資格関連科目はすべて、卒業算入単位として扱われません（自由科目）。

資格取得に必要な科目詳細については、教育学部発行の「教職課程履修の手引き」および本冊子「第三章 資格」を確認してください。

社会科学研究科提供科目

4 年生以上の学生は、担当教員の承認があれば、年間 8 単位まで社会科学研究科提供の講義科目履修が可能です（先取り履修制度）。社会科学部の卒業算入単位としては扱われませんが、社会科学研究科入学後、最大 10 単位まで修了単位として認定可能です。

※ 4 年生以上の学士入学者は年間 4 単位まで「先進専門科目」として履修可能

II. 科目登録の手続き

◆ 共通コンピュータールーム開室日程

早稲田大学全体で利用できる PC ルームの開室状況については、早稲田大学 IT サービスナビより確認できます。

早稲田大学 IT サービスナビ → (左メニュー) コンピュータールームガイド

URL: <https://www.waseda.jp/navi/room/index.html>

1. 科目登録手続きのながれ

科目登録の手続きは、科目の設置箇所、および科目区分ごとに、時期と方法が異なります。下記①～⑪の詳細説明を参照し、科目登録に臨んでください。

①	必修科目の受講形態（対面・オンライン）についての希望調査
②	新入生必修科目登録
③	在学生自動登録
④	初年次教育再履修自動登録（秋学期）
⑤	英語 2 - 2 登録
⑥	必修外国語再履修登録
⑦	1 次登録
⑧	2 次登録
⑨	3 次登録
⑩	英語 1 - 2（Tutorial English）の登録
⑪	ゼミナル継続者・合格者の登録
⑫	他箇所（社会科学部以外）科目の登録手続き

① 必修科目の受講形態（対面・オンライン）についての希望調査

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、今年度に限り、対面とオンラインの 2 つの形式で必修科目を実施します。

基礎疾患のある学生や日本に入国できない学生は「オンライン受講を希望する」とご回答ください。

[対象者] 1 年生 / 新 2 年生

[申請期間] 1 年生 : 入学前の新入生必修科目登録時

新 2 年生 : 2 月中旬～2 月下旬

[回答方法]

対象者	申請方法	詳細
1 年生	Web 入学手続き画面	Web 入学手続き画面にて「受講形態」の設問に回答してください。「オンライン受講を希望する」と回答した学生にはオンラインで実施するクラス（必修英語科目、教養外国語科目、コア科目）が自動登録されます。新入生必修科目登録の詳細については「2021 年度 新入生 必修科目登録の手引き」をご確認ください。
新 2 年生	申請フォーム	2 月中旬に事務所から「必修科目の受講形態についての希望調査」をメールにて発信しますので、記載 URL から申請フォームにアクセスして設問にご回答ください。「オンライン受講を希望する」と回答した学生にはオンラインで実施する必修英語科目（「英語 2-1」）が自動登録されます。

[注意事項]

- Web 入学手続き画面で、「オンライン受講を希望する」を選択した 1 年生が対面でのみ実施するコア科目を選択した場合は無効となり登録されません。
- 「英語 2-2」は自身で選択して登録します。オンラインでの受講を希望する学生はシラバス等で事前に授業の実施形態をご確認ください。

① 新入生必修科目登録

新入生必修科目登録は、入学前までに完了します。詳細は「2021 年度 新入生 必修科目登録の手引き」を参照してください。

入学時 WeTEC スコア上位者の履修科目について

- 入学時に受験した WeTEC スコア上位者は必修英語科目のうち「英語 1 - 1」・「英語 2 - 1」・「英語 2 - 2」の代替として、「グローバルラーニング」、「社会科学部英語学位プログラム提供科目」あるいは「グローバルエデュケーションセンター提供英語科目※」のいずれかを履修します。

- 対象者は個別に連絡します。

- 科目登録期間中に MyWaseda から申請を行ってください。

※グローバルエデュケーションセンター提供英語科目（実験実習料が必要です）

・Tutorial English

・Critical Reading and Writing

② 在学生自動登録

[対象者] 2年生以上

[申請期間] なし

[対象科目]

通常／再履修	対象科目	申請方法	詳細
通常	英語 2 - 1	申請不要	基本的には、入学時に受験した WeTEC のスコアに対応したクラスが春学期と秋学期にそれぞれ自動登録されます。なお、オンラインクラスの受講を希望する場合は、2月中旬に実施する「受講形態についての希望調査」で「オンライン受講を希望する」と回答してください。
	ゼミナル	申請不要	前年度中に実施したゼミナル継続判定、および募集の結果に基づき自動登録されます。なお、継続履修を希望しない場合、および延長生がゼミナル履修を希望する場合、個別手続きが必要です。詳細は P.39 を参照してください。

③ 初年次教育再履修自動登録（秋学期）

[対象者] 1年生 ※初年次教育の科目を再履修する必要がある学生のみ

[申請期間] なし

[対象科目]

通常/再履修	対象科目	申請方法	詳細
再履修	ラーニング・コミュニティ	申請不要	再履修クラスである Y・Z クラスが秋クォーターに自動登録されます。
再履修	学術的文章の作成	申請不要	秋クォーターのクラスが自動登録されます。
再履修	統計リテラシー	申請不要	不合格だったクラスが秋クォーターに自動登録されます。

[注意事項]

- ・「ラーニング・コミュニティ」は合格するまで再履修クラスが秋クォーターに自動登録されます。
- ・「学術的文章の作成」「統計リテラシー」の再履修クラスが不合格になった場合は、再履修科目を1次～3次登録期間にご自身で登録してください。

④ 英語 2 - 2 登録

[対象者] 2年生以上（特に新2年生）

[申請期間] 春学期：3/9(火) 10:00 ～ 3/10(水) 17:00

秋学期：9/7(火) 10:00 ～ 9/8(水) 17:00

[対象科目]

通常/再履修	対象科目	申請方法	詳細
通常	英語 2 - 2	MyWaseda	〔春学期〕 Web 科目登録で第5希望まで申請可能です（希望順位登録方法は P.58 参照）。オンラインクラスも設置しているので、オンラインでの受講を希望する学生はそちらを選択してください。なお、A クラス（基礎クラス）は、自己推薦入試、附属・系属推薦制度による入学者のみ申請できます。 〔秋学期〕 基本的には春学期と同じクラスが秋学期に自動で登録されます。ただし、以下の注意事項に当てはまる場合にはクラス変更が可能です。

[注意事項] 英語 2 - 2（秋学期）のクラス変更に関して

- ・2年生以上で英語 2 - 2（春学期）が不合格（FまたはG）の場合、秋学期のクラスの変更を認めます。9/7(火) 10:00 ～ 9/8(水) 17:00の間に**社会科学部事務所で手続きを行ってください。**
- ・春学期に実施されるゼミナル I 選考にて合格したゼミナルと英語 2 - 2（秋学期）の曜日時限が重複した場合は、英語 2 - 2（秋学期）が自動的に取り消しとなります。対象者にはこちらからご連絡致しますので、9/7(火) 10:00 ～ 9/8(水) 17:00の間にゼミナルと曜日時限が重複しないクラスをMyWasedaから第5希望まで登録申請してください。

⑤ 必修外国語再履修登録

[対象者] 2年生以上（特に新2年生） ※必修外国語を再履修する必要がある学生のみ

[申請期間] 春学期：3/9(火) 10:00 ～ 3/10(水) 17:00、 秋学期：9/7(火) 10:00 ～ 9/8(水) 17:00

[対象科目]

通常/再履修	対象科目	申請方法	詳細
再履修	英語 1 - 1	MyWaseda	再履修クラスである Y・Z クラスから、第 2 希望まで申請可能です。
	英語 1 - 2	MyWaseda	Tutorial English ではなく、社会科学部設置の「英語 1 - 2（春学期・秋学期）」を必要な単位数分履修する必要があります。A・B クラスから第 2 希望まで申請可能です。
	英語 2 - 1	MyWaseda	再履修クラスである Y・Z クラスから、第 2 希望まで申請可能です。
	英語 2 - 2	MyWaseda	Web 科目登録で第 5 希望まで申請可能です（希望順位登録方法は P.58 参照）。 なお、A クラス（基礎クラス）は、自己推薦入試、附属・系属推薦制度による入学者のみ申請できます。
	教養外国語 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語	MyWaseda	春学期の単位を未修得の場合は春学期に、秋学期の単位を未修得の場合は秋学期にそれぞれ申請してください。なお、開講クラスの授業形態（対面・オンライン）は、シラバス等でご自身でご確認ください。 <ドイツ語・フランス語 選択者> A～E クラスの中から第 5 希望まで申請可能です。 <中国語・スペイン語 選択者> 再履修クラスの Y・Z クラスの中から第 2 希望まで申請可能です。
	教養外国語 イタリア語 朝鮮語	申請フォームでの登録	社会科学部事務所からの案内にしたがって、申請フォームでの登録となります。 春学期の単位を未修得の場合は春学期に、秋学期の単位を未修得の場合は秋学期にそれぞれ申請してください。

[注意事項]

- ・「本登録期間に再履修登録の申請を忘れた」もしくは「希望した全クラスが選外になった」場合、1 次登録・2 次登録期間に、定員に余裕があるクラスに限り、Web 科目登録を受け付けます。（イタリア語・朝鮮語の再履修者も同様に Web での受け付けとなります）。
- ・必修英語ならびに教養外国語の再履修の申請期間は、単位の修得状況によって異なります。
(1)春学期のみ未修得の場合は春学期に科目登録を行ってください。
(2)秋学期のみ未修得の場合は秋学期に科目登録を行ってください。
(3)春学期・秋学期ともに未修得の場合は学期ごとに科目登録を行ってください。
- ・教養外国語が日本語選択者の方は、1 次登録期間以降に再履修登録を行ってください。

◆ 休学・留学をした場合の必修外国語の取り扱いに関して

休学・留学等で英語 2 - 2（春学期）または（秋学期）の履修をとりやめた場合、復学後は改めてご自身で登録する必要があります。必修外国語再履修登録の時期に必ず登録を行ってください。

英語 2 - 1 は未履修分が自動登録されますので、ご自身で登録する必要はありません。

なお、英語 1 - 1、英語 1 - 2、英語 2 - 1、英語 2 - 2、教養外国語を一度履修したものの不合格の状態で休学・留学した場合は復学後の再履修登録期間に、再履修科目をご自身で登録する必要がありますのでご注意ください。

⑥ 1次登録

[対象者] 全学年

[申請期間] 春学期：<在学生>3/18(木) 10:00～3/20(土) 17:00、<新入生>3/29(月) 10:00～3/31(水) 17:00
秋学期：<全学年共通>9/15(水)10:00～9/17(金) 17:00

[対象科目]

対象科目	申請方法	詳細
英語2-2	MyWaseda	Web 科目登録で第5希望まで申請可能です。 秋学期クラスは春学期と同じクラスが秋学期に自動登録されます。
教養外国語	MyWaseda	<日本語 選択者> 日本語教育研究センター発行の「日本語科目 登録の手引き・講義要項」を参照のうえ、Web 申請してください。
選択外国語	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
コア科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。 【新入生】 新入生必修科目登録にて登録されたコア科目だけでは卒業要件（14単位）を満たしません。1年次に更なるコア科目の履修を希望する場合は、1次登録以降に MyWaseda にてご自身で登録申請してください。
基盤専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
先進専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
社会科学総合研究	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
英語学位プログラム科目	MyWaseda	英語学位プログラム設置科目の中でも、全学オープン科目に指定された科目（P.88 参照）は1次登録期間に申請可能です。WeTEC スコア上位の学生（P.34 参照）は1次登録期間から英語学位プログラム設置科目を必修英語の代替として登録申請することが出来ます。
全学オープン科目 ※他学部提供科目含む	MyWaseda	全学オープン科目のうち、他学部提供科目については1次登録期間中のみ申請可能です。2次登録期間以降は申請できません。
教職等資格関連科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。

[注意事項]

- ・ 新入生必修科目登録・在学生自動登録・英語2-2登録・必修外国語再履修登録の結果、定員に達した科目には申請できません。

◆ 1次登録期間の必修外国語の再履修登録に関して

「英語1-1」、「英語1-2」、「英語2-1」、「英語2-2」、「教養外国語」の再履修登録は1次登録期間前に受け付けていますが、登録を忘れた、もしくは希望した全クラスが選外になった場合、1次登録・2次登録期間に、定員に余裕があるクラスに限り、Web 科目登録を受け付けます（イタリア語・朝鮮語の再履修者も同様に Web での受付となります）。どの科目を登録するか等、再履修科目の登録詳細に関しては、P.36 をご確認ください。

⑦ 2次登録

[対象者] 全学年

[申請期間] 春学期：4/5(月) 10:00 ～ 4/6(火) 17:00、 秋学期：9/24(金) 10:00 ～ 9/25(土) 17:00

[対象科目]

対象科目	申請方法	詳細
英語 2 - 2	MyWaseda	Web 科目登録で第 5 希望まで申請可能です。 秋学期クラスは春学期と同じクラスが秋学期に自動登録されます。
選択外国語	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
コア科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
基盤専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
先進専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
社会科学総合研究	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
全学オープン科目 ※他学部提供科目除く	MyWaseda	全学オープン科目のうち、他学部提供科目については 1 次登録期間中のみ申請可能です。 2 次登録期間以降は申請できません。
教職等資格関連科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。

[注意事項]

- ・ 1 次登録までの結果、定員に達した科目には申請できません。

◆ 2 次登録期間の必修外国語の再履修登録に関して

「英語 1 - 1」、「英語 1 - 2」、「英語 2 - 1」、「英語 2 - 2」、「教養外国語」の再履修登録は 1 次登録期間前に受け付けていますが、登録を忘れた、もしくは希望した全クラスが選外になった場合、1 次登録・2 次登録期間に、定員に余裕があるクラスに限り、Web 科目登録を受け付けます（イタリア語・朝鮮語の再履修者も同様に Web での受付となります）。どの科目を登録するか等、再履修科目の登録詳細に関しては、P.36 をご確認ください。

⑧ 3次登録

[対象者] 全学年

[申請期間] 春学期：4/9(金) 10:00 ～ 4/10(土) 17:00、 秋学期：9/30(木) 10:00 ～ 10/1(金) 17:00

[対象科目]

対象科目	申請方法	詳細
教養外国語	MyWaseda	<日本語 選択者> 日本語教育研究センター発行の「日本語科目 登録の手引き・講義要項」を参照のうえ、Web 申請してください。 なお、日本語教育研究センターの科目に限り、3 次登録期間中に取り消し、および算入科目区分の変更が可能です。
コア科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
基盤専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
先進専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
社会科学総合研究	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
英語学位プログラム 科目	MyWaseda	2 次登録終了後に定員に余裕がある科目に限り、3 次登録で申請を受け付けます。全学オープン科目に指定されていない科目も対象となります。
全学オープン科目 ※他学部提供科目除く	MyWaseda	全学オープン科目のうち、他学部提供科目については 1 次登録期間中のみ申請可能です。 2 次登録期間以降は申請できません。
他学部聴講科目	MyWaseda	科目設置学部で他学部生の聴講を認めている科目のうち、各学部の 2 次登録終了後に定員に余裕がある科目に限り、3 次登録で申請することができます。
教職等資格関連科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。

[注意事項]

- ・ 2 次登録までの結果、定員に達した科目には申請できません。
- ・ 3 次登録では、1 次・2 次登録にて決定した科目の一部を対象に、取り消し、もしくは算入科目区分の変更ができます。詳細は P.48 を参照してください。
- ・ 必修外国語・選択外国語（社会科学部設置科目）の各科目は 3 次登録では申請できません。（必修外国語科目の再履修登録も 3 次登録では受け付けていません）。

⑨ 英語 1 – 2 (Tutorial English) の登録

「英語 1 – 2」はグローバルエデュケーションセンター提供の Tutorial English を履修します。WeTECスコアによってレベル別に履修クラスが確定し、春学期（春クォーター・夏クォーター）・秋学期（秋クォーター・冬クォーター）いずれかに週 2 コマが自動登録されます。詳細は GEC 発行の「2021 年度 Tutorial English 履修ガイド」を参照してください。

⑩ ゼミナール継続者・合格者の登録

ゼミナールの各科目は、在学生自動登録において、前年度中に実施したゼミナール継続判定、および募集の結果に基づき自動登録されます。以下の場合は、個別手続きが必要となります。

ゼミナールの継続履修を希望しない場合

「ゼミナール非継続願」を 3 月末日までに社会科学部事務所に提出してください。

申請用紙は社会科学部事務所、もしくは Web サイト (<https://www.waseda.jp/fsss/sss/students/seminar/>) にて入手可能です。

延長生がゼミナール履修を希望する場合

「延長生ゼミナール登録申請書」を春学期 3 次登録期間終了までに社会科学部事務所に提出してください。

申請用紙は社会科学部事務所、もしくは Web サイト (<https://www.waseda.jp/fsss/sss/students/seminar/>) にて入手可能です。

II. 科目登録の手続き

1. 科目登録手続きのながれ

⑪ 他箇所（社会科学部以外）科目の登録手続き

社会科学部学生が社会科学部以外で修得した単位は、年間 12 単位、在学中 36 単位まで算入可能です。

科目設置箇所とその分類によって、登録時期・方法、またその単位の取り扱いが異なります（P.44 参照）。十分に注意してください。

◆社会科学部以外の登録時期詳細

分類	科目	参照先要項・手続き等	科目登録時期						
			春学期登録			秋学期登録			
			1次	2次	3次	1次	2次	3次	
全学オープン科目	グローバルエデュケーションセンター提供科目		○	○	○	○	○	○	
	Web 科目登録	アカデミック・ライティング科目	・全学オープン科目履修ガイド ・GEC Web ページ (https://www.waseda.jp/inst/gec/)	「春クォーター」「秋クォーター」科目のうち週 2 コマ（週に 2 時限実施する）科目は、3 次登録の開放は行いません。2 次登録までに科目登録をするようにしてください。 <例：週 2 コマ科目> 火 2 時限・金 2 時限 ※週 2 回授業がある科目 水 4～5 時限 ※2 時限連続の科目 水 2 時限 + オンデマンド ※ハイブリッド科目					
		数学科目							
		データ科学科目							
		情報科目							
		英語科目（※）							
		言語科目							
		保健体育科目							
		自然科学科目							
		人文・社会科目							
国際教育科目									
日本語教育科目									
人間的力量科目									
Web 科目登録以外	インターンシップ科目	『インターンシップの手引き』（キャリアセンター発行）	キャリアセンターにて個別申請						
	【他大学】	・他大学マニュアル ・GEC Web ページ (https://www.waseda.jp/inst/gec/) →学部学生の方へ →→他大学提供科目	2021 年度は、他大学との単位互換制度は中止となります。						
全学オープン科目	留学センター提供科目	・全学オープン科目履修ガイド ・留学センター Web ページ	○	○	○	○	○	○	
	学部提供全学オープン科目	・全学オープン科目履修ガイド ・各学部 Web ページ	○	—	—	○	—	—	
他学部提供科目	各学部 Web ページ	—	—	○	—	—	○		
教職等資格関連科目	『教職課程履修の手引き』（教職支援センター発行）	○	○	○	○	○	○		

※ グローバルエデュケーションセンター提供の以下の英語科目は、グループ編成の都合上、登録機会が以下の通りとなります。
 ・Tutorial English（春クォーター、秋クォーター開講）：1 次登録のみ

国際教養学部の他学部提供科目登録について

- ・国際教養学部の Web ページ (<https://www.waseda.jp/fire/sils/students/registration/>) で、他学部生が登録可能な科目を公開しますので、事前に確認のうえ、Web から履修申請を行ってください。
- ・中級科目は 2 年生以上、上級科目は 3 年生以上のみが登録可能です。
- ・英語力の証明は求めませんが、TOEFL ITP 530 点以上の英語力がある方を対象の目安としています。

2. 主なルール・注意点

科目登録では、登録エラーがおきないように注意すべき事項がいくつかあり、事前に確認する必要があります。主なルール・注意点をよく読み、自身の希望する科目登録が行えるように準備してください。なお、**エラーにより希望しない算入区分への登録決定、希望する科目の登録不可等が発生した場合、登録内容を変更することはできません。**十分に注意して登録に臨んでください。

	ルール・注意点	参照先	
履修申請時	算入区分	各科目には「算入区分」が設けられており、「卒業算入」扱いにできるものと、できないものの2種類があります。	P.42「2-1. 単位の種類(算入区分)」
	制限単位数	「卒業算入」扱いとして申請できる単位数は、学期、科目区分、科目設置箇所などにより制限が設けられています。	P.43「2-2. 登録制限単位数・算入上限単位数」
	他箇所科目の科目区分	他箇所提供科目は、科目の設置箇所や性質により算入区分・科目区分が異なります。	P.44「2-3. 社会科学部以外で履修した科目の単位算入部門」
	前提条件	一部の科目(積み上げ式科目)は、登録する前学期までに修得すべき所定の科目を合格する必要があります。	P.45「2-4. 科目名のルールと履修方法」
	配当年次	各科目には配当年次が定められており、履修学年によって登録できる科目が制限されています。	
	遠距離	授業実施キャンパス間の移動時間が確保できない場合、登録はできません。	
	曜日・時限の重複	同一曜日時限には複数科目を申請できません。	
	同一科目の重複履修	同一学期に同一科目を申請することや、前学期までに単位を修得した科目を申請することはできません。	
	例外条件	上記の例外として、科目名称や講義内容等の変更により履修条件が例外的に定められている科目があります。	P.46「2-5. 履修条件の例外科目一覧」
	履修申請後	定員と抽選	各科目には定員が定められており、定員を超える希望申請があった場合には抽選により履修者が決定されます。
取消・区分変更		一部科目では、決定後科目の取り消しと算入区分の変更ができます。	P.48「2-7. 決定した科目の取り消し・算入区分変更」
申請・登録結果の確認		申請情報および登録結果は、必ずメールで確認してください。	P.49「2-8. 申請情報・登録結果の確認」
聴講料納入		聴講料(実験実習料)の納入が必要な科目の登録が決定し、期限内に納入しなかった場合、決定科目は取り消しとなり、その後の科目登録において抽選の優先順位が下がります。	P.50「2-9. 聴講料(実験実習料)納入」

2-1. 単位の種類（算入区分）

各科目には「算入区分」が設けられており、卒業単位として加算される「卒業算入単位」と、卒業単位には加算されない「卒業非算入単位」とがあります。

◆卒業算入単位

卒業算入単位とは、科目を履修し、合格した場合、その単位が卒業必要単位数（124 単位）の一部として、それぞれの科目区分（初年次教育、必修英語、教養外国語、選択外国語、コア科目、基盤専門科目、ゼミナール、先進専門科目、社会科学総合研究）の上限単位数まで算入される単位のことです。卒業算入として登録した科目はすべて **GPA（成績の平均、下記表に詳細あり）に影響します。**

◆卒業非算入単位

非算入単位とは、科目を合格した場合、成績は付与されますが、**卒業必要単位数には加算されない単位**のことです。非算入科目には、「超過履修科目」と「自由科目」の2つがあります。卒業非算入として登録した科目は **GPA に影響しません。**なお、初年次教育および必修外国語（必修英語・教養外国語）は、卒業算入単位から非算入単位に変更することはできません。

◇超過履修科目

超過履修科目とは、本来「卒業算入」として扱える科目が、申請者の希望や登録時のエラーにより「卒業非算入」の単位として登録されたものを指します。例えば、登録制限単位数を超えて科目登録を行う場合や、成績の良し悪しに関係なくご自身の研究または興味に基づいて履修したい場合に、「超過履修科目」として申請することができます。

ただし、超過履修科目として申請した科目（社会科学部設置科目）が抽選対象科目となった場合、卒業算入単位として申請した学生が優先的に登録されます。

◇自由科目

自由科目とは、「卒業非算入」としてのみ履修が可能な科目です。社会科学部のカリキュラムとして卒業算入単位に認められないと判断された科目、もしくは他箇所提供科目のうち社会科学部設置科目と「同名科目」または「同内容」と判断された科目が該当します。

【GPA（Grade Point Average）について】

GPA とは成績の平均を表す値で、学期毎または在学中通算の GPA が確認できます。対象科目は、「卒業算入科目」として登録したすべての科目で、不合格科目を含みます。

GPA は様々な場面で成績評価として利用され、留学プログラム申請や大学院入学、また奨学金判定基準等に利用されています。大切な指標となるため、科目登録の際には、「算入」「非算入」に十分注意して登録を行ってください。

※一度「非算入」として登録が決定した科目を「算入」に変更することはできません。また、「算入」として決定した科目を、科目登録期間後に「非算入」に変更することもできません。GPA 計算式は以下のとおりです。

$$\frac{(A^+ \text{ 修得単位数} \times 4) + (A \text{ 修得単位数} \times 3) + (B \text{ 修得単位数} \times 2) + (C \text{ 修得単位数} \times 1)}{\text{総登録単位数 (卒業算入単位すべて、不合格科目も含む)}}$$

2-2. 登録制限単位数・算入上限単位数

各学期に「卒業算入単位」として申請・登録できる単位数は制限があり、これらの制限を超えて申請するとエラーとなります。

《重要》

- 各登録制限単位数を超えて申請しようとすると、Web 科目登録時にエラーが表示されます。エラーを解消せずに申請した場合、無作為に選ばれた科目が登録不可もしくは「超過履修科目」として登録されます。
- 一度「超過履修科目」として登録決定した科目の登録取り消し、および卒業算入区分への変更はできません。また、他の卒業算入科目との算入区分の入れ替えも認められません。各種制限単位数を超えて登録を希望する際は、必ずオーバーする単位数分以上をご自身で選び、超過履修科目（卒業非算入単位）申請するようにしてください。

◆年間・半期登録制限単位数

◇1 年次入学者

3 年生以下		4 年生以上	
年間合計		年間合計	
40 単位		48 単位	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
24 単位	24 単位	28 単位	28 単位

◇学士・3 年次編入学者

3 年生		4 年生以上	
年間合計		年間合計	
48 単位		56 単位	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
28 単位	28 単位	32 単位	32 単位

※「通年」・「春夏期」・「夏季集中」科目は「春学期」の登録単位数、「冬季集中」・「春季集中」・「夏秋期」科目は「秋学期」の登録単位数に数えられます。

重要 春学期に不合格となった単位があっても、不合格分単位数が秋学期の登録制限単位数に補充はされません。

- 例 1) 1 年次入学 3 年生の方が春学期に 24 単位登録した場合、春学期科目がすべて不合格であったとしても、秋学期登録可能単位数は 16 単位までとなります（年間登録制限単位数：40 単位 - 春学期登録単位数：24 単位 = 16 単位）。
- 例 2) 1 年次入学 2 年生の方が春学期に 10 単位のみを登録した場合、秋学期の最大登録可能単位数は 30 単位ではなく、24 単位です（秋学期登録制限単位数の上限）。

◆科目種別ごとの登録制限・算入上限単位数

科目種別	年間登録制限	在学中算入上限	配当年次
選択外国語	4 単位	8 単位	1 年以上
社会科学特殊講義（特講含む）	4 単位	12 単位	1 年以上
先進社会科学特殊講義（特講含む）	4 単位	4 単位	2 年以上
外国書研究	英書、中国書研究 上記以外	4 単位	2 年以上
			3 年以上
グローバルラーニング	4 単位	4 単位	1 年以上
専門英語	4 単位	12 単位	2 年以上
ゼミナール I	2 単位または 4 単位 ※1	2 単位または 4 単位 ※1	2 年以上
ゼミナール II・III	4 単位	8 単位	3 年・4 年以上
ソーシャル・リサーチ	4 単位 ※2	8 単位	2 年以上

※1 2012 年度以前入学者・2018 年度以降入学者は、ゼミナール I の年間登録制限単位数・在学中算入上限ともに 2 単位です。

※2 ソーシャル・リサーチは各学期 2 単位の登録制限があります。

◆他箇所提供科目 登録制限・算入上限単位数

科目種別	年間登録制限	在学中算入上限
他箇所科目 合計	12 単位	36 単位
うち 選択外国語	4 単位	8 単位
うち 保健体育科目	4 単位	4 単位
うち インターンシップ科目	2 単位	2 単位

※初年次教育の学術的文章の作成、統計リテラシー、英語 1 - 2 (Tutorial English) および教養外国語として履修したイタリア語・朝鮮語・日本語は他箇所制限単位数の対象外です。

※他箇所提供科目のうち超過履修科目または自由科目として登録された科目は登録制限単位数・算入上限単位数に含まれません。

重要 単位認定の取り扱いについて

- 他箇所の在学中算入上限 36 単位には、**留学認定単位**、および**入学前の高校生特別聴講**、**外国学生導入教育**、**転部・編入元大学からの認定単位**も含まれます。なお、これらの認定単位は、「年間登録制限単位」の対象外です。留学の単位認定の詳細は、「社会科学部生のための留学案内」で確認してください。

2-3. 社会科学部以外で履修した科目の単位算入部門

分類	科目群	科目種別			備考	
		講義科目	外国語科目	同名科目※ ¹		
全学オープン科目	グローバルエデュケーションセンター提供科目	アカデミック・ライティング科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		数学科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		データ科学科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		情報科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		英語科目	—	選択外国語	自由科目	※ ²
		言語科目	—	選択外国語	自由科目	
		保健体育科目	基盤専門科目	—	自由科目	算入上限 4 単位
		自然科学科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		人文・社会科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		国際教育科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		日本語教育科目	—	選択外国語	自由科目	
		人間的力量科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		インターンシップ実習	基盤専門科目	—	自由科目	算入上限 2 単位
		【他大学】 f-Campus 武蔵野美術大学 東京家政大学・東京女子医科大学 京都地域大学・短期大学 九州大学・東京理科大学	基盤専門科目	—	自由科目	年間登録制限単位数 があります。GEC 発行 の「全学オープン履修ガ イド」を参照してくださ い。
留学センター提供科目	基盤専門科目	—	自由科目			
学部提供全学オープン科目(全学部)	基盤専門科目	—	自由科目 ※ ³			
他学部聴講科目	自由科目	自由科目	自由科目	※ ⁴		
教職等資格関連科目	—	—	自由科目			
社会科学研究科提供科目	自由科目	—	—	※ ⁵		

※1 同名科目とは、社会科学部設置科目と科目名が同じ科目に加え、科目内容が同じと判断された科目、および社会科学部カリキュラムとして卒業算入単元に認定できないと判断された科目も含まれ、すべて「自由科目」（卒業非算入単位）となります。

※2 英語1-2として1年次に履修する Tutorial English (GEC 提供科目) は、「必修英語」の区分に入ります。

※3 同名科目は通常「自由科目」となりますが、語学科目に限り「選択外国語」（卒業算入単位）として履修可能です。

◆他学部提供全学オープン科目（全学部）の取り扱いについて

社会科学部 Web サイトにて公開される「全学オープン科目取扱一覧」にて、他学部提供全学オープン科目の科目部門が科目別に一覧化されています。この一覧表は、毎年更新されますので、申請前に確認するようにしてください。

◆政経・法・商学部の他学部聴講科目の取り扱いについて（上記表中の※4）

早稲田大学の各学部が、全学オープン科目以外に他学部生の聴講を許可し、自箇所学生の登録後、定員に余裕があれば開放される科目があり、それらの科目は3次登録において登録が可能です。これらの科目は原則として「自由科目」（卒業非算入科目）となりますが、政経・法・商学部提供の以下科目においては、基盤専門科目として卒業単元に算入できます。これらの学部では、社会科学部とは異なった特徴を持っていますので、強い専門性を志向する学生の皆さんの履修を推奨しています。

学部	科目部門
政治経済学部	1. 政治学科目部門（文献研究科目を除く） 2. 経済学科目部門（ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門を除く）
法学部	法律科目（演習科目を除く）
商学部	専門教育科目（演習科目を除く）

※対象科目の詳細は、社会科学部 Web サイトを参照してください。

◆社会科学研究科 先取り履修について（上記表中の※5）

科目担当教員の承認があれば、年間8単位まで社会科学研究科提供の講義科目履修が可能です。「自由科目」（卒業非算入科目）となりますが、社会科学研究科入学後、最大10単位まで修士課程修了単位として認定が可能です。※4年生以上の学士入学者は年間4単位まで「先進専門科目」として履修可能です。詳細は社会科学部事務所までご連絡ください。

【申請時期】春学期／秋学期 1次～3次登録期間 【申請場所】社会科学部事務所

2-4. 科目名のルールと履修方法

社会科学部の科目名は「科目名称」と「クラス名称」（科目名の後につくアルファベット）により識別されます。科目名によって履修方法が異なりますので、十分注意してください。

(例)	経済学入門 1	[ミクロ経済学]	A~C
	科 目 名	科 目 名	ク ラ ス 名
	流 通 論 II	A~B	
	科 目 名	ク ラ ス 名	

積み上げ式科目① 「I・II 科目」（I を履修し単位を修得していないと、II が履修できない）

社会科学部設置科目では、科目名末尾にローマ数字の「I」または「II」がついていた場合、**I を合格していないと II の登録・履修ができません**（前提条件エラー）。

【例】「商業史 I」の単位を前学期までに修得していない場合、「商業史 II」の登録はできません。

※「I」を登録しても、不合格であった場合は「II」の登録ができません。

※必ずしも「I」が春学期、「II」が秋学期に開講されていないため、在学中計画的に履修をしてください。

※「I」と「II」は、積み上げ式科目のため、「I」を合格した場合、「II」も登録・履修されることが望まれます。春学期に「I」を履修・合格した学生には、秋学期 1 次登録前に「II」が自動登録されます。**登録された「II」は秋学期 1 次登録期間から取消ができますので、履修を望まない場合は、ご自身で取消してください。**

【I/II 積み上げ式科目の例外：ゼミナール】

ゼミナールにも「I/II/III」が科目名につきますが、履修可否は担当教員の判断となるため、「II」または「III」からの履修が認められる場合もあります。※「I」の単位を修得しても、「II」の履修が認められない場合もあります。

積み上げ式科目② 外国語科目（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）

社会科学部設置の外国語科目（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）では、科目名に「基礎」・「初級」・「準中級」・「中級」がついていた場合、それぞれ下記 1～3 のとおり登録・履修ができません（前提条件エラー）。

1. 「基礎」科目を合格、単位修得していないと、「初級」科目の登録・履修はできません。
2. 「初級」科目を合格、単位修得していないと、「準中級」科目の登録・履修はできません。（一部例外あり）
3. 「準中級」科目を合格、単位修得していないと、「中級」科目の登録・履修はできません。

【例】「ドイツ語 1 基礎」の単位を前学期までに修得していない場合、「ドイツ語 1 初級」の登録はできません。

「中国語 2《準中級》」単位を前学期までに修得していない場合、「中国語 2《中級》」の登録はできません。

科目名に「1」・「2」・「3」…がつく科目

社会科学部設置で、科目名末尾に「1」・「2」・「3」…がついている科目は、**いずれの科目からでも履修可能です**。

【例】「メディア論 1」を履修していなくても、「メディア論 3」の登録が可能です。

※「1」は「2」の、「2」は「3」の前提科目ではありません。番号に関係なく、登録・履修が可能です。

※必ずしも、1, 2, 3…の全てを履修する必要はありません。

クラス名に「A」・「B」・「C」…がつく科目

社会科学部設置で、クラス名が「A」・「B」・「C」…となっている科目は**同科目**です。いずれか 1 科目のみ履修が可能で、一度単位を修得した場合は担当教員が異なっても、再度登録・履修はできません。

【例】「社会デザイン論入門 A」の単位が既得であった場合、「社会デザイン論入門 B」の登録はできません。

※同学期に複数クラスが開講している場合、その学期にはいずれか 1 科目のみ登録が可能です。複数クラスの申請を行った場合、どちらか一方がエラーとなり、登録されません。

※前学期までに「A（または B,C…）」の単位が不合格であった場合、同じクラス、また別クラスの登録・履修は可能です。

2-5. 履修条件の例外科目一覧

前述の諸条件に加えて、履修条件変更や科目名称変更により、例外的に登録できない科目があります。(以下一覧)

対象科目	例外履修条件
国際教育協力論	「Educational Development in Developing Countries」または、「Education and Development」の単位を修得している場合は履修できません。
Education and Development	「国際教育協力論」または、「Educational Development in Developing Countries」の単位を修得している場合は履修できません。
EU地域研究 I <先進専門科目>	「EU地域研究 1」または、「EU地域研究 I <基盤専門科目>」の単位を修得している場合は履修できません。
EU地域研究 II	「EU地域研究 2」の単位を修得している場合は履修できません。
グローバルビジネス論 1	「国際経営論 1」の単位を修得している場合は履修できません。
グローバルビジネス論 2	「国際経営論 2」の単位を修得している場合は履修できません。
ソーシャル・リサーチ (文化・メディア) I	「ソーシャル・リサーチ (歴史と記憶) I」の単位を修得している場合は履修できません。
ソーシャル・リサーチ (文化・メディア) II	「ソーシャル・リサーチ (歴史と記憶) II」の単位を修得している場合は履修できません。
ソシオダイナミクス 1	「Socio-Dynamics 1」の単位を修得している場合は履修できません。
ソシオダイナミクス 2	「Socio-Dynamics 2」の単位を修得している場合は履修できません。
ヨーロッパ市民社会論 I	「ヨーロッパ市民社会論 1」の単位を修得している場合は履修できません。
ヨーロッパ市民社会論 II	「ヨーロッパ市民社会論 2」の単位を修得している場合は履修できません。
ヨーロッパ市民社会論 2 <先進専門科目>	「ヨーロッパ市民社会論 2 <基盤専門科目>」の単位を修得している場合は履修できません。
応用ミクロ経済学 1	「経済学入門 1 [ミクロ経済学]」および「統計解析の基礎」の単位を修得している場合に履修可能です。
応用ミクロ経済学 2	「経済学入門 1 [ミクロ経済学]」および「統計解析の基礎」の単位を修得している場合に履修可能です。
居住環境論	「居住環境論 1」および「居住環境論 2」の両方の単位を修得している場合は履修できません。
金融経済論	「金融経済論 I」の単位を修得している場合は履修できません。
刑法総論	「刑法総論 I」および「刑法総論 II」の両方の単位を修得している場合は履修できません。
刑法総論 I [犯罪論の基本構造]	「刑法総論」の単位を修得している場合は履修できません。
刑法総論 II [犯罪の諸形態]	「刑法総論」の単位を修得している場合は履修できません。
健康と人権	「Health and Human Rights」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Health and Human Rights」と同一学期に履修することはできません。
Health and Human Rights	「健康と人権」の単位を修得している場合は履修できません。また、「健康と人権」と同一学期に履修することはできません。
雇用関係法 I	「個別的労働法 I」の単位を修得している場合は履修できません。
雇用関係法 II	「個別的労働法 II」の単位を修得している場合は履修できません。
行政法	「行政法総論 I」、「行政法総論 II」、「行政救済法 1 (行政訴訟)」、「行政救済法 2 (国家補償)」のうち、いずれかの単位を修得している場合は履修できません。
国際金融論	「国際金融論 I」または「International Finance」の単位を修得している場合は履修できません。また、「International Finance」と同一学期に履修することはできません。
International Finance	「国際金融論」の単位を修得している場合は履修できません。また、「国際金融論」と同一学期に履修することはできません。
世界人口論入門	「世界人口移動論 1」の単位を修得している場合は履修できません。
国際人口移動論入門	「世界人口移動論 2」の単位を修得している場合は履修できません。
社会科学のための回帰分析 I	「計量経済学 I」または「Regression Analysis for Social Sciences I」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Regression Analysis for Social Sciences I」と同一学期に履修することはできません。
社会科学のための回帰分析 II	「計量経済学 II」または「Regression Analysis for Social Sciences II」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Regression Analysis for Social Sciences II」と同一学期に履修することはできません。
Regression Analysis for Social Sciences I	「計量経済学 I」または「社会科学のための回帰分析 I」の単位を修得している場合は履修できません。また、「社会科学のための回帰分析 I」と同一学期に履修することはできません。
Regression Analysis for Social Sciences II	「計量経済学 II」または「社会科学のための回帰分析 II」の単位を修得している場合は履修できません。また、「社会科学のための回帰分析 II」と同一学期に履修することはできません。
西洋哲学	「西洋哲学 1」および「西洋哲学 2」の単位を修得している場合は履修できません。
組織行動論	「組織行動論 I」および「組織行動論 II」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Cross-Cultural Organizational Behavior」と同一学期に履修することはできません。
Cross-Cultural Organizational Behavior	「組織行動論 I」および「組織行動論 II」の単位を修得している場合は履修できません。また、「組織行動論」と同一学期に履修することはできません。
文化人類学 1	「比較文化論 1」の単位を修得している場合は履修できません。
文化人類学 2	「比較文化論 2」の単位を修得している場合は履修できません。
法と経済学 I	「法と経済学」の単位を修得している場合は履修できません。
法情報学	「法情報学 1 [インターネットと法]」の単位を修得している場合は履修できません。
理論人類学 2	「Evolutionary Anthropology」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Evolutionary Anthropology」と同一学期に履修することはできません。
Evolutionary Anthropology	「理論人類学 2」の単位を修得している場合は履修できません。また、「理論人類学 2」と同一学期に履修することはできません。

2-6. 定員と抽選

社会科学部設置科目の定員は以下、別途定員が定められている科目以外は、原則1科目300名です。

※教室設備との関係から、教室収容定員を履修定員とすることがあります。

定員が定められている科目

◆科目ごとの履修定員

対象科目	履修定員
ソーシャル・リサーチ	30名
ヴィジュアルイメージ研究	20名
参加のデザイン技術	20名
社会デザイン実習1	50名
社会デザイン実習2・3	20名
紛争解決論実習1・2・3	15名
コンピューターームで授業を行う科目	20名(14-613) または 31名(14-614)
農からの社会連携(実習)I	50名
JA 共済寄附講座 農からの社会連携(実習)II	50名
情報化社会とワーキングスタイル	30名

◆科目部門ごとの履修定員

科目部門	履修定員
コア科目 ※	300名
外国語科目	42名
英語 2-2	35名
グローバルラーニング	40名
外国書研究	40名
専門英語	20名
英語学位プログラム 「Practicum(実践)」科目	20~35名
英語学位プログラム 「Readings」科目	30名

※コア科目の定員設定について

「コア科目」定員については、2年生以上の履修を確保するため、各期1次登録のみ、定員の3割を2年生以上の枠として設定します。なお2次登録以降の募集ではこの定員枠をなくし、申請者多数の場合には学年ごとに設定されている優先順位(下記抽選時の優先順位)により抽選を行います。

抽選時の優先順位

希望者が各科目の定員を超える場合には、抽選が行われ登録者が決定されます。抽選の結果、落選してしまった場合、「選外」となり登録されません。なお、抽選の際には、下記の「優先順位が定められている科目」を除き、申請者全員が平等に扱われます。

◆抽選時に優先順位が定められている科目

科目名	抽選順位(数字が小さいほど高順位)			
	1年生	2年生	3年生	4年生以上
コア科目	1	3		2

2-7. 決定した科目の取り消し・算入区分変更

一度申請し、決定した科目は原則として取り消し、変更はできません。

ただし、一部の科目においては、3次登録期間中に限り、1次・2次登録期間に登録した科目の①取り消し、または②算入区分変更(算入→非算入)が認められています。対象科目はそれぞれ以下のとおりです。

◆ 3次登録期間中に取り消し・算入区分変更が認められている科目

科目種別		① 取り消し	② 算入区分変更
社会科学部設置科目	基盤専門科目	○	×
	先進専門科目	○	×
	社会科学総合研究	○	×
	コア科目	○	×
	初年次教育	×	×
	外国語科目	×	×
	ゼミナール I・II・III	×	×
他箇所提供科目 (以下の場合を除く)		×	○ (算入→非算入)
	日本語教育研究センター提供科目 ※	○	○ (算入→非算入、非算入→算入)

※ 外国学生に限ります。また、3次登録期間だけでなく、2次登録期間でも取り消し・算入区分変更が可能です。

重要

- 一度「取り消し」を行った科目は、**登録決定に戻すことはできません。**
- 取り消し単位数の上限はありませんが、**3次登録終了後に追加登録の機会はありません。**
- 科目区分の変更の確定後に、**再度「非算入」から「算入」に変更することはできません。**
- 区分変更する単位数の上限はありませんが、**3次登録終了後に追加登録の機会はありません。**
- 取り消し、または算入区分変更した分の単位数を、3次登録で別科目により補うことは可能です。
- **1年生の入学前に登録したコア科目も、3次登録で取り消すことが可能です。**

※ 科目取り消し、算入区分変更等の操作方法については、P.52～をご確認ください。

2-8. 申請情報・登録結果の確認

申請情報および登録結果は下記①②のメールにて確認してください。

重要

- 下記①②のメールは、必ず大切に保管してください。
- メールボックスの空き容量を 10MB 以上確保してください。
メールをごみ箱に移しただけではメールボックスの空き容量は増えませんので、不要なメールをごみ箱から完全に削除してください。
→ 詳細は <http://www.waseda.jp/mnc/kamoku/operation.html> 参照
- Waseda メールを転送設定している場合は、必ず「転送元に残して転送」を選択してください。
転送先のメールボックスの容量がいっぱいであった、携帯電話の受信容量制限を超えてしまったなどの問題で、転送先がメールを受け取れなかった場合には、メールは破棄されますのでご注意ください（メールを再送信することは出来ませんので、万が一受信に失敗した場合は、Web 科目登録の画面にて確認してください）。

① 申請情報確認メール

申請した翌日に「申請したこと」を知らせる申請情報確認メールが送信されます。申請が間違いなく行われたか、必ず内容を確認してください。なお、このメールはあくまでも申請内容であって、登録結果ではありませんのでご注意ください。最終的な登録結果については必ず②登録結果確認メールにて確認してください。

② 登録結果確認メール

登録チェック、抽選の結果を反映した科目登録結果を科目登録結果発表日に送信します。申請科目の「状態（決定・不可・選外）」を必ず確認してください。

重要

授業実施教室の確認について

授業が行われる教室は、必ず最新の登録結果確認メールにて確認してください。
なお、教室は授業開始後も変更される可能性がありますので、科目設置箇所の掲示板や Web シラバスもあわせて確認してください。

2-9. 聴講料（実験実習料）納入

聴講料は、一部の科目を履修するにあたって授業料以外に支払う必要のある費用のことです（実習科目や体育科目等）。期限までに納入しなかった場合、決定科目は取り消しとなり、その後の科目登録において抽選の優先順位が下がります。

◆納入期間

登録学期	納入対象科目	納入期間
春学期	1次登録 2次登録 3次登録	4月15日（木）～20日（火）23：59
秋学期	1次登録 2次登録 3次登録	10月6日（水）～12日（火）23：59

※上記期間外の納入は一切受け付けられません。また日曜日の納入も受け付けていません。

◆納入方法

科目の登録が決定したら、以下の方法で納入を完了させてください。

①納入案内メールの確認

登録結果発表後、Waseda メールアドレス宛に**納入案内メール**が届きます。

メールには、納入にあたり必要な情報が記載されていますので、必ず確認をしてください。

<納入案内メール>

差出人：fee-payment@list.waseda.jp
 件名：【重要】2021年度●学期登録 聴講料・実験実習料の納入について
 本文：【納入金額（合計）・納入期限・納入方法選択画面のURL・注意事項】などが記載

※Wasedaメールの容量がいっぱいの場合、メールを受信することができません。事前に空き容量を確認するようにしてください。

②納入方法の選択・確定

納入方法は以下の3つから選択できます。

メール本文中のURLをクリックし、納入方法選択画面から納入方法を1つ選択してください。

一度確定した納入方法を変更することはできませんのでご注意ください。

納入方法	説明	備考・注意
コンビニエンスストア（受付番号）決済	納入方法選択画面より支払用番号を発行し、コンビニ店舗で納入する方法 【詳細ページ】 https://waseda.box.com/v/waseda-freepayment	・Web上で納入先のコンビニを選択する必要あり（ <u>番号発行後のコンビニ変更不可</u> ）。 ・基本的にクレジットカードでの納入不可。 ・30万円を超える納入不可。
ペイジー決済	納入方法選択画面で支払用番号を発行し、各金融機関のインターネットバンキングまたはATMを利用して納入する方法 【詳細ページ（利用可能な金融機関など）】 http://www.pay-easy.jp/howto/index.html	・納入金額が10万円を超える場合、金融機関のATMは利用不可（インターネットバンキングは可）。 ・コンビニ設置のATMは不可。
クレジットカード決済	納入方法選択画面でクレジットカード情報を入力して納入する方法	・VISA・MasterCardのみ対応。その他のブランド不可。 ・分割・リボ払い不可。 ・決済不可の場合は、納入方法選択画面に戻る。

③納入手順の確認・納入完了

納入方法の確定後、Waseda メールアドレス宛に**納入手順案内メール**が届きます。

その手順にしたがって、期限までに納入を完了すると、**納入完了通知メール**が届きます。

※「クレジットカード決済」選択者は、②で納入方法が確定した時点で決済完了となり、納入完了通知メールが届きます（納入手順案内メールは届きません）。

◆注意事項

- ・期間外の納入はいかなる理由があっても認められません（期間間に納入を試みたが、完了しなかった場合も含む）。未納の場合、決定科目の履修が認められないだけでなく、その後の科目登録において抽選の順位が下がることがあります。
- ・聴講料・実験実習料は納入案内メールに記載された合計金額をすべて納入してください。一部の科目の聴講料・実験実習料のみ納入することはできません。また、納入後の返金もできません。
- ・納入方法の確定後は、別の方法に変更できません。
- ・クレジットカード決済を利用する際は、カードの利用限度額や有効期限に注意してください。
- ・大学生協店舗で納入を行うことはできません。
- ・1次登録で決定となった「Tutorial English」については、レッスングループ編成の都合上、その他の登録決定科目とは異なる期間に実験実習料を納入します。
- ・新入生必修の Tutorial English 聴講料については、入学時に納入済みですので、科目登録後に聴講料を納入する必要はありません。

3. WEB 科目登録利用マニュアル

Web 科目登録利用手順

※凡例 …中心となる作業。数字は、作業順序

【注意】科目登録をWEBで申請する場合、申請する科目をあらかじめ決めて申請をしてください！

1. Web 科目登録の流れ

「成績照会・科目登録専用ログイン」画面からのログイン

○MyWaseda ログイン前画面左下の<成績照会・科目登録専用>

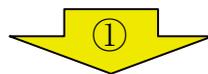
をクリックし<成績照会・科目登録専用ログイン>画面からログインを行い、
<成績照会・科目登録専用メニュー>から科目登録を選択します。

○登録済みの科目を確認します。

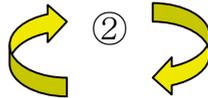
登録科目一覧の確認

①科目検索

- [科目検索]ボタンをクリックすると科目検索画面が表示されます。
- 科目開講箇所を選択し科目群、検索条件を指定して[科目検索]ボタンをクリックします。
- 検索条件に合う履修の許可される科目が表示されます(それ以外の科目は非表示)。



登録希望
科目の検索



科目の[選択]

②科目の[選択]

- 選択チェックボックスにチェックを入れます(次の科目を検索するか登録科目一覧に戻ると選択中となります)。※この作業を繰り返します。

③科目申請

- 選択中の科目を[科目申請]ボタンをクリックして申請します。

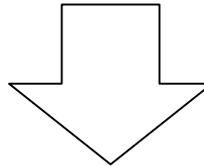
科目申請

申請内容確認

【重要】

- 検索結果を選択しただけでは、申請は完了しません。必ず[科目申請]ボタンをクリックして、申請を行ってください。
- 登録科目一覧の状態欄に“申請中”と表示されていれば、申請は完了しています。

申請中

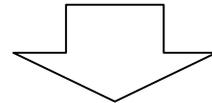


抽選/登録チェック

- 抽選/登録チェックは大学の行う作業です。

エラー

- エラーの場合、エラー内容を確認してエラーを解消します。



科目取消

- 登録科目一覧画面から[科目取消]ボタンをクリックします。

確認

- 取消可能な科目の一覧が表示されますので「取り消す科目の」取消チェックボックスにチェックを入れて[取消]ボタンをクリックします。

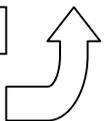
○申請中となった科目は申請が完了しています。登録結果発表で抽選結果を確認します。

○申請時のチェックで判定を行わない履修規定については、その登録結果発表にて併せて発表されます。

登録結果発表

決定
登録完了♪

選外・不可
次の登録へ



2. Web 科目登録画面説明

Web 科目登録は、すべてこの画面（ログイン後、メニューから科目登録を選択した状態）から行います。

(1) 履修申請は[登録科目一覧]（この画面）を中心に4つの画面で構成されます。登録科目一覧では現在の科目の状態を常に確認してください。

(2) 履修希望科目は[科目検索]ボタンにより科目検索画面で検索のうえ選択します。検索～選択の作業が終了したら登録科目一覧に戻り[科目申請]ボタンで申請を確定してください。

(3) 一部の科目は登録の取り消しが可能です。取消可能科目は[科目取消]ボタンで確認できます。

(4) 一部の科目は科目区分の変更が可能です。変更可能科目は[発表後算入変更]ボタンで確認できます。

(5) [閉じる]ボタンで作業を終了する前に[印刷]ボタンでこの画面を印刷して保管してください。

印刷 (4)

(1) ■所属学部Web申請期間
春学期1次登録 2013年3月30日 10:00～2013年4月2日 17:00 申請期間詳細情報

(3) 科目検索
科目申請
科目取消
発表後算入変更

(2) ■登録科目一覧
備考に「〒」マークのある科目は聴講料等の支払対象、[関連URL]ボタンは関連するWebサイトへのリンク、[入力有]ボタンは追加で登録する情報の申請画面へのリンクを表しています。科目名はクリックするとシラバス情報が表示されます。

学期	曜日	時限	開講学部	備考	科目名	担当教員	キャンパス	教室名	科目区分	単位	状態/希望順位
春学期	月	3時限	政経		政治学基礎 03	谷藤 悦史	早稲田	15-202	専門・関連・政治	2	申請中
春学期	水	2時限	政経		ゲーム理論入門 03	船木 由喜彦	早稲田	15-401	基礎・入門:必修以外	2	申請中
春学期	金	4時限	政経		比較宗教学a 01	鎌田 東二	早稲田	15-201	隣接・文化・歴史	2	申請中
春学期	土	3時限	政経		計量分析 01	松村 幸輝	早稲田	4-307(PC室)	専門・基礎:必修以外	2	申請中
春学期	月	1時限	政経		経済学入門A 03	長江 亮	早稲田	8-B101	基礎・入門:必修	2	決定
春学期	月	2時限	政経		解析学入門 01	西原 健二	早稲田	1-301	基礎・数学:必修	4	決定

(1) 申請期間表示

科目により申請締切日が異なります。科目群ごとの申請期間を確認してください。

(2) 登録科目一覧

現在の科目登録の状態を科目ごとに表示します。備考欄に「〒」マークの表示される科目は聴講料等の納入が必要です（期限までに納入しない場合、申請科目の登録が取り消されます）。

(3) 各機能ボタン

〔科目検索〕〔科目申請〕〔科目取消〕の各機能ボタンが用意されています。

① 〔科目検索〕

〔科目検索〕ボタンを押すと「科目検索画面」に遷移します。「科目検索画面」では、申請しようとする科目の開講箇所を指定して〔確定〕ボタンを押し、科目群を選択します。検索条件には必ず1項目以上を入力します。〔科目検索〕ボタンを押すと申請可能な科目のリストを表示します（履修できない科目はあらかじめ検索対象から除かれます）。

② 〔科目申請〕

〔科目申請〕ボタンを押すと、選択中の科目の申請を確定するための確認画面が表示されます。

③ 〔科目取消〕

〔科目取消〕ボタンを押すと、科目取消を確定するための確認画面が表示されます。取り消すことができるのは、選択中、申請中の科目が対象です。

※学部によっては限られた期間内で登録決定科目を取り消すことができます。

(4) 印刷ボタン

使用中のPCがプリンターに接続している場合、このボタンを押すことで画面イメージを印刷することができます。申請科目の保管に利用してください。

3. Web 科目登録利用手順

1

成績照会・科目登録
専用メニュー

<https://my.waseda.jp/>

上記のURLにアクセスし、
＜成績照会・科目登録専用＞を選択し
ます。

- 専用メニューは MyWaseda ログイン画面の左下にあります。
- 科目登録期間中は専用メニューを利用してください。

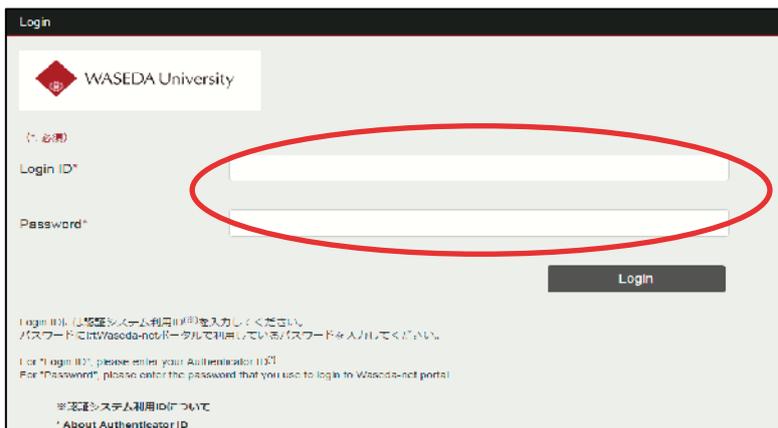
成績照会・科目登録専用



2

ログイン

Waseda ID、パスワードを入力して
[Login] ボタンをクリックします。

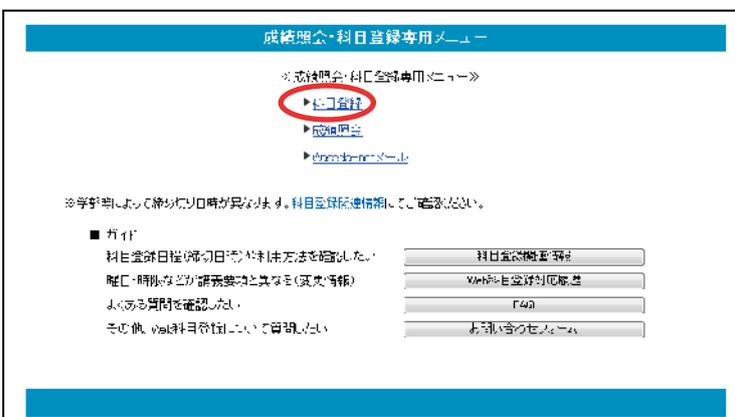


3

成績照会・科目登録
専用メニュー

ログインすると「成績照会・科目登録専用メニュー」が表示されます。
＜科目登録＞のリンクをクリックします。

○履修申請に関する問い合わせを行う場合には、「お問い合わせフォーム」ボタンをクリックし、必要事項を記入し送信してください。



II
科目登録の
手続き

4 登録科目一覧

科目登録をクリックすると「登録科目一覧画面」が表示されます。自動登録科目など、登録済科目の状態や時間割を確認します。

- 登録算入単位数で卒業単位に算入される登録済科目の合計単位数がわかります。制限単位数と比較しながら申請してください（登録算入単位数は、通年・春学期・秋学期の合計となります）。



5 科目検索

登録希望科目を検索します。

- 学部を選択し「確定」ボタンを押します。
- 次に科目群の中から登録を希望する科目の科目群を選択します。
- 検索条件を1項目以上を入力して「科目検索」ボタンを押します。
- 希望の科目が見つからない場合は検索条件を再度確認し、検索条件を例えば学期のみにするなど極力減らして検索してください。



いろいろな検索方法

▼科目名

部分一致検索です。

▼曜日・時限

プルダウンメニューで学期・曜日・時限を指定して検索することができます。

6 科目の選択

科目を選択するには、検索結果から科目名の左側にある選択チェックボックスにチェックを入れます。

複数の科目を同時に選択することができます。

選択チェックボックスにチェックが入っている状態で検索を終了して「一覧へ戻る」をクリックするか次の科目を検索します。選択した科目は登録科目一覧で、「[選択中]」と表示されます。



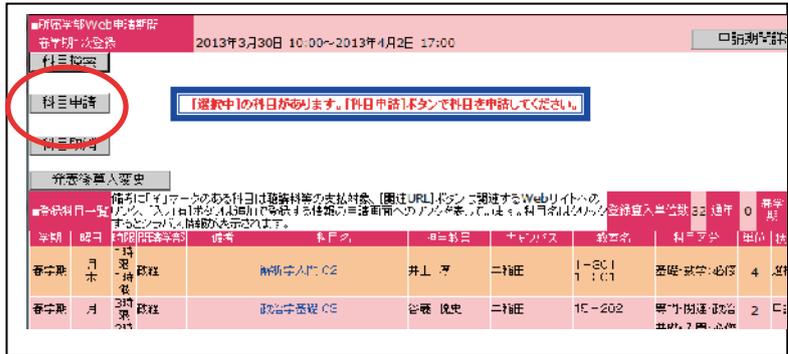
7 科目申請

選択が終了すると一覧画面に戻り、選択した科目の状態は「選択中」となっています。

「選択中」の科目は〔科目申請〕ボタンを押して申請を確定します。

○ 科目検索を繰り返して複数の科目を同時に申請することもできます。

○ 「選択中」の科目がある場合は、「[選択中]の科目があります。[科目申請]ボタンで科目を申請してください。」というメッセージが表示されます。



8 申請の確認

〔OK〕ボタンをクリックすると申請時登録チェックが行われ、科目の履修可否が判定されます。

○ エラーがない場合は状態が「選択中」から「申請中」に変わります。

○ エラーが発生するとエラーメッセージが表示されますので、エラーの原因となった科目を取り消して問題を解消し、あらためて〔科目申請〕ボタンを押してください。

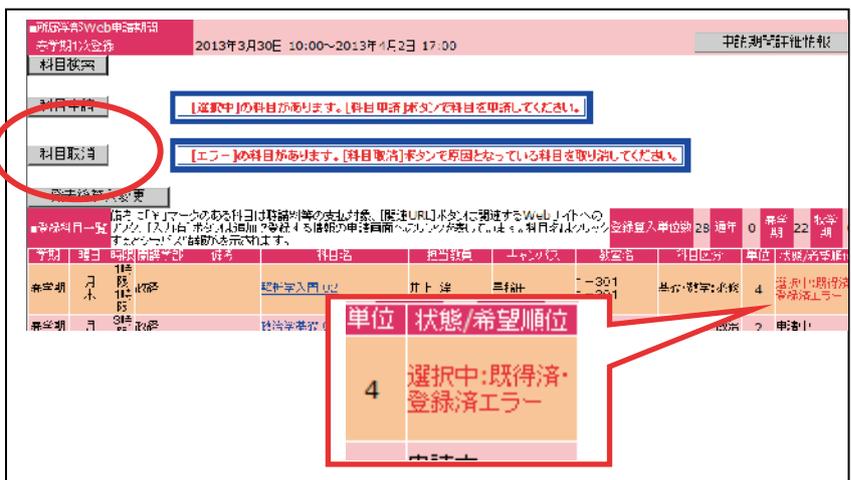


9 科目取消

登録期間中は「申請中」「選択中」の科目を取り消すことができます。科目を取り消すには〔科目取消〕ボタンをクリックします。

※登録決定科目の取り消し

一部の科目で登録決定科目の取り消しを限られた期間内に行うことが可能です。一度取り消すと登録データが消えてしまい、**再度登録決定に戻すことはできません**ので、十分注意してください。



10 取消の確認

取り消し可能な科目の一覧が表示されますので、取り消したい科目のチェックボックスにチェックを入れて〔取消〕ボタンを押してください。

○取消ボタンを押すと確認のメッセージが表示されます。



11 登録一覧画面の印刷

もし利用中の PC にプリンターが接続されていたら、申請作業が終了した時点で登録科目一覧画面を印刷して保管してください。

- 科目の状態が「申請中」となっている科目が申請の確定した科目です。「選択中」の科目は画面を閉じると情報が破棄されてしまいますので〔科目申請〕ボタンで申請を確定してください。
- プリンターが接続されていない場合は、申請した科目の状態をメモに残して保管しましょう。



登録科目一覧画面上、科目の状態は、次のとおり遷移します。

状態	説明	状態	説明
選択中	科目検索－〔選択〕後の状態。このまま作業を終了すると選択は無効となります。取消可。	不可	〔選択〕〔申請〕後、履修上の問題があり申請が許可されなかった科目。(発表期間中の表示)
申請中	〔申請〕ボタンにより申請の許可された科目。取消可。	処理中	申請期間が終了し処理中の状態。取消不可。 (申請期間終了後、発表開始前までの表示)
決定	履修の決定した科目。取消不可。(発表開始後の表示)	選外	履修希望者が定員を超えていたため無作為抽選が行われ抽選に外れ、履修の許可されなかった科目。(発表期間中の表示)

※表示件数の制限について

条件を入力し、科目の検索を行う際に検索結果が 100 件より多い場合には、検索結果表示欄にエラーメッセージが表示されます。このメッセージが表示された場合は、曜日、時限、科目名の先頭の数字など、検索条件を追加してから、再度検索を行ってください。

いろいろな申請方法

希望順位登録：希望順位登録とは、抽選が行われる可能性が高い科目を同時に複数申請できる登録方法です。希望順位を選択できる科目群は、希望順位選択のプルダウンメニューが表示されます。希望順位を選択する場合は、必ず第 1 希望から順に選択してください。例えば、第 2 希望のみを選択した場合、抽選は第 1 希望者の後に行われますので、科目を登録できる可能性は極端に低くなります。



科目区分変更：検索結果一覧に表示される「科目区分」の欄がプルダウンメニューで選択可能になっている場合は、科目区分を変更して申請することができます。例えば登録制限単位数オーバーエラーになった科目を一度取り消し、科目区分を制限単位数に算入されない科目区分に変更してあらためて申請することにより、申請が受け付けられる場合があります。



● 他箇所設置科目を申請してみましよう。

学部を変更し〔確定〕ボタンをクリックします。次に科目群の中から登録を希望する科目の科目群を指定します。自学部の科目登録と同じ要領で科目を検索し、選択後、科目申請ボタンを押して申請します。



- 登録結果を確認しましょう。

各登録の発表日時になると、申請した科目の登録結果が発表されます。登録が認められた科目は「決定」、抽選の結果、登録できなかった科目については「選外」、登録エラーのため登録できなかった科目については「不可」がそれぞれ表示されます。

科目区分	単位	状態/希望順位
基礎・社会	4	申請中
基礎・社会	4	申請中
基礎・人文	2	選外
必修・英語 I	2	決定 英語 I (必修)~3/25/2

4. Web 科目登録上の注意事項

申請科目のチェック機能について

Web 科目登録では、科目申請時に以下のチェックが行われエラー情報を表示します。

[主な登録エラー]

エラー名称	エラー内容	解消方法
既登録エラー	既に登録されている科目を申請している	申請できないため科目取消する
希望順位重複エラー	希望順位を指定する場合に既に同一の希望順位で科目を申請している	同一希望順位の科目についていずれかを科目取消する
曜日時限重複エラー	既に申請・登録されている科目と曜日時限が重複する科目を申請している	いずれかの科目を取消する
前提条件エラー	履修の前提となる条件を満たしていない	申請できないため科目取消する
遠距離エラー	休み時間内で移動できないキャンパスの科目を申請している	いずれかの科目を取消する
制限単位数エラー	登録可能な単位数の上限を超えて申請している	いずれかの科目を取消するか、修正せずに申請を行う (※)

この他にも履修規則上のエラーがあります。内容がわからない場合は、「科目登録関連冊子」などを参照して問題を解決してください。

※制限単位数エラーは修正しなくても申請可能です。但し、エラーのまま申請を行った場合は、登録結果発表時に無作為に選ばれた科目がエラーとなるため注意してください。

5. その他の機能

- 関連ページへのリンク

科目検索画面の備考欄に「関連 URL」ボタンが表示される科目は、関連するホームページへのリンクが設定されています。必要な情報が記載されていますので、必ずクリックして確認ください。

備考	科目名
関連URL	EU/欧州統合研究入門

- 志望理由等の入力が必要な科目

科目検索画面の備考欄に「入力有」が表示される科目は、別画面から「申請フォーム」を呼び出し、志望理由などの内容を入力する必要がある科目です。

※申請フォームは 120 分間操作がないとセッションが切れ、再度呼び出す必要がありますのでご注意ください。

備考	科目名
入力有	EU/欧州統合研究入門

- 聴講料等が必要な科目
科目検索画面の備考欄に「¥(要聴講料等)」が表示される科目は、聴講料等が必要な科目です。

備考	科目名
¥(要聴講料等) 関連URL	General Tutorial English (初級) 37 (早稲田)

- Web シラバスの参照
科目選択画面で科目名をクリックすると、該当科目の Web シラバスを参照することが可能です。

科目名	担当教員
学際研究入門(現代福祉)	久塚 純一

6. エラー表示について

- サービスを提供することができない場合
以下のメッセージが表示された場合は、[お問い合わせフォーム]ボタンを押し、必要事項を記載の上、問い合わせを行ってください。

早稲田大学事務サービス
Welcomeback [] さん
学生向けサービス

サービスを提供することができませんでした。 2014-01-27 17:26:32
エラーコード:1122-03.5

このエラーに関するお問い合わせはフォームから必要事項を記載し、送信してください。
お問い合わせフォーム

※内容によっては、返信メールに時間がかかる場合があります。

- 操作を受け付けることができない場合
全てのブラウザを閉じて、「成績照会・科目登録専用ログイン」からログインしてご利用ください。

早稲田大学事務サービス
Welcomeback [] さん
学生向けサービス

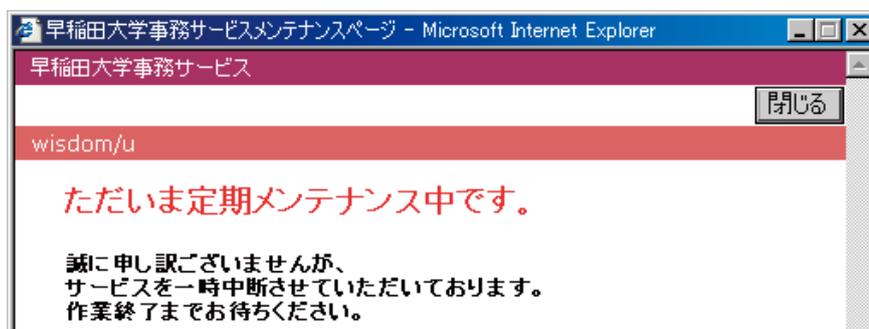
操作を受け付けることができません。
次の原因が考えられます。

- ※初期ログインIDでログインしている。
- ※「成績照会・科目登録専用メニュー」から「科目登録」を選択していない。
- ※「成績照会・科目登録専用メニュー」から「科目登録」を選択した後、長時間操作していない。

※初期ログインIDでログインしている場合は、WasedaID取得後にご利用ください。
※「科目登録」は必ず「成績照会・科目登録専用メニュー」から「科目登録」を選択してください。

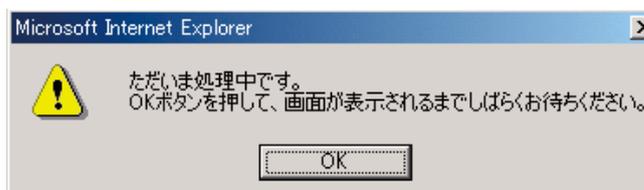
● メンテナンス中の場合

Web 科目登録システムはシステム最適化作業のため、毎日、メンテナンス時間を設けています（2:00AM～8:00AM）。メンテナンス中の場合、以下のメッセージが表示されます。



● 同じボタンを続けて複数回押してしまった場合

[OK]ボタンを押して、処理が終了するまでお待ちください。



7. 推奨環境について

Web 科目登録の推奨環境は下記のウェブサイトをご確認ください。

http://www.waseda.jp/navi/services/system/sys_requirements.html

以上

4. よくある質問集

科目登録期間中には様々な問い合わせが事務所に寄せられますが、中でも毎年頂く質問をピックアップしました。実際に科目登録を行う中で分からないことがあればこちらを参考にしてください。また、ここに掲載されている質問を含む「よくある質問集（完全版）」が社会科学部 HP に掲載されておりますので、疑問が解決しない場合はそちらもご確認ください。

初年次教育について

- Q1：初年次教育科目（「ラーニング・コミュニティ」、「学術的文章の作成」、「統計リテラシー」）が不合格になった場合はどうすればよいですか？
- A1：初年次教育科目が不合格になった場合は、秋学期の科目登録時に再履修クラスが自動登録されます。なお、「学術的文章の作成」及び「統計リテラシー」については再履修クラスが不合格になった場合は次年度以降に再履修科目をご自身で登録する必要がありますのでご注意ください。

必修英語について

- Q2：入学時の WeTEC のスコアで「必修英語免除」と言われたのですが、必修英語科目を受けなくてもよいのでしょうか？
- A2：必修英語科目が免除となった学生は必修英語代替科目として①社会科学部設置「グローバルラーニング」、②社会科学部英語学位プログラム提供科目、③グローバルエデュケーションセンター提供の指定英語科目の中から 6 単位分選択し、それに、「Turtrial English（2 単位分）」を加えた合計 8 単位分を履修する必要があります。
- Q3：「Turtrial English」の受講には聴講料の支払いが必要と聞いたのですが…
- A3：必修科目（「英語 1-2」）として登録されている「Turtrial English」については入学時の学費に含まれているので改めてお支払頂く必要はありませんが、ご自身で登録した「Turtrial English」は聴講料の支払いが必要となります。

教養外国語について

- Q4：入学時に選択した教養外国語を変更することは出来ますか？
- A4：在学中に一度だけ変更することが出来ます。なお、変更できる言語は社会科学部設置言語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）に限ります。また、変更を行った場合は既に修得した教養外国語科目は自由科目扱いとなり卒業単位には算入されません。
- Q5：教養外国語が不合格になってしまったらどうすればよいですか？
- A5：教養外国語の再履修科目は自動登録されません。次年度以降の教養外国語再履修登録期間にご自身で登録してください。なお、春学期の不合格科目は春学期に、秋学期の不合格科目は秋学期に登録する必要があります。

選択外国語について

- Q6：教養外国語で選択しなかった社会科学部設置の外国語科目（「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「スペイン語」）を選択外国語として履修したいのですがどうすればよいでしょうか？
- A6：1 次登録開始前に社会科学部事務所から案内メールが届きますので、そのメールに記載された URL から申請フォームにアクセスして登録申請を行ってください。その際に既に登録されている科目やこれから登録する科目と曜日時限が重複しないよう注意してください。曜日時限が重複した場合は登録することが出来ません。

コア科目について

- Q7：新入生必修科目登録で自動登録されたコア科目を取消・変更したいのですがどうすればよいですか？
- A7：自動登録されたコア科目を取消したい場合は 3 次登録期間中に取消処理を行ってください。また、変更を希望されている場合でも一度決定しているコア科目を取り消す必要があります。なお、定員に達した科目は検索することが出来なくなりますので、変更できるコア科目は 3 次登録まで定員に空きのある科目に限られます。

積み上げ科目について

Q8：登録した覚えのない「○○○○（科目名）Ⅱ」という科目が登録されているのですが何かの間違いですか？

A8：春学期に科目名の末尾に「Ⅰ」がついた科目を履修し合格した場合は積み上げ科目として科目名の末尾に「Ⅱ」のついた科目が自動登録されます。履修を希望しない場合は1次登録から取消が可能となりますので必ずご自身で取り消してください。「積み上げ科目」の詳細はP.45をご確認ください。

ゼミナールについて

Q9：履修したい授業とゼミナールがの曜日時限が重複しているので、ゼミナールを取り消したいです。

A9：いかなる理由であっても学期途中でゼミナールを取り消すことは出来ません。現在履修しているゼミナールの次年度の履修を望まない場合は「ゼミナール非継続願」を3月末日までに事務所までご提出ください。

他学部・他センター提供科目の取扱について

Q10：××××学部の「△△△△」という科目は卒業に必要な単位に算入されますか？

A10：P.44の表を参考に、お問い合わせ頂いた科目がどの科目区分に当てはまるかご確認ください。

科目の取消・区分変更について

Q11：1次又は2次登録期間で決定した他学部・他センター設置の科目を取り消したいのですが可能でしょうか？

A11：一度登録された他学部・他センター提供科目は取り消すことが出来ません。登録制限単位数等の兼ね合いでどうしても算入単位数を減らしたい場合は区分変更のみ認められておりますので「超過履修」に区分を変更してください。「超過履修」に変更することで算入単位に含まれない形で履修することが可能となります。

Q12：必修英語代替科目として登録した「グローバルラーニング」や英語学位プログラム提供科目が取り消せないのですか？

A12：必修英語代替科目として登録された科目は「外国語科目」扱いとなりますので登録を取り消すことは出来ません。

科目の検索について

Q13：「□□□□□□」という科目が検索しても表示されなくて困っています！どうかしてください！

A13：履修を希望されている科目が科目検索に表示されない場合は以下①～④の点をご確認ください。それでも科目が表示されないもしくは科目が表示されない原因が分からない場合は社会科学部事務所までご連絡ください。

①履修を希望されている科目が「休講」になっていないか最新の情報をHPで確認する。

→開講予定であった科目が直前で「休講」になる場合があります。その場合は学部HPにて周知いたします。

②履修を希望されている科目のシラバスで開講学期と配当年次を改めてご確認ください。

→ほとんどの科目が開講する学期に登録可能となります。また、配当年次より学年が下の場合は検索に表示されません。

③余裕定員表で履修を希望する科目の定員をご確認ください。

→履修定員に達した段階でその科目は「締切」となります。「締切」となった科目は検索に表示されなくなります。

④履修を希望する科目が他学部提供科目である場合、「オープン科目」又は「他学部聴講科目」かどうかご確認ください。

→「オープン科目」の場合、検索できるのは1次登録期間中のみとなります。

→「他学部聴講科目」の場合、検索できるのは3次登録期間中のみとなります。また定員に空きがある科目に限ります。

Ⅲ. 資格

本章に記載された科目情報は 2021 年 1 月末時点の情報で、変更の可能性があります。
変更が生じた場合には、社会科学部 Web サイトにてお知らせいたします。

1. 教員免許状

社会科学部に所属する学生が取得できる教員免許状は、**中学校1種：社会、高等学校1種：地理歴史・公民・商業・情報**の計5種類です。教員免許状を取得するためには、本学部を卒業し「学士（社会科学）」を取得することに加えて、次ページの最低修得単位数を満たす必要があります。

また、本科目登録の手引きには最低必要単位数のみ掲載していますので、教育学部発行の「2021年度 教職課程履修の手引き」にて、詳細の履修ルールや必要科目等を必ず確認してください。

なお、教育職員免許法及び同法施行規則が改正され、2019年4月1日より施行されています。これにより2019年度以降入学者と2018年度以前入学者では適用法令が異なりますので、自身の適用法令を確認し、次ページ以降該当する内容をご確認ください。

免許状の申請について

3月卒業と同時に免許状所要資格を得る者については大学で一括して東京都教育委員会に免許状を申請し、卒業式当日に手渡しています。一括申請手続きについては、卒業年度の5月頃に発表されます。

1-1. 新課程適用者（2019年度以降入学者）

◆免許状取得 最低修得単位数

免許状の種類	中学校教諭1種免許状	高等学校教諭1種免許状
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
日本国憲法	2	2
体育（実技）	2	2
外国語コミュニケーション	2	2
情報機器の操作	2	2
	合計8単位	合計8単位
教科及び教職に関する科目		
①教科及び教科の指導法に関する科目	①28	①24
教科に関する専門的事項	※(1)	※(1)
「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」の最低修得単位数	8	4
②「教育の基礎的理解に関する科目」等の最低修得単位数	②27	②23
③「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数	③ 2	③ 0
	①②③の合計59単位 ※(2)	①②③の合計59単位 ※(2)

※(1)「教科に関する専門的事項」は法令上の最低修得単位数は定めていません。ただし、「教科に関する専門的事項」ならびに「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」との合算で、①の単位数（中学校 28 単位、高等学校 24 単位）を修得する必要があります。

※(2) それぞれの科目の最低修得単位数だけでは、総単位数 59 単位を満たすことができません。任意の科目において最低修得単位数以上の単位を修得し、①②③の総単位数を必ず 59 単位以上にしてください。

◇日本国憲法 本学部設置の「憲法 I」で充たされます。

◇体育（実技） グローバルエデュケーションセンター設置の「スポーツ実習」を合計で 2 単位以上取得することで充たされます。

◇外国語コミュニケーション 本学部必修科目の「英語 1 - 2」または「英語 2 - 2」で充たされます。

◇情報機器の操作

設置箇所	該当科目
社会科学部	社会科学のための基礎コンピュータ、情報システム、マルチメディア、金融データ解析 1・2、情報科学論
GEC	プログラミング入門、プログラミング初級（C/C++）、プログラミング初級（Java）、プログラミング中級（Java）、プログラミング中級（C/C++）、アルゴリズムとデータ構造α、アルゴリズムとデータ構造β、ソフトウェア開発技術α、ソフトウェア開発技術β、情報セキュリティ技術、Web デザイン実践、プログラミング中級（Visual basic）、サーバサイド Web プログラム初級・中級、クライアントサイド Web プログラミング初級・中級、データベース（SQL 入門）、データベース（管理と運用）、マルチメディア初級・中級（画像処理とアニメーション）α・β、ミュージック・プログラミング、CG エンジニア入門

◇教科及び教科の指導法に関する科目

「教科に関する専門的事項」および「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」の総称となります。「教科に関する専門的事項」は社会科学部設置科目で履修することになりますが、免許状の教科によって履修方法が異なります。詳細は次頁以降を参照してください。「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」は教育学部設置科目の科目を履修してください。

◇「教育の基礎的理解に関する科目」等

教職課程科目として教育学部に設置されている科目を履修してください。詳細は「教職課程履修の手引き」（教育学部発行）を参照してください。

◇大学が独自に設定する科目

中学校が免許の取得を希望する場合は、「介護等体験実習講義」の履修が必須となりますが、それ以外にも「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」の最低修得単位数を超えて修得した単位がここに加算されます。「大学が独自に設定する科目」として教育学部に設置されている科目を履修することも可能です。詳細は「教職課程履修の手引き」（教育学部発行）を参照してください。

教科に関する専門的事項（中学校 1種・社会）【新課程（2019年度以降入学者）】

文科省 科目分類	履修 方法	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
日本史・ 外国史	全て必修	日本史概論1	2	外国史概論1	2				
		日本史概論2	2	外国史概論2	2				
	選択	比較経済史1	2	歴史学(ヨーロッパ史)1	2	Social History 1	2		
		比較経済史2	2	歴史学(ヨーロッパ史)2	2	Social History 2	2		
		政治学史Ⅰ	2	歴史学(日中関係史)1	2	ソシオダイナミクス1	2		
		政治学史Ⅱ	2	歴史学(日中関係史)2	2	ソシオダイナミクス2	2		
		歴史学(日本史)1	2	歴史学(アジア史)1	2	商業史Ⅰ	2		
		歴史学(日本史)2	2	歴史学(アジア史)2	2	商業史Ⅱ	2		
		西洋経済史	2						
		日本政治史Ⅰ	2						
日本政治史Ⅱ	2								
地理学(地誌 を含む。)	必修(注1)	人文地理学	2	自然地理学Ⅰ	2	地理Ⅰ ※	2		
	1科目必修	地誌	2	自然地理学Ⅱ	2	地理Ⅱ ※	2		
「法律学、 政治学」	選択	地理Ⅲ ※	2	地誌Ⅱ ※	2				
	必修(注2)	公法入門(国家と法)	2	政治学原論Ⅰ	2	政治学入門	2		
		私法入門(市民と法)	2	政治学原論Ⅱ	2				
	選択	政治分析の基礎	2	現代政治制度論(フランス)	2	知的財産権法(特許法、商標法、不正競争防止法)	2		
		国際関係論入門	2	現代政治制度論(スペイン)	2	環境法1[公害規制法]	2		
		法制文明論1	2	現代政治制度論(アメリカ合衆国)	2	環境法2[自然保護法]	2		
		法制文明論2	2	現代政治分析(イタリア)	2	法社会学Ⅰ	2		
		政策科学1[政策過程の諸モデル]	2	現代政治分析(ドイツ)	2	法社会学Ⅱ	2		
		政策科学2[日本の政策過程]	2	現代政治分析(イギリス)	2	刑事政策	2		
		EU地域研究Ⅰ	2	現代政治分析(スペイン)	2	比較政治制度論1	2		
		EU地域研究Ⅱ	2	現代政治分析(アメリカ合衆国)	2	比較政治制度論2	2		
		政治分析	2	政治行動論Ⅰ	2	現代市民権理論	2		
		比較政治学	2	政治行動論Ⅱ	2	ヨーロッパ市民社会論Ⅰ	2		
		国会論	2	太平洋地域海洋国家研究	2	ヨーロッパ市民社会論Ⅱ	2		
		比較議会論	2	憲法Ⅰ	2	現代選挙論1	2		
		立法過程論	2	憲法Ⅱ	2	現代選挙論2	2		
		地域自治論1	2	民法1[総則]	2	雇用関係法Ⅰ	2		
		地域自治論2	2	民法2[物権]	2	雇用関係法Ⅱ	2		
		選挙制度論	2	民法3[債権総論]	2	現代雇用社会の法と政策	2		
		国際NGO協力論	2	民法4[債権各論]	2	労使関係法	2		
		国際開発制度論	2	民法5[親族]	2	人間の安全保障論	2		
		政治過程論1	2	民法6[相続]	2	社会保障の法と政策1	2		
		政治過程論2	2	刑法総論Ⅰ[犯罪論の基本構造]	2	社会保障の法と政策2	2		
		国際関係論	2	刑法総論Ⅱ[犯罪の諸形態]	2	国際人権論1	2		
		行政学Ⅰ	2	刑法各論1[個人、社会、国家に対する罪]	2	国際人権論2	2		
		行政学Ⅱ	2	刑法各論2[財産に対する罪]	2				
		平和学Ⅰ	2	国際法1	2				
		平和学Ⅱ	2	国際法2	2				
		平和構築論	2	国際経済法1	2				
		国際政治理論	2	国際経済法2	2				
		情報政治論	2	医事法	2				
		現代政治制度論(イタリア)	2	生命倫理と法1 [生命の始期に関わる諸問題]	2				
		現代政治制度論(ドイツ)	2	生命倫理と法2 [生命の終期に関わる諸問題]	2				
		現代政治制度論(イギリス)	2	知的財産権法(著作権法)	2				
		「社会学、 経済学」	必修(注3)	社会学入門	2	マクロ経済学	4	経済学入門1(ミクロ経済学)	2
				社会学原論	2	ミクロ経済学Ⅰ	2	経済学入門2(マクロ経済学)	2
			選択	社会科学の基礎	2	社会調査法1	2	移行経済論Ⅰ	2
				社会調査の基礎	2	社会調査法2	2	移行経済論Ⅱ	2
				ゲーム理論の基礎	2	社会統計の読み方	2	経済動学Ⅰ	2
				社会科学方法論	2	経済数学1	2	経済動学Ⅱ	2
				比較近代社会思想1	2	経済数学2	2	公共経済論Ⅰ	2
	比較近代社会思想2			2	ミクロ経済学Ⅱ	2	公共経済論Ⅱ	2	
	近代経済社会思想史1			2	応用マクロ経済学	4	日本研究1	2	
	近代経済社会思想史2			2	応用ミクロ経済学1	2	日本研究2	2	
	ジェンダー論Ⅰ			2	応用ミクロ経済学2	2	社会学の思想と理論	2	
	ジェンダー論Ⅱ			2	社会科学のための回帰分析Ⅰ	2	法と経済学Ⅰ	2	
	労働問題1			2	社会科学のための回帰分析Ⅱ	2	法と経済学Ⅱ	2	
	労働問題2			2	応用計量経済学Ⅰ	2	公共事業論	2	
	世界人口論入門			2	応用計量経済学Ⅱ	2	現代社会学の方法	2	
	国際人口移動論入門			2	産業構造論	2	環境社会学1	2	
現代家族論1	2			環境の産業連関分析	2	環境社会学2	2		
現代家族論2	2			食料と農業の経済学1[食料需給の決定要因と食料問題、農業調整問題]	2	社会問題の社会学1	2		
ポピュラーカルチャーの社会学	2			食料と農業の経済学2[日本の経験と教訓]	2	社会問題の社会学2	2		
日常生活の社会学	2			制度設計の経済学Ⅰ	2	金融経済論	2		
社会意識論	2			制度設計の経済学Ⅱ	2	国際金融論	2		
知識社会学	2			実証経済学	2				
「哲学、 倫理学、 宗教学」	必修(注4)			倫理学1	2	哲学総論	2		
				倫理学2	2				
	選択	西洋哲学	2	東洋哲学2	2	中国哲学2	2		
		東洋哲学1	2	中国哲学1	2				

※教育部設置科目

(注1)「地理学」は、①～②の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 人文地理学と自然地理学Ⅰ・Ⅱを選択する場合は、3科目とも履修。
- ② 地理Ⅰ・Ⅱを選択する場合は、2科目とも履修。

(注3)「社会学、経済学」は①～④の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 社会学入門を選択する場合は、1科目履修で可。
- ② 経済学入門を選択する場合は、1・2両方とも履修。
- ③ 社会学原論を選択する場合は、1科目履修で可。
- ④ マクロ経済学とミクロ経済学Ⅰを選択する場合は、2科目とも履修。

(注2)「法律学、政治学」は①～③の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 公法入門と私法入門を選択する場合は、2科目とも履修。
- ② 政治学入門を選択する場合は、1科目履修で可。
- ③ 政治学原論Ⅰ・Ⅱを選択する場合は、2科目とも履修。

(注4)「哲学、倫理学、宗教学」は①～②の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 哲学総論を選択する場合は、1科目履修で可。
- ② 倫理学を選択する場合は、1・2両方とも履修。

教科に関する専門的事項（高等学校 1 種・地理歴史）【新課程（2019 年度以降入学者）】

文科省 科目分類	履修 方法	科目名	単位数	科目名	単位数
日本史	全て必修	日本史概論 1	2	日本史概論 2	2
	選択	ソシオダイナミクス 1	2	歴史学(日中関係史) 1	2
		日本政治史 I	2	歴史学(日中関係史) 2	2
		日本政治史 II	2	歴史学(日本史) 1	2
				歴史学(日本史) 2	2
外国史	全て必修	外国史概論 1	2	外国史概論 2	2
	選択	商業史 I	2	比較経済史 1	2
		商業史 II	2	比較経済史 2	2
		歴史学(アジア史) 1	2	西洋経済史	2
		歴史学(アジア史) 2	2	政治学史 I	2
		Social History 1	2	政治学史 II	2
		Social History 2	2	歴史学(ヨーロッパ史) 1	2
		ソシオダイナミクス 2	2	歴史学(ヨーロッパ史) 2	2
人文地理学・ 自然地理学	必修 (注1)	人文地理学	2	地理 I ※	2
		自然地理学 I	2	地理 II ※	2
		自然地理学 II	2	地理 III ※	2
地誌	必修 (注2)	地誌	2	地誌 I ※	2
				地誌 II ※	2

※教育学部設置科目

(注1) 「人文地理学・自然地理学」は、次の2通りの履修方法の内、いずれかを選択必修してください。

- ① 人文地理学と自然地理学 I・II を選択する場合は、3科目とも履修しなければなりません。
- ② 地理 I・地理 II・地理 III を選択する場合は、3科目とも履修しなければなりません。

(注2) 「地誌」は、次の2通りの履修方法の内、いずれかを選択必修してください。

- ① 地誌を選択する場合は、1科目履修で可。
- ② 地誌 I と地誌 II を選択する場合は、両方とも履修しなければなりません。

教科に関する専門的事項（高等学校1種・公民）【新課程（2019年度以降入学者）】

文科省 科目分類	履修 方法	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
法律学(国際法を含む)、 政治学(国際政治を含む)	必修(注1)	公法入門(国家と法)	2	政治学原論Ⅰ	2	政治学入門	2		
		私法入門(市民と法)	2	政治学原論Ⅱ	2				
	選択	政治分析の基礎	2	現代政治制度論(イギリス)	2	生命倫理と法2[生命の終期に関わる諸問題]	2		
		国際関係論入門	2	現代政治制度論(フランス)	2	知的財産権法(著作権法)	2		
		法制文明論1	2	現代政治制度論(スペイン)	2	知的財産権法(特許法、商標法、不正競争防止法)	2		
		法制文明論2	2	現代政治制度論(アメリカ合衆国)	2	環境法1[公害規制法]	2		
		政策科学1[政策過程の諸モデル]	2	現代政治分析(イタリア)	2	環境法2[自然保護法]	2		
		政策科学2[日本の政策過程]	2	現代政治分析(ドイツ)	2	法社会学Ⅰ	2		
		EJ地域研究Ⅰ	2	現代政治分析(イギリス)	2	法社会学Ⅱ	2		
		EJ地域研究Ⅱ	2	現代政治分析(スペイン)	2	刑事政策	2		
		政治分析	2	現代政治分析(アメリカ合衆国)	2	比較政治制度論1	2		
		比較政治学	2	政治行動論Ⅰ	2	比較政治制度論2	2		
		国会論	2	政治行動論Ⅱ	2	現代市民権論	2		
		比較議会論	2	太平洋地域海洋国家研究	2	ヨーロッパ市民社会論Ⅰ	2		
		立法過程論	2	憲法Ⅰ	2	ヨーロッパ市民社会論Ⅱ	2		
		地域自治論1	2	憲法Ⅱ	2	現代選挙論Ⅰ	2		
		地域自治論2	2	民法1[総則]	2	現代選挙論2	2		
		選挙制度論	2	民法2[物権]	2	雇用関係法Ⅰ	2		
		国際NGO協力論	2	民法3[債権総論]	2	雇用関係法Ⅱ	2		
		国際開発制度論	2	民法4[債権各論]	2	現代雇用社会の法と政策	2		
		政治過程論1	2	民法5[親族]	2	労使関係法	2		
		政治過程論2	2	民法6[相続]	2	人間の安全保障論	2		
		国際関係論	2	刑法総論Ⅰ[犯罪論の基本構造]	2	社会保障の法と政策1	2		
		行政学Ⅰ	2	刑法総論Ⅱ[犯罪の諸形態]	2	社会保障の法と政策2	2		
		行政学Ⅱ	2	刑法各論1[個人、社会、国家に対する罪]	2	国際人権論1	2		
		平和学Ⅰ	2	刑法各論2[財産に対する罪]	2	国際人権論2	2		
		平和学Ⅱ	2	国際法1	2				
		平和構築論	2	国際法2	2				
		国際政治理論	2	国際経済法1	2				
		情報政治論	2	国際経済法2	2				
		現代政治制度論(イタリア)	2	医事法	2				
		現代政治制度論(ドイツ)	2	生命倫理と法1[生命の始期に関わる諸問題]	2				
	社会学、経済学 (国際経済を含む)	必修(注2)	社会学入門	2	マクロ経済学	4	経済学入門1[ミクロ経済学]	2	
社会学原論			2	ミクロ経済学Ⅰ	2	経済学入門2[マクロ経済学]	2		
選択		社会科学の基礎	2	社会調査法1	2	移行経済論Ⅰ	2		
		社会調査の基礎	2	社会調査法2	2	移行経済論Ⅱ	2		
		ゲーム理論の基礎	2	社会統計の読み方	2	経済動学Ⅰ	2		
		社会科学方法論	2	経済数学1	2	経済動学Ⅱ	2		
		比較近代社会思想1	2	経済数学2	2	公共経済論Ⅰ	2		
		比較近代社会思想2	2	ミクロ経済学Ⅱ	2	公共経済論Ⅱ	2		
		近代経済社会思想史1	2	応用マクロ経済学	4	日本研究Ⅰ	2		
		近代経済社会思想史2	2	応用ミクロ経済学1	2	日本研究2	2		
		ジェンダー論Ⅰ	2	応用ミクロ経済学2	2	社会学の思想と理論	2		
		ジェンダー論Ⅱ	2	社会科学のための回帰分析Ⅰ	2	法と経済学Ⅰ	2		
		労働問題1	2	社会科学のための回帰分析Ⅱ	2	法と経済学Ⅱ	2		
		労働問題2	2	応用計量経済学Ⅰ	2	公共事業論	2		
		世界人口論入門	2	応用計量経済学Ⅱ	2	現代社会学の方法	2		
		国際人口移動論入門	2	産業構造論	2	環境社会学1	2		
		現代家族論1	2	環境の産業連関分析	2	環境社会学2	2		
		現代家族論2	2	食料と農業の経済学1[食料供給の決定要因と食料問題・農業調整問題]	2				
		ポピュラー・カルチャーの社会科学	2	食料と農業の経済学2[日本の経験と教訓]	2				
		日常生活の社会学	2	制度設計の経済学Ⅰ	2				
		社会意識論	2	制度設計の経済学Ⅱ	2				
		社会問題の社会学1	2	金融経済論	2				
		社会問題の社会学2	2	国際金融論	2				
		知識社会学	2	実証経済学	2				
		哲学、倫理学、宗教学、 心理学	必修(注3)	倫理学1	2	哲学総論	2	心理学概論	2
				倫理学2	2				
選択	西洋哲学		2	中国哲学1	2	臨床心理学Ⅰ	2		
	東洋哲学1		2	中国哲学2	2	臨床心理学Ⅱ	2		
	東洋哲学2		2	臨床哲学	2				

(注1)「法律学、政治学」は①～③の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 公法入門と私法入門を選択する場合は、2科目とも履修。
- ② 政治学入門を選択する場合は、1科目履修で可。
- ③ 政治学原論Ⅰ・Ⅱを選択する場合は、2科目とも履修。

(注3)「哲学、倫理学、宗教学、心理学」は①～③の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 哲学総論を選択する場合は、1科目履修で可。
- ② 倫理学を選択する場合は、1・2両方とも履修。
- ③ 心理学概論を選択する場合は、1科目履修で可。

(注2)「社会学、経済学」は①～④の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 社会学入門を選択する場合は、1科目履修で可。
- ② 経済学入門を選択する場合は、1・2両方とも履修。
- ③ 社会学原論を選択する場合は、1科目履修で可。
- ④ マクロ経済学とミクロ経済学Ⅰを選択する場合は、2科目とも履修。

Ⅲ. 資格

1. 教員免許状

教科に関する専門的事項（高等学校 1 種・商業）【新課程（2019 年度以降入学者）】

文科省 科目分類	履修 方法	科目名	配当 年次	単位数	科目名	配当 年次	単位数
職業指導	全て必修	職業指導 1	3年～	2			
		職業指導 2	3年～	2			
商業の関係 科目	選択	グローバル・サプライチェーン・マネジメント	2年～	4	流通論 I	3年～	2
		ビジネス・イングリッシュ I	2年～	2	流通論 II	3年～	2
		ビジネス・イングリッシュ II	2年～	2	生産システム論	3年～	2
		マーケティング入門	1年～	2	産業組織論	3年～	4
		リスクマネジメントと保険 I	3年～	2	管理会計	3年～	4
		リスクマネジメントと保険 II	3年～	2	簿記	1年～	4
		人的資源管理論 I	3年～	2	経営のための経済学	1年～	4
		人的資源管理論 II	3年～	2	経営学	2年～	4
		企業財務論	3年～	4	経営学入門	1年～	2
		会社法 1[会社のガバナンス]	1年～	2	経営戦略 1	3年～	2
		会社法 2[会社のファイナンス]	1年～	2	経営戦略 2	3年～	2
		会社法 3[組織再編・M&A]	3年～	2	経営科学 1	2年～	4
		会社法総則	1年～	2	経営科学 2	3年～	4
		会計学	2年～	4	経営管理論	3年～	4
		会計学入門	1年～	2	経営組織論	3年～	4
		会計監査論	3年～	4	証券論	2年～	4
		原価計算	3年～	4	金融商品取引法 1[総論・流通市場規制等]	3年～	2
		国際経営論 1	2年～	2	金融商品取引法 2[発行市場規制・業者規制等]	3年～	2
		国際経営論 2	2年～	2	外部報告会計論	3年～	4
		国際貿易論 1	2年～	2	経営分析	2年～	2
国際貿易論 2	2年～	2	ビジネスのためのデータサイエンス	2年～	4		

教科に関する専門的事項（高等学校 1 種・情報）【新課程（2019 年度以降入学者）】

文科省 科目分類	履修 方法	科目名	配当 年次	単位数	科目名	配当 年次	単位数
情報社会・情報倫理	必修	法情報学	3年～	2			
	選択	データ倫理	3年～	1			
コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)	必修	社会科学のための基礎コンピュータ	1年～	4			
	選択	地理情報システム論 I	1年～	2	プログラミング入門※	1年～	1
		地理情報システム論 II	1年～	2	RIによる統計解析※	1年～	1
		金融データ解析 1	3年～	2	サーバサイドWebプログラミング初級※	1年～	2
		金融データ解析 2	3年～	2	クライアントサイドWebプログラミング初級※	1年～	2
		Webデザイン実践 ※	1年～	2			
情報科学の基礎※	1年～	2					
情報システム (実習を含む。)	必修	情報システム	3年～	2			
	選択	情報科学論	1年～	4			
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	全て必修	ネットワーク技術初級※	1年～	2	ネットワーク技術準中級※	1年～	2
	選択						
マルチメディア表現・ マルチメディア技術 (実習を含む。)	必修	マルチメディア	3年～	2			
	選択	メディア論 1	1年～	2	メディア論 3	1年～	2
		メディア論 2	1年～	2	メディア論 4	1年～	2
情報と職業	1科目必修	情報化社会とワーキングスタイル	1年～	2	ITとビジネス※	1年～	2

※グローバルエデュケーションセンター設置科目

※「社会科学のための基礎コンピュータ」「情報システム」「マルチメディア」は情報免許の必修科目となっていることから、情報免許を希望する学生を優先的に登録します（要申請）。希望する場合は、科目 1 次登録期間の前に、社会科学部事務所で「情報科免許状取得のための実習科目登録願」（社会科学部事務所にて配付）を提出してください。

1-2. 旧課程適用者（2018年度以前入学者）

◆免許状取得 最低修得単位数

免許状の種類	中学校教諭1種免許状	高等学校教諭1種免許状
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
日本国憲法	2	2
体育（実技）	2	2
外国語コミュニケーション	2	2
情報機器の操作	2	2
	合計8単位	合計8単位
「教科に関する科目」の最低修得単位数	①20	①20
「教職に関する科目」の最低修得単位数※(1)	②31単位（特別活動論（中・高） 2019年度以降履修者） または ②32単位（特別活動論（中・高） 2018年度以前履修者）	②25単位（特別活動論（中・高） 2019年度以降履修者） または ②26単位（特別活動論（中・高） 2018年度以前履修者）
「教科又は教職に関する科目」の最低修得単位数	③2	③0
	①②③の合計59単位※(2)	①②③の合計59単位※(2)

※(1) 特別活動論（中・高）は2019年度より、単位数が2単位から1単位に変更になりました。

※(2) それぞれの科目の最低修得単位数だけでは、総単位数59単位を満たすことができません。任意の科目において最低修得単位数以上の単位を修得し、①②③の総単位数を必ず59単位以上にしてください。

◇**日本国憲法** 本学部設置の「**憲法 I**」で充当できます。

◇**体育（実技）** グローバルエデュケーションセンター設置の「**スポーツ実習**」を合計で**2単位以上**取得することで充当されます。

◇**外国語コミュニケーション** 本学部必修科目の「**英語 1 - 2**」または「**英語 2 - 2**」で充当できます。

◇**情報機器の操作**

設置箇所	該当科目
社会科学部	社会科学のための基礎コンピュータ、情報システム、マルチメディア、金融データ解析 1・2、情報科学論
GEC	プログラミング入門、プログラミング初級（C/C++）、プログラミング初級（Java）、プログラミング中級（Java）、プログラミング中級（C/C++）、アルゴリズムとデータ構造α、アルゴリズムとデータ構造β、ソフトウェア開発技術α、ソフトウェア開発技術β、情報セキュリティ技術、Web デザイン実践、プログラミング中級（Visual basic）、サーバサイド Web プログラム初級・中級、クライアントサイド Web プログラミング初級・中級、データベース（SQL 入門）、データベース（管理と運用）、マルチメディア初級・中級（画像処理とアニメーション）α・β、ミュージック・プログラミング、CG エンジニア入門

◇**教科に関する科目**

取得する免許状の教科によって履修方法が異なります。詳細は次頁以降を参照してください。

◇**教職に関する科目**

教職課程科目として教育学部に設置されている科目を履修してください。詳細は「教職課程履修の手引き」（教育学部発行）を参照してください。

◇**教科又は教職に関する科目**

「教科に関する科目」「教職に関する科目」の最低修得単位数を超えて修得した単位が加算されます。もしくは、教職課程科目として教育学部に設置されている科目を履修してください。詳細は「教職課程履修の手引き」（教育学部発行）を参照してください。

Ⅲ. 資格

1. 教員免許状

教科に関する科目（中学校 1種・社会）【旧課程（2018年度以前入学者）】

文科省 科目分類	履修 方法	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
日本史 及び 外国史	全て必修	日本史概論1	2	外国史概論1	2				
		日本史概論2	2	外国史概論2	2				
	選択	比較経済史1	2	歴史学(ヨーロッパ史)1	2	Social History 1	2		
		比較経済史2	2	歴史学(ヨーロッパ史)2	2	Social History 2	2		
		政治学史 I	2	歴史学(日中間係史)1	2	ソシオダイナミクス1	2		
		政治学史 II	2	歴史学(日中間係史)2	2	ソシオダイナミクス2	2		
		歴史学(日本史)1	2	歴史学(アジア史)1	2	商業史 I	2		
		歴史学(日本史)2	2	歴史学(アジア史)2	2	商業史 II	2		
		西洋経済史	2						
		日本政治史 I	2						
日本政治史 II	2								
地理学 (地誌含む)	必修(注1)	人文地理学	2	自然地理学 I	2	地理 I ※	2		
				自然地理学 II	2	地理 II ※	2		
	1科目必修	地誌	2	地誌 I ※	2				
	選択	地理 III ※	2	地誌 II ※	2				
法学 政治学	必修(注2)	公法入門(国家と法)	2	政治学原論 I	2	政治学入門	2		
		私法入門(市民と法)	2	政治学原論 II	2				
	選択	政治分析の基礎	2	現代政治制度論(フランス)	2	知的財産権法(特許法、商標法、不正競争防止法)	2		
		国際関係論入門	2	現代政治制度論(スペイン)	2	環境法1[公害規制法]	2		
		法制文明論1	2	現代政治制度論(アメリカ合衆国)	2	環境法2[自然保護法]	2		
		法制文明論2	2	現代政治分析(イタリア)	2	法社会学 I	2		
		政策科学1[政策過程の諸モデル]	2	現代政治分析(ドイツ)	2	法社会学 II	2		
		政策科学2[日本の政策過程]	2	現代政治分析(イギリス)	2	刑事政策	2		
		EU地域研究 I	2	現代政治分析(スペイン)	2	比較政治制度論1	2		
		EU地域研究 II	2	現代政治分析(アメリカ合衆国)	2	比較政治制度論2	2		
		政治分析	2	政治行動論 I	2	現代市民権論	2		
		比較政治学	2	政治行動論 II	2	ヨーロッパ市民社会論 I	2		
		国会論	2	太平洋地域海洋国家研究	2	ヨーロッパ市民社会論 II	2		
		比較議会議論	2	憲法 I	2	現代選挙論1	2		
		立法過程論	2	憲法 II	2	現代選挙論2	2		
		地域自治論1	2	民法1[総則]	2	雇用関係法 I	2		
		地域自治論2	2	民法2[物権]	2	雇用関係法 II	2		
		選挙制度論	2	民法3[債権総論]	2	現代雇用社会の法と政策	2		
		国際NGO協力論	2	民法4[債権各論]	2	労使関係法	2		
		国際開発制度論	2	民法5[親族]	2	人間の安全保障論	2		
		政治過程論1	2	民法6[相続]	2	社会保障の法と政策1	2		
		政治過程論2	2	刑法総論 I [犯罪論の基本構造]	2	社会保障の法と政策2	2		
		国際関係論	2	刑法総論 II [犯罪の諸形態]	2	国際人権論1	2		
		行政学 I	2	刑法各論1[個人、社会、国家に対する罪]	2	国際人権論2	2		
		行政学 II	2	刑法各論2[財産に対する罪]	2				
		平和学 I	2	国際法1	2				
		平和学 II	2	国際法2	2				
		平和構築論	2	国際経済法1	2				
		国際政治理論	2	国際経済法2	2				
		情報政治論	2	医事法	2				
		現代政治制度論(イタリア)	2	生命倫理と法1 [生命の始期に関わる諸問題]	2				
		現代政治制度論(ドイツ)	2	生命倫理と法2 [生命の終期に関わる諸問題]	2				
		現代政治制度論(イギリス)	2	知的財産権法(著作権法)	2				
		社会学 経済学	必修(注3)	社会学入門	2	マクロ経済学	4	経済学入門1[ミクロ経済学]	2
				社会学原論	2	ミクロ経済学 I	2	経済学入門2[マクロ経済学]	2
			選択	社会科学の基礎	2	知識社会学	2	移行経済論 I	2
				社会調査の基礎	2	社会調査法1	2	移行経済論 II	2
				統計解析の基礎	2	社会調査法2	2	実証経済学	2
				ゲーム理論の基礎	2	社会統計の読み方	2	経済動学 I	2
				社会科学方法論	2	経済数学1	2	経済動学 II	2
				比較近代社会思想1	2	経済数学2	2	公共経済論 I	2
				比較近代社会思想2	2	ミクロ経済学 II	2	公共経済論 II	2
				近代経済社会思想史1	2	応用マクロ経済学	4	日本研究1	2
				近代経済社会思想史2	2	応用ミクロ経済学1	2	日本研究2	2
				ジェンダー論 I	2	応用ミクロ経済学2	2	社会学の思想と理論	2
				ジェンダー論 II	2	計量経済学 I	2	法と経済学 I	2
				労働問題1	2	計量経済学 II	2	法と経済学 II	2
				労働問題2	2	応用計量経済学 I	2	公共事業論	2
				世界人口論入門	2	応用計量経済学 II	2	現代社会学の方法	2
				国際人口移動論入門	2	産業構造論	2	環境社会学1	2
現代家族論1	2			環境の産業連関分析	2	環境社会学2	2		
現代家族論2	2			食料と農業の経済学1[食料需給の決定要因と食料問題・農業調整問題]	2	社会問題の社会学1	2		
ポピュラーカルチャーの社会科学	2			食料と農業の経済学2[日本の経験と教訓]	2	社会問題の社会学2	2		
日常生活の社会学	2			制度設計の経済学 I	2	金融経済論	2		
社会意識論	2			制度設計の経済学 II	2	国際金融論	2		
哲学 倫理学 宗教学	必修(注4)			倫理学1	2	哲学総論	2		
		倫理学2	2						
	選択	西洋哲学	2	東洋哲学2	2	中国哲学2	2		
		東洋哲学1	2	中国哲学1	2				

※教育学部設置科目

(注1)「地理学」は、①～②の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 人文地理学と自然地理学 I・II を選択する場合は、3科目とも履修。
- ② 地理 I・II を選択する場合は、2科目とも履修。

(注3)「社会学、経済学」は①～④の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 社会学入門を選択する場合は、1科目履修で可。
- ② 経済学入門を選択する場合は、1・2両方とも履修。
- ③ 社会学原論を選択する場合は、1科目履修で可。
- ④ マクロ経済学とミクロ経済学 I を選択する場合は、2科目とも履修。

(注2)「法学、政治学」は①～③の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 公法入門と私法入門を選択する場合は、2科目とも履修。
- ② 政治学入門を選択する場合は、1科目履修で可。
- ③ 政治学原論 I・II を選択する場合は、2科目とも履修。

(注4)「哲学、倫理学、宗教学」は①～②の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 哲学総論を選択する場合は、1科目履修で可。
- ② 倫理学を選択する場合は、1・2両方とも履修。

教科に関する科目（高等学校 1 種・地理歴史）【旧課程（2018 年度以前入学者）】

文科省 科目分類	履修 方法	科目名	単位数	科目名	単位数
日本史	全て必修	日本史概論 1	2	日本史概論 2	2
	選択	ソシオダイナミクス 1	2	歴史学(日中関係史) 1	2
		日本政治史 I	2	歴史学(日中関係史) 2	2
		日本政治史 II	2	歴史学(日本史) 1	2
				歴史学(日本史) 2	2
外国史	全て必修	外国史概論 1	2	外国史概論 2	2
	選択	商業史 I	2	比較経済史 1	2
		商業史 II	2	比較経済史 2	2
		歴史学(アジア史) 1	2	西洋経済史	2
		歴史学(アジア史) 2	2	政治学史 I	2
		Social History 1	2	政治学史 II	2
		Social History 2	2	歴史学(ヨーロッパ史) 1	2
		ソシオダイナミクス 2	2	歴史学(ヨーロッパ史) 2	2
人文地理学 及び 自然地理学	必修 (注1)	人文地理学	2	地理 I ※	2
		自然地理学 I	2	地理 II ※	2
		自然地理学 II	2	地理 III ※	2
地誌	必修 (注2)	地誌	2	地誌 I ※	2
				地誌 II ※	2

※教育学部設置科目

(注1) 「人文地理学及び自然地理学」は、次の2通りの履修方法の内、いずれかを選択必修してください。

- ① 人文地理学と自然地理学 I・II を選択する場合は、3科目とも履修しなければなりません。
- ② 地理 I・地理 II・地理 III を選択する場合は、3科目とも履修しなければなりません。

(注2) 「地誌」は、次の2通りの履修方法の内、いずれかを選択必修してください。

- ① 地誌を選択する場合は、1科目履修で可。
- ② 地誌 I と地誌 II を選択する場合は、両方とも履修しなければなりません。

教科に関する科目（高等学校1種・公民）【旧課程（2018年度以前入学者）】

文科省 科目分類	履修 方法	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
法律学 (国際法を含む) 政治学 (国際政治を含む)	必修 (注1)	公法入門(国家と法)	2	政治学原論Ⅰ	2	政治学入門	2		
		私法入門(市民と法)	2	政治学原論Ⅱ	2				
	選択	政治分析の基礎	2	現代政治制度論(イギリス)	2	生命倫理と法2[生命の終期に関わる諸問題]	2		
		国際関係論入門	2	現代政治制度論(フランス)	2	知的財産権法(著作権法)	2		
		法制文明論1	2	現代政治制度論(スペイン)	2	知的財産権法(特許法、商標法、不正競争防止法)	2		
		法制文明論2	2	現代政治制度論(アメリカ合衆国)	2	環境法1[公害規制法]	2		
		政策科学1[政策過程の諸モデル]	2	現代政治分析(イタリア)	2	環境法2[自然保護法]	2		
		政策科学2[日本の政策過程]	2	現代政治分析(ドイツ)	2	法社会学Ⅰ	2		
		EU地域研究Ⅰ	2	現代政治分析(イギリス)	2	法社会学Ⅱ	2		
		EU地域研究Ⅱ	2	現代政治分析(スペイン)	2	刑事政策	2		
		政治分析	2	現代政治分析(アメリカ合衆国)	2	比較政治制度論1	2		
		比較政治学	2	政治行動論Ⅰ	2	比較政治制度論2	2		
		国会論	2	政治行動論Ⅱ	2	現代市民権理論	2		
		比較議会議論	2	太平洋地域海洋国家研究	2	ヨーロッパ市民社会論Ⅰ	2		
		立法過程論	2	憲法Ⅰ	2	ヨーロッパ市民社会論Ⅱ	2		
		地域自治論1	2	憲法Ⅱ	2	現代選挙論1	2		
		地域自治論2	2	民法1[総則]	2	現代選挙論2	2		
		選挙制度論	2	民法2[物権]	2	雇用関係法Ⅰ	2		
		国際NGO協力論	2	民法3[債権総論]	2	雇用関係法Ⅱ	2		
		国際開発制度論	2	民法4[債権各論]	2	現代雇用法の法と政策	2		
		政治過程論1	2	民法5[親族]	2	労使関係法	2		
		政治過程論2	2	民法6[相続]	2	人間の安全保障論	2		
		国際関係論	2	刑法総論Ⅰ[犯罪論の基本構造]	2	社会保障の法と政策1	2		
		行政学Ⅰ	2	刑法総論Ⅱ[犯罪の諸形態]	2	社会保障の法と政策2	2		
		行政学Ⅱ	2	刑法各論1[個人、社会、国家に対する罪]	2	国際人権論1	2		
		平和学Ⅰ	2	刑法各論2[財産に対する罪]	2	国際人権論2	2		
		平和学Ⅱ	2	国際法1	2				
		平和構築論	2	国際法2	2				
		国際政治理論	2	国際経済法1	2				
		情報政治論	2	国際経済法2	2				
		現代政治制度論(イタリア)	2	医事法	2				
		現代政治制度論(ドイツ)	2	生命倫理と法1[生命の始期に関わる諸問題]	2				
		社会学 経済学 (国際経済を含む)	必修 (注2)	社会学入門	2	マクロ経済学	4	経済学入門1[ミクロ経済学]	2
				社会学原論	2	ミクロ経済学Ⅰ	2	経済学入門2[マクロ経済学]	2
			選択	社会科学の基礎	2	社会調査法1	2	移行経済論Ⅰ	2
				社会調査の基礎	2	社会調査法2	2	移行経済論Ⅱ	2
ゲーム理論の基礎	2			社会統計の読み方	2	経済動学Ⅰ	2		
社会科学方法論	2			経済数学1	2	経済動学Ⅱ	2		
比較近代社会思想1	2			経済数学2	2	公共経済論Ⅰ	2		
比較近代社会思想2	2			ミクロ経済学Ⅱ	2	公共経済論Ⅱ	2		
近代経済社会思想史1	2			応用マクロ経済学	4	日本研究1	2		
近代経済社会思想史2	2			応用ミクロ経済学1	2	日本研究2	2		
ジェンダー論Ⅰ	2			応用ミクロ経済学2	2	社会学の思想と理論	2		
ジェンダー論Ⅱ	2			社会科学のための回帰分析Ⅰ	2	法と経済学Ⅰ	2		
労働問題1	2			社会科学のための回帰分析Ⅱ	2	法と経済学Ⅱ	2		
労働問題2	2			応用計量経済学Ⅰ	2	公共事業論	2		
世界人口論入門	2			応用計量経済学Ⅱ	2	現代社会学の方法	2		
国際人口移動論入門	2			産業構造論	2	環境社会学1	2		
現代家族論1	2			環境の産業連関分析	2	環境社会学2	2		
現代家族論2	2			食料と農業の経済学1[食料需給の決定要因と食料問題・農業調整問題]	2				
ポピュラー・カルチャーの社会学	2			食料と農業の経済学2[日本の経験と教訓]	2				
日常生活の社会学	2			制度設計の経済学Ⅰ	2				
社会意識論	2			制度設計の経済学Ⅱ	2				
社会問題の社会学1	2			金融経済論	2				
社会問題の社会学2	2			国際金融論	2				
知識社会学	2			実証経済学	2				
哲学 倫理学 宗教学 心理学	必修 (注3)			倫理学1	2	哲学総論	2	心理学概論	2
				倫理学2	2				
	選択			西洋哲学	2	中国哲学1	2	臨床心理学Ⅰ	2
				東洋哲学1	2	中国哲学2	2	臨床心理学Ⅱ	2
				東洋哲学2	2	臨床哲学	2		

(注1)「法律学、政治学」は①～③の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 公法入門と私法入門を選択する場合は、2科目とも履修。
- ② 政治学入門を選択する場合は、1科目履修で可。
- ③ 政治学原論Ⅰ・Ⅱを選択する場合は、2科目とも履修。

(注3)「哲学、倫理学、宗教学、心理学」は①～③の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 哲学総論を選択する場合は、1科目履修で可。
- ② 倫理学を選択する場合は、1・2両方とも履修。
- ③ 心理学概論を選択する場合は、1科目履修で可。

(注2)「社会学、経済学」は①～④の履修方法のいずれかを選択必修。

- ① 社会学入門を選択する場合は、1科目履修で可。
- ② 経済学入門を選択する場合は、1・2両方とも履修。
- ③ 社会学原論を選択する場合は、1科目履修で可。
- ④ マクロ経済学とミクロ経済学Ⅰを選択する場合は、2科目とも履修。

教科に関する科目（高等学校 1 種・商業）【旧課程（2018 年度以前入学者）】

文科省 科目分類	履修 方法	科目名	配当 年次	単位数	科目名	配当 年次	単位数
職業指導	全て必修	職業指導 1	3年～	2			
		職業指導 2	3年～	2			
商業 関連科目	選択	グローバル・サプライチェーン・マネジメント	2年～	4	流通論 I	3年～	2
		ビジネス・イングリッシュ I	2年～	2	流通論 II	3年～	2
		ビジネス・イングリッシュ II	2年～	2	生産システム論	3年～	2
		マーケティング入門	1年～	2	産業組織論	3年～	4
		リスクマネジメントと保険 I	3年～	2	管理会計	3年～	4
		リスクマネジメントと保険 II	3年～	2	簿記	1年～	4
		人的資源管理論 I	3年～	2	経営のための経済学	1年～	4
		人的資源管理論 II	3年～	2	経営学	2年～	4
		企業財務論	3年～	4	経営学入門	1年～	2
		会社法 1[会社のガバナンス]	1年～	2	経営戦略 1	3年～	2
		会社法 2[会社のファイナンス]	1年～	2	経営戦略 2	3年～	2
		会社法 3[組織再編・M&A]	3年～	2	経営科学 1	2年～	4
		会社法総則	1年～	2	経営科学 2	3年～	4
		会計学	2年～	4	経営管理論	3年～	4
		会計学入門	1年～	2	経営組織論	3年～	4
		会計監査論	3年～	4	証券論	2年～	4
		原価計算	3年～	4	金融商品取引法 1[総論・流通市場規制等]	3年～	2
		国際経営論 1	2年～	2	金融商品取引法 2[発行市場規制・業者規制等]	3年～	2
		国際経営論 2	2年～	2	外部報告会計論	3年～	4
		国際貿易論 1	2年～	2	経営分析	2年～	2
国際貿易論 2	2年～	2	ビジネスのためのデータサイエンス	2年～	4		

教科に関する科目（高等学校 1 種・情報）【旧課程（2018 年度以前入学者）】

文科省 科目分類	履修 方法	科目名	配当 年次	単位数	科目名	配当 年次	単位数
情報社会 及び 情報倫理	必修	法情報学	3年～	2			
	選択	データ倫理	3年～	1			
コンピュータ 及び 情報処理 (実習を含む)	必修	社会科学のための基礎コンピュータ	1年～	4			
	選択	地理情報システム論 I	1年～	2	プログラミング入門※	1年～	1
		地理情報システム論 II	1年～	2	Rによる統計解析※	1年～	1
		金融データ解析 1	3年～	2	サーバサイドWebプログラミング初級※	1年～	2
		金融データ解析 2	3年～	2	クライアントサイドWebプログラミング初級※	1年～	2
		Webデザイン実践※	1年～	2			
情報科学の基礎※	1年～	2					
情報システム (実習を含む)	必修	情報システム	3年～	2			
	選択	情報科学論	1年～	4			
情報通信ネットワーク (実習を含む)	全て必修	ネットワーク技術初級※	1年～	2	ネットワーク技術準中級※	1年～	2
	選択						
マルチメディア 表現及び技術 (実習を含む)	必修	マルチメディア	3年～	2			
	選択	メディア論 1	1年～	2	メディア論 3	1年～	2
		メディア論 2	1年～	2	メディア論 4	1年～	2
情報と職業	1科目必修	情報化社会とワーキングスタイル	1年～	2	ITとビジネス※	1年～	2

※グローバルエデュケーションセンター設置科目

※「社会科学のための基礎コンピュータ」「情報システム」「マルチメディア」は情報免許の必修科目となっていることから、情報免許を希望する学生を優先的に登録します（要申請）。希望する場合は、科目 1 次登録期間の前に、社会科学部事務所で「情報科免許状取得のための実習科目登録願」（社会科学部事務所にて配付）を提出してください。

2. その他の資格

社会調査士

資格の概要、取得要件については、社会調査協会ホームページ (<http://jasr.or.jp/>) を参照してください。
社会調査士資格は、卒業までに社会科学部で以下科目の単位を修得することによって取得要件を満たします。

◆2021年度 社会調査士科目一覧

「社会調査士」標準カリキュラム	社会科学部設置の該当科目	担当教員	学期	単位数	配当学年	科目区分
A 社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査の基礎 A	開沼 泰隆	春学期	2	1年以上	コア共通
	社会調査の基礎 B	浜本 篤史	秋学期	2	1年以上	コア共通
B 調査設計と実施方法に関する科目	社会調査法 1	開沼 泰隆	春学期	2	1年以上	基盤専門
C 基本的な資料とデータの分析に関する科目	社会統計の読み方	周藤 真也	秋学期	2	1年以上	基盤専門
D 社会調査に必要な統計に関する科目	統計リテラシー α ※	堀井 俊佑他	各学期	1	1年以上	初年次/他箇所
	統計リテラシー γ ※	小林 学他	各学期	1	1年以上	コア共通/他箇所
E 多変量解析の方法に関する科目	社会科学のための数学	葛山 康典	春学期	4	1年以上	基盤専門
F 質的な調査と分析の手法に関する科目	社会調査法 2	河村 裕樹	秋学期	2	1年以上	基盤専門
G 社会調査を実際に経験し学習する科目	ソーシャル・リサーチ (文化・メディア) I	周藤 真也	春夏期	2	2年以上	先進専門
	ソーシャル・リサーチ (文化・メディア) II	周藤 真也	秋学期	2	2年以上	先進専門
	ソーシャル・リサーチ (開発・環境) I	浜本 篤史	春夏期	2	2年以上	先進専門
	ソーシャル・リサーチ (開発・環境) II	浜本 篤史	秋学期	2	2年以上	先進専門
	ソーシャル・リサーチ (まちづくり) I	隔年休講		2	2年以上	先進専門
	ソーシャル・リサーチ (まちづくり) II	隔年休講		2	2年以上	先進専門
	ソーシャル・リサーチ (社会統合) I	隔年休講		2	2年以上	先進専門
	ソーシャル・リサーチ (社会統合) II	隔年休講		2	2年以上	先進専門
	紛争解決論実習 1	休講		2	2年以上	先進専門
	紛争解決論実習 2	休講		2	2年以上	先進専門
	紛争解決論実習 3	堀 / 利根川	春季集中	2	2年以上	先進専門

※ D 科目の「統計リテラシー α 」、「統計リテラシー γ 」は同一年度か連続した年度にセットで履修する必要があります。取得を希望される場合は極力同一年度に履修してください。

※ E 科目、F 科目はいずれか一方で資格要件として認められます。

※ G 科目は、「ソーシャル・リサーチ」または「紛争解決論実習」の各科目のいずれかで資格要件として認められます。「ソーシャル・リサーチ」は同一年度に I・II をセットで履修する必要があります。

※ G 科目の履修にあたっては、実習費が必要になります。また、実習費以外に、現地調査にかかわる費用 (交通費、宿泊費など) が自己負担になる場合があります。

※ 「ソーシャル・リサーチ」の各科目は、隔年開講です。

※ 時間割は変更する場合がありますので、科目登録の時期に各自 Web シラバスを確認してください。

※ 社会科学部設置科目以外に、「社会調査士」の科目認定を受けている他箇所 (文学部、人間科学部) の科目を履修しても資格要件として認められます。ただし「オープン科目」ではないため、聴講できる保証はありません (実習を伴う G 科目については、他学部生の聴講が許可されることは通常はありません)。また、他大学等 (例えば放送大学) で認定科目の一部を履修して資格申請することもできます。

その他の資格

以下の資格取得については、「教職課程履修の手引き」(教育学部発行) を参照してください。

- ・ 社会福祉主事
- ・ 博物館学芸員
- ・ 社会教育主事
- ・ 図書館司書
- ・ 学校図書館司書教諭

IV. 学科目配当表

◆時間割について

本冊子に掲載されている時間割は、2021年1月末時点での情報で、変更の可能性があります。変更が生じた場合には、社会科学部 Web サイトにてお知らせいたします。

◆Web シラバス

早稲田大学の全科目の講義内容については、Web シラバスで確認ができます。
(早稲田大学 Web サイト TOP → (右上) データ集 → シラバス検索)

URL: <https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>

寄附講座・提携講座・協力講座の開設について

早稲田大学（以下、大学と表記します）では、教育研究の質的向上・発展に寄与することを目的として学術研究提携等を行っています。

その際、大学の主体性と独自性を堅持するため、次の「ガイドライン」を制定しています。

1. 学問の自由および独立を守ること。
2. 世界の平和および人類の福祉に貢献する研究を行うものとし、軍事研究および軍事開発は行わないこと。
3. 本大学における研究活動の発展および教育の向上に寄与すること。
4. 研究成果の公表を禁止された秘密研究は行わないこと。ただし、研究成果の公表時期に関する研究委託者または共同研究者との信頼関係に基づく合理的制約は、この限りでない。
5. 社会的に公正であること。
6. 関連資料を開示の上、民主的な手続きに基づき、提携等に関する意思決定を行うこと。

また、このガイドラインを正しく運用していくため、大学は、「学術研究提携等審査委員会」を設置して、個々の提携等を審査しています。

以下の寄附講座・提携講座・協力講座は、このような学術研究提携等の一環として上記の審査を経て設置されたものです。

以下の科目は全国共済農業協同組合連合の協力に基づいて開設されています。

区分	科目名	教員氏名
提携講座	農と地域社会（総合講座）	早田 宰 西原 是良
提携講座	農からの社会連携（実習）Ⅰ	早田 宰 落合 基継 加藤 基樹 藤原 整
寄附講座	JA 共済寄附講座 農からの社会連携（実習）Ⅱ	早田 宰 落合 基継 加藤 基樹 藤原 整

以下の科目は韓国国際交流財団の協力に基づいて開設されています。

区分	科目名	教員氏名
協力講座	現代韓国政治論 A	李 鎔哲
協力講座	現代韓国政治論 B	李 鎔哲
協力講座	現代韓国外交と北朝鮮 A	李 鎔哲
協力講座	現代韓国外交と北朝鮮 B	李 鎔哲

以下の科目は世界遺産アカデミーの協力に基づいて開設されています。

区分	科目名	教員氏名
提携講座	社会科学総合研究（世界遺産学）	周藤 真也 佐藤 桂 宮澤 光

学科目配当表

IV. 学科目配当表

初年次教育 - ラーニング・コミュニティ

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
1年～	1	ラーニング・コミュニティ	A	笠島 洋一	春ク
			B	上沼 正明	春ク
			C	菅野 浩勢	春ク
			D	須子 統太	春ク
			E	鄭 有希	春ク
			F	利根川 佳子	春ク
			G	福永 有夏	春ク
			H	仲道 祐樹	春ク
			I	棟居 徳子	春ク
			J	吉田 敬	春ク
			K	及川 浩希	夏ク
			L	鈴木 俊晴	夏ク
			M	千葉 清史	夏ク
			N	中橋 渉	夏ク
			O	上沼 正明	夏ク
			P	浜本 篤史	春ク
			Q	福永 有夏	夏ク
			R	古川 敏明	夏ク
			S	棟居 徳子	夏ク
			T	横野 恵	夏ク
Y	鈴木 規子	秋ク			
Z	落合 基継	秋ク			

コア科目 - 共通入門群

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	
1年～	1	統計リテラシー ※2021年度以降入学者のみ	01	小林 学、他	春ク	
			02		夏ク	
			03		秋ク	
			04		冬ク	
		統計リテラシーδ ※2021年度以降入学者のみ	01	野村 亮、他	春ク	
			02		夏ク	
			03		秋ク	
			04		冬ク	
		2	社会科学の基礎	A	吉田 敬	春
				B	高島 和哉	秋
			社会調査の基礎	A	開沼 泰隆	春
				B	浜本 篤史	秋
	ゲーム理論の基礎		A	戸田 学	春	
			B	戸田 学	秋	
	政治分析の基礎	A	今村 浩	春		
		B	遠藤 晶久	秋		
	4	社会科学のための基礎コンピュータ	A	阿部 圭司	春	
			B	開沼 泰隆	秋	
			C	河路 武志	春	
			D	休講		
E			佐野 雅隆	春		
F			休講			

コア科目 - 専門入門群

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
1年～	2	マーケティング入門	A	野口 智雄	春
			B	野口 智雄	秋
			C	休講	
		社会学入門	A	浜本 篤史	春
			B	周藤 真也	秋
		社会デザイン論入門	A	早田 宰	春
				赤尾 健一	春
				卯月 盛夫	春
				佐藤 洋一	春
				篠田 徹	春
				落合 基継	春
			B	早田 宰	春
				赤尾 健一	春
				卯月 盛夫	春
				佐藤 洋一	春
				篠田 徹	春
				落合 基継	春
		C	休講		
		政治学入門	A	厚見 恵一郎	春
				池谷 知明	春
			B	福生 信男	春
				厚見 恵一郎	秋
				池谷 知明	秋
				福生 信男	秋
		国際関係論入門	A	奥迫 元	春
				堀 芳枝	春
			B	利根川 佳子	春
				奥迫 元	秋
				堀 芳枝	秋
				利根川 佳子	秋
		公法入門(国家と法)	A	仲道 祐樹	春
			B	杉山 有沙	秋
		私法入門(市民と法)	A	吉田 和夫	春
			B	吉田 和夫	秋
		経済学入門 1[ミクロ経済学]	A	北村 能寛	春
			B	藍津 明由	春
		経済学入門 2[マクロ経済学]	A	及川 浩希	秋
			B	藍津 明由	秋
		経営学入門	A	久保田 達也	春
			B	久保田 達也	秋
C	休講				
世界人口論入門	-	小島 宏	春		
国際人口移動論入門	-	小島 宏	秋		
会計学入門	A	福島 隆	春		
	B	福島 隆	秋		

IV. 学科目配当表

学科目配当表

基盤専門科目 - 社会科学総合分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
1年～	2	文化人類学 1	—	隔年休講	
		文化人類学 2	—	小長谷 英代	春
		ソシオダイナミクス 1	—	篠田 徹	春
		ソシオダイナミクス 2	—	篠田 徹	秋
		ポピュラー・カルチャーの社会科学	—	篠田 徹	秋
		メディア論 1	—	有馬 哲夫	春
		メディア論 2	—	有馬 哲夫	秋
		メディア論 3	—	隔年休講	
		メディア論 4	—	隔年休講	
		バイオエシックス	—	横野 恵	秋
		社会調査法 2	—	河村 裕樹	秋
		Social History 1	—	篠田 徹	春
		政策科学 1〔政策過程の諸モデル〕	—	上沼 正明	春
		労働問題 1	—	篠田 徹	春
		労働問題 2	—	篠田 徹	秋
		現代家族論 1	—	小島 宏	春
		現代家族論 2	—	小島 宏	秋
		社会意識論	—	周藤 真也	春
		社会調査法 1	—	開沼 泰隆	春
		社会統計の読み方	—	周藤 真也	秋
		比較経済史 1	—	君塚 弘泰	春
		比較経済史 2	—	君塚 弘泰	秋
		社会科学方法論	A	吉田 敬	春
			B	大賀 祐樹	秋
		近代経済社会思想史 1	—	寺尾 範野	春
		近代経済社会思想史 2	—	寺尾 範野	秋
		健康と人権	—	棟居 徳子	春
		経済社会学 I	—	休講	
		ジェンダー論 I	—	休講	
		社会学原論	—	休講	
		日常生活の社会学	—	休講	
		社会問題の社会学 1	—	休講	
		社会問題の社会学 2	—	休講	
		問題の発見と探求の技法	—	休講	
		社会科学原論(春学期)	A	休講	
			B	休講	
		社会科学原論(秋学期)	A	休講	
			B	休講	
		開発社会学	—	隔年休講	
		2年～	2	組織行動論	—

基盤専門科目 - 政治学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
1年～	2	選挙制度論	—	今村 浩	秋
		政治分析	A	浅野 正彦	春
		政治分析	B	遠藤 晶久	春
		日本政治史 I	—	大西 比呂志	春
		日本政治史 II	—	大西 比呂志	秋
		国際関係論	—	奥迫 元	秋
		平和学 I	—	堀 芳枝	春
		現代韓国政治論	A	李 鎔哲	春
			B	李 鎔哲	春
		現代韓国外交と北朝鮮	A	李 鎔哲	秋
	B	李 鎔哲	秋		
外国政治史 I	—	休講			
外国政治史 II	—	休講			
2年～	2	現代政治制度論(イタリア)	—	池谷 知明	秋
		現代政治制度論(ドイツ)	—	高見 仁	秋
		現代政治制度論(イギリス)	—	秋本 富雄	春
		現代政治制度論(フランス)	—	久邇 良子	秋
		現代政治制度論(アメリカ合衆国)	—	今村 浩	春
		政治学原論 I	—	今村 浩	春
		政治学原論 II	—	今村 浩	秋
		政治学史 I	—	厚見 恵一郎	春
		政治学史 II	—	厚見 恵一郎	秋
		行政学 I	—	福生 信男	春
		比較政治制度論 1	—	池谷 知明	春
		比較政治制度論 2	—	池谷 知明	秋
		現代政治制度論(スペイン)	—	野上 和裕	春
		地域自治論 1	—	福生 信男	春
		地域自治論 2	—	福生 信男	秋

基盤専門科目 - 法学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
1年～	2	医事法	—	横野 恵	春
		憲法 I	A	阪口 正二郎	春
			B	阪口 正二郎	秋
		会社法 1〔会社のガバナンス〕	—	尾崎 安夫	春
		会社法 2〔会社のファイナンス〕	—	川島 いつみ	秋
		刑法総論 I〔犯罪論の基本構造〕	—	仲道 祐樹	秋
		刑法総論 II〔犯罪の諸形態〕	—	仲道 祐樹	春
		国際法 I	—	福永 有夏	春
		国際経済法 I	—	福永 有夏	春
		会社法総論	—	休講	
		刑法総論	—	休講	
		2年～	2	憲法 II	—
民法 1〔総則〕	—			吉田 和夫	秋
民法 2〔物権〕	—			吉田 和夫	春
民法 3〔債権総論〕	—			吉田 和夫	春
民法 4〔債権各論〕	—			吉田 和夫	秋
民法 5〔親族〕	—			金 亮完	春
民法 6〔相続〕	—			金 亮完	秋
雇用関係法 I	—			鈴木 俊晴	春
雇用関係法 II	—			鈴木 俊晴	秋
刑法各論 1〔個人、社会、国家に対する罪〕	—			芥川 正洋	春
行政法	—			日野 辰哉	春

IV 学科目配当表

学科目配当表

IV. 学科目配当表

基礎専門科目 - 経済学分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
1年～	2	西洋経済史	—	内田 日出海	春
		経済数学 1	—	戸田 学	春
		経済数学 2	—	戸田 学	秋
		社会科学のための回帰分析 I	—	荒井 洋一	春
		社会科学のための回帰分析 II	—	荒井 洋一	秋
2年～	2	社会科学としてのAI(人工知能)基礎論	—	家田 修	春
		ミクロ経済学 I	—	戸田 学	春
		ミクロ経済学 II	—	戸田 学	秋
		産業構造論	—	藍津 明由	秋
		実証経済学	—	王 在吉	春
		公共経済学 I	—	笠島 洋一	春
		公共経済学 II	—	笠島 洋一	秋
		移行経済学 I	—	休講	
		移行経済学 II	—	休講	
		4	マクロ経済学	—	及川 浩希

基礎専門科目 - 商学分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	
1年～	2	情報化社会とワーキングスタイル	—	須子 統太	秋	
		現代ビジネス論	—	平井 裕久	秋	
		簿記	A	金子 良太	春	
			B	菅野 浩勢	秋	
		2年～	4	経営のための経済学	—	土門 晃二
情報科学論	—			中島 健一	春	
国際貿易論 1	—			橋 徹	春	
国際貿易論 2	—			橋 徹	秋	
ビジネス・イングリッシュ I	—			福澤 善文	春	
ビジネス・イングリッシュ II	—			福澤 善文	秋	
産業心理学 I	—			重森 雅嘉	春	
産業心理学 II	—			重森 雅嘉	秋	
経営分析	—			矢内 一利	春	
産業社会学 I	—			休講		
産業社会学 II	—			休講		
中小企業論 I	—			休講		
中小企業論 II	—			休講		
4	会計学			—	菅野 浩勢	秋
	経営学			—	井上 正	春
	証券論	—	葛山 康典	春		
	グローバル・サプライチェーン・マネジメント	—	中島 健一	秋		
	経営科学 1	—	須子 統太	秋		
ビジネスのためのデータサイエンス	—	石田 崇	春			

基礎専門科目 - 情報科学分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
1年～	2	地理情報システム論 I	—	大場 亨	春
		地理情報システム論 II	—	大場 亨	秋
		社会科学のための数学	—	葛山 康典	春

基礎専門科目 - 人文科学分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
1年～	2	人文地理学	—	竹林 和彦	春
		哲学総論	—	千葉 清史	春
		東洋哲学 1	—	王 前	春
		東洋哲学 2	—	王 前	秋
		中国哲学 1	—	遠藤 純一郎	春
		中国哲学 2	—	遠藤 純一郎	秋
		倫理学 1	—	関口 浩	春
		倫理学 2	—	関口 浩	秋
		心理学概論	—	金築 優	春
		日本史概論 1	—	星原 大輔	春
		日本史概論 2	—	星原 大輔	秋
		外国史概論 1	—	大橋 里見	春
		外国史概論 2	—	大橋 里見	秋
		歴史学(日中関係史) 1	—	劉 傑	春
		歴史学(日中関係史) 2	—	劉 傑	秋
		歴史学(アジア史) 1	—	松田 春香	春
		歴史学(アジア史) 2	—	松田 春香	秋
		歴史学(ヨーロッパ史) 1	—	古川 誠之	春
		歴史学(ヨーロッパ史) 2	—	古川 誠之	秋
		地誌	—	竹林 和彦	秋
		日本文学 1〔古典と近代〕	—	内藤 明	春
		日本文学 2〔近代と現代〕	—	内藤 明	秋
		日本文化論	—	内藤 明	春
		漢字文化圏論 1	—	笹原 宏之	春
		漢字文化圏論 2	—	笹原 宏之	秋
		異文化コミュニケーション論	—	花光 里香	春
		言語表現論 1	—	笹原 宏之	春
		言語表現論 2	—	笹原 宏之	秋
		日本研究 1	—	ゲイル カーティス アンダーソン	春
		日本研究 2	—	ゲイル カーティス アンダーソン	秋
		スペイン語文化圏論 1	—	寺尾 隆吉	春
		スペイン語文化圏論 2	—	寺尾 隆吉	秋
		英語圏の社会と文化 1	—	隔年休講	
		英語圏の社会と文化 2	—	古川 敏明	春
		西洋哲学	—	千葉 清史	秋
		歴史学(日本史) 1	—	休講	
		歴史学(日本史) 2	—	休講	
		文学 1	—	休講	
		文学 2	—	休講	
		芸術論 1	—	休講	
		芸術論 2	—	休講	
		比較文化論 1	—	休講	
		比較文化論 2	—	休講	
		社会実践と現代思想 1	—	休講	
		社会実践と現代思想 2	—	休講	
2年～	2	臨床心理学 I	—	金築 優	春

IV. 学科目配当表

学科目配当表

基盤専門科目 - 自然科学分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
1年～	2	都市科学概論	—	隔年休講	
		生態学 1	—	隔年休講	
		生態学 2	—	赤尾 健一	秋
		数学 1	—	高橋 一嘉	春
		数学 2	—	高橋 一嘉	秋
		自然地理学Ⅰ	—	宇根 寛	春
		自然地理学Ⅱ	—	宇根 寛	秋
		コミュニティデザイン	—	卯月 盛夫	春
		環境表現Ⅰ	—	佐藤 洋一	春
		社会デザイン実習 1	—	佐藤 洋一	春ク
			—	卯月 盛夫	
			—	落合 基継	
		社会デザイン実習 2	—	早田 宰	夏ク
			—	落合 基継	
		社会デザイン実習 3	—	佐藤 洋一	夏ク
		社会、社会科学のなかの自然科学	—	沼田 真一	
		理論人類学 1	—	中橋 涉	春
		理論人類学 2	—	中橋 涉	秋
		農と地域社会(総合講座)	—	早田 宰	春
		環境科学概論	—	西原 基良	春
	科学の歴史と科学技術政策	—	松橋 啓介	秋	
	数理科学概論	—	小山田 和仁	春	
	生命科学 1	—	休講		
	生命科学 2	—	休講		
	アントロピー概論	—	休講		
	4 参加のデザイン技術	A	卯月 盛夫	春	
		B	百武 ひろ子	春	

基盤専門科目 - グローバルラーニング

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
1年～	2	グローバルラーニング (日本の歴史)	A	三田 奈穂	春
			B	三田 奈穂	秋
		グローバルラーニング (経済、社会、環境の持続可能性)	A	コーワタナサクン ウツバラット	春
			B	コーワタナサクン ウツバラット	秋
		グローバルラーニング (国際法入門)	A	平見 健太	春
			B	平見 健太	秋
		グローバルラーニング (グローバルイゼーションとは何か)	A	平見 健太	春
			B	平見 健太	秋
		グローバルラーニング (多様な歴史認識—東南アジアと東アジア—)	A	タンシンマンコン バッタジット	春
			B	タンシンマンコン バッタジット	秋
		グローバルラーニング (「小国」と世界)	A	タンシンマンコン バッタジット	春
			B	タンシンマンコン バッタジット	秋
		グローバルラーニング (憲法24条の歴史)	A	塚林 美弥子	春
			B	塚林 美弥子	秋
		グローバルラーニング (Solidarité〔連帯〕論)	A	塚林 美弥子	春
			B	塚林 美弥子	秋

基盤専門科目 - 専門英語

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
2年～	2	Examining Global Issues 1 [Social Problems in Contemporary Japan: Global Comparisons]	—	ゲイル カーティス アンダーソン	春
		Examining Global Issues 2 [Major Themes and Events in Modern Japanese History]	—	ゲイル カーティス アンダーソン	秋
		Exploring Cultures through Film 1	—	花光 里香	春
		Exploring Cultures through Film 2	—	花光 里香	秋
		Reading Historical Documents	A	有馬 哲夫	春
B	有馬 哲夫		秋		

学科目配当表

IV. 学科目配当表

先進専門科目 - 社会科学総合分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	
2年~	2	ソーシャル・リサーチ(社会統合) I	-	隔年休講		
		ソーシャル・リサーチ(社会統合) II	-	隔年休講		
		ソーシャル・リサーチ(文化・メディア) I	-	周藤 真也	春夏	
		ソーシャル・リサーチ(文化・メディア) II	-	周藤 真也	秋	
		ソーシャル・リサーチ(まちづくり) I	-	隔年休講		
		ソーシャル・リサーチ(まちづくり) II	-	隔年休講		
		ソーシャル・リサーチ(開発・環境) I	-	浜本 篤史	春夏	
		ソーシャル・リサーチ(開発・環境) II	-	浜本 篤史	秋	
		Social History 2	-	篠田 徹	秋	
		政策科学 2[日本の政策過程]	-	上沼 正明	秋	
		社会学の思想と理論	-	隔年休講	春	
		現代社会学の方法	-	周藤 真也	春	
		商業史 I	-	君塚 弘恭	春	
		商業史 II	-	君塚 弘恭	秋	
		比較近代社会思想 1	-	寺尾 範野	春	
		比較近代社会思想 2	-	寺尾 範野	秋	
		社会保障の法と政策 1	-	榎居 徳子	春	
		国際人権論 1	-	榎居 徳子	春	
		国際人権論 2	-	谷口 洋幸	秋	
		観光学	-	周藤 真也	秋	
	環境社会学 1	-	浜本 篤史	春		
	環境社会学 2	-	浜本 篤史	秋		
	国際的資源マネジメント 1	-	鄭 有希	春		
	国際的資源マネジメント 2	-	鄭 有希	秋		
	グローバルビジネス論 1	-	長谷川 信次	春		
	グローバルビジネス論 2	-	長谷川 信次	秋		
	ディサビリティ・スタディーズ I	-	篠田 徹	春		
	ディサビリティ・スタディーズ II	-	篠田 徹	秋		
	グローバル・ディーセント・ワーク I	-	篠田 徹	春		
	グローバル・ディーセント・ワーク II	-	篠田 徹	秋		
	経済社会学 II	-	休講			
	ジェンダー論 II	-	休講			
	知識社会学	-	休講			
	4	地球環境論	-	赤尾 健一	春	
	1	データ倫理	-	横野 恵	春ク	
	3年~	2	ラテンアメリカ研究 1	-	休講	
			ラテンアメリカ研究 2	-	休講	
			法制文明論 1	-	休講	
			法制文明論 2	-	休講	
			中国研究 1	-	休講	
中国研究 2			-	劉 傑	秋	
人間行動と進化			-	秋山 英三	春	
社会保障の法と政策 2			-	榎居 徳子	春	
EU地域研究 I			-	鈴木 規子	春	
EU地域研究 II			-	鈴木 規子	秋	
ヨーロッパ市民社会論 II		-	鈴木 規子	秋		
ヨーロッパ市民社会論 I		-	鈴木 規子	春		
ラテンアメリカ研究 1		-	休講			
ラテンアメリカ研究 2		-	休講			
法制文明論 1		-	休講			
法制文明論 2		-	休講			
中国研究 1		-	休講			

先進専門科目 - 法学分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
2年~	2	労働市場法	-	鈴木 俊晴	秋
		刑法各論 2[財産に対する罪]	-	仲道 祐樹	秋
3年~	2	会社法 3[組織再編・M&A]	-	隔年休講	
		環境法 1[公害規制法]	-	黒川 哲志	夏ク
		環境法 2[自然保護法]	-	黒川 哲志	春ク
		法情報学	-	吉田 和夫	春
		金融商品取引法 1 [総論・流通市場規制等]	-	若林 泰伸	春
		金融商品取引法 2 [発行市場規制・業者規制等]	-	川島 いづみ	秋
		法社会学 I	-	大橋 憲広	春
		法社会学 II	-	大橋 憲広	秋
		国際法 2	-	福永 有夏	春
		国際経済法 2	-	福永 有夏	春
	現代雇用社会の法と政策	-	鈴木 俊晴	秋	
	労使関係法	-	鈴木 俊晴	春	
	知的財産権法(著作権法)	-	今村 哲也	春	
	知的財産権法 (特許法、商標法、不正競争防止法)	-	今村 哲也	秋	
	生命倫理と法 1 [生命の始期に関わる諸問題]	-	三田 奈穂	春	
	生命倫理と法 2 [生命の終期に関わる諸問題]	-	三田 奈穂	秋	
	刑事政策	-	休講		
	犯罪学	-	休講		

先進専門科目 - 経済学分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	
2年~	2	食料と農業の経済学 1 [食料需給の決定要因と食料問題・農業調整問題]	-	弦間 正彦	春	
		食料と農業の経済学 2 [日本の経験と教訓]	-	弦間 正彦	秋	
		金融経済論	-	大野 裕之	春	
		経済動学 I	-	篠塚 友一	春	
		経済動学 II	-	篠塚 友一	秋	
		国際金融論	-	北村 能寛	秋	
		財政学	-	大野 裕之	秋	
		環境の産業連関分析	-	鷲津 明由	春	
		法と経済学 II	-	土門 晃二	春	
		制度設計の経済学 I	-	笠島 洋一	春	
3年~	2	制度設計の経済学 II	-	笠島 洋一	秋	
		Mechanism Design	-	笠島 洋一	秋	
		応用ミクロ経済学 1	-	篠塚 友一	春	
		応用ミクロ経済学 2	-	篠塚 友一	秋	
		応用計量経済学 I	-	荒井 洋一	春	
		応用計量経済学 II	-	荒井 洋一	秋	
		法と経済学 I	-	土門 晃二	秋	
		産業組織論	-	土門 晃二	秋	
		4	産業組織論	-	土門 晃二	秋
		4	応用マクロ経済学	-	及川 浩希	秋

先進専門科目 - 政治学分野

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
2年~	2	行政学 II	-	稲生 信男	秋
		紛争解決論実習 3	-	堀 芳枝	春季集中
		現代選挙論 1	-	遠藤 昌久	春
		現代選挙論 2	-	遠藤 昌久	秋
		平和学 II	-	堀 芳枝	秋
		紛争解決論実習 1	-	休講	
		紛争解決論実習 2	-	休講	
		3年~	2	情報政治論	-
現代政治分析(イタリア)	-			池谷 知明	春
現代政治分析(イギリス)	-			秋本 富雄	秋
現代政治分析(スペイン)	-			野上 和裕	秋
現代政治分析(アメリカ合衆国)	-			今村 浩	秋
現代政治分析(ドイツ)	-			高見 仁	春
国際政治理論	-			奥迫 元	春
太平洋地域海洋国家研究	-			奥迫 元	秋
比較政治学	A			河崎 健	春
	B			河崎 健	秋
現代市民権理論	-			厚見 恵一郎	春
国会論	-			小林 英樹	春
比較議会論	-		秋本 富雄	秋	
国際NGO協力論	-		山田 満	春	
国際開発制度論	-		利根川 佳子	春	
立法過程論	-		秋本 富雄	春	
政治過程論 1	-		今村 浩	春	
政治過程論 2	-		今村 浩	秋	
平和構築論	-		山田 満	秋	
政治行動論 I	-		浅野 正彦	春	
政治行動論 II	-		浅野 正彦	秋	
人間の安全保障論	-		利根川 佳子	秋	
国際教育協力論	-		利根川 佳子	春	

IV 学科目配当表

IV. 学科目配当表

学科目配当表

先進専門科目 - 商学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
2年～	2	品質管理	—	中島 健一	春
		国際経営論 1	—	休講	秋
		国際経営論 2	—	休講	秋
3年～	2	生産システム論	—	中島 健一	秋
		金融データ解析 1	—	葛山 康典	秋
		金融データ解析 2	—	葛山 康典	春
		流通論 I	—	野口 智雄	春
		流通論 II	—	野口 智雄	秋
		人的資源管理論 I	—	上原 衛	春
	4	人的資源管理論 II	—	上原 衛	秋
		経営戦略 1	—	休講	春
		経営戦略 2	—	休講	秋
		賃金論 I	—	休講	春
		賃金論 II	—	休講	秋
		リスクマネジメントと保険 I	—	休講	春
3年～	4	リスクマネジメントと保険 II	—	休講	秋
		会計監査論	—	山崎 秀彦	春
		原価計算	—	成岡 浩一	秋
		管理会計	—	齋藤 正章	春
		経営組織論	—	井上 正	秋
		企業財務論	—	葛山 康典	秋
		外部報告会計論	—	菅野 浩勢	春
		経営科学 2	—	須子 統太	春
経営管理論	—	休講	秋		

先進専門科目 - 情報科学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
3年～	2	情報システム	—	金子 勝一	春
		マルチメディア	—	浮田 善文	秋

先進専門科目 - 人文科学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
2年～	2	臨床心理学 II	—	金築 優	秋
		臨床哲学	—	金築 優	秋
		日本文化研究	—	内藤 明	秋
		公共文化論 1	—	隔年休講	春
3年～	2	公共文化論 2	—	小長谷 英代	春
		西洋近現代音楽研究 1	—	休講	秋
		西洋近現代音楽研究 2	—	休講	秋

先進専門科目 - 自然科学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
1年～	2	地域計画システム論 I	—	落合 基継	春
		地域計画システム論 II	—	落合 基継	秋
2年～	2	EU-ドイツの都市づくり	—	卯月 盛夫	秋
		公共事業論	—	卯月 盛夫	秋
		環境表現論 II	—	隔年休講	春
		社会言語としての映像	—	佐藤 洋一	春
		農からの社会連携(実習) I	—	早田 幸	春
			—	落合 基継	
			—	加藤 基樹	
		JA共済寄附講座 農からの社会連携(実習) II	—	早田 幸	秋
			—	落合 基継	
			—	加藤 基樹	
3年～	2	ウェアラブルイメージ研究	—	佐藤 洋一	秋
		居住環境論	—	早田 幸	秋

先進専門科目 - 外国書研究

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
2年～	2	英書研究	21-1	中橋 涉	春
			21-2	横野 恵	春
		中国書研究	21-1	鄭 成	春
			21-2	鄭 成	秋
3年～	2	独書研究	21-1	仲道 祐樹	春
			21-1	鈴木 規子	春
		仏書研究	21-2	君塚 弘恭	秋
			21-1	寺尾 隆吉	春
		西書研究	21-1	寺尾 隆吉	春
			21-2	寺尾 隆吉	秋

先進専門科目 - 社会科学特講

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
2年～	2	社会科学特講(国際紛争と法)	A	平見 健太	春
		社会科学特講(国際紛争と法)	B	平見 健太	秋
		社会科学特講(憲法判例を読みなおす)	A	塚林 美弥子	春
		社会科学特講(憲法判例を読みなおす)	B	塚林 美弥子	秋
		Lectures on Social Science (Southeast Asia in Global Context)	A	タンシンマンコン パッタジット	春
		Lectures on Social Science (Southeast Asia in Global Context)	B	タンシンマンコン パッタジット	秋

学科目配当表

IV. 学科目配当表

社会科学総合研究

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
3年~	2	社会科学総合研究(女性と政治)	-	今村 浩	秋
				秋本 雷雄	
				中林 美恵子	
		社会科学総合研究(ロシア東欧現代経済) 1	-	弦間 正彦	春
				池本 修一	
				弦間 正彦	
		社会科学総合研究(ロシア東欧現代経済) 2	-	池本 修一	秋
				家田 修	
				小島 宏	
		社会科学総合研究(食の社会科学)	-	君塚 弘恭	春
				鈴木 規子	
				野澤 文二	
		社会科学総合研究(文化のパスベクティブ)	-	周藤 真也	秋
				小倉 敏彦	
小田島 理絵					
社会科学総合研究(世界遺産学)	-	永田 大輔	春		
		周藤 真也			
		佐藤 桂			
社会科学総合研究(ソーシャル・キャピタル論)	-	宮澤 光	-		
		休講			

ゼミナール

配当年次	単位	科目名	教員氏名	学期
2年~	2	ゼミナール(環境及び資源経済学研究/秋学期)	赤尾 健一	秋
		ゼミナール(政治思想研究/秋学期)	厚見 恵一郎	秋
		ゼミナール(応用計量経済学研究/秋学期)	荒井 洋一	秋
		ゼミナール(マスメディア研究/秋学期)	有馬 哲夫	秋
		ゼミナール(比較政治研究/秋学期)	池谷 知明	秋
		ゼミナール(行政・地域自治研究/秋学期)	稲生 信男	秋
		ゼミナール(アメリカ政治研究入門/秋学期)	今村 浩	秋
		ゼミナール(都市・コミュニティデザイン/秋学期)	卯月 盛夫	秋
		ゼミナール(選挙・世論研究/秋学期)	遠藤 島久	秋
		ゼミナール(応用マクロ経済学研究/秋学期)	及川 浩希	秋
		ゼミナール(国際関係研究/秋学期)	奥迫 元	秋
		ゼミナール(農村デザイン研究/秋学期)	落合 基継	秋
		ゼミナール(制度設計の経済学/秋学期)	笠島 洋一	秋
		ゼミナール(企業財務論研究/秋学期)	葛山 康典	秋
		ゼミナール(政策科学研究/秋学期)	上沼 正明	秋
		ゼミナール(会社法の研究/秋学期)	川島 いづみ	秋
		ゼミナール(財務会計研究/秋学期)	菅野 浩勢	秋
		ゼミナール(国際経済と金融システム/秋学期)	北村 能寛	秋
		ゼミナール(比較経済史研究/秋学期)	君塚 弘恭	秋
		ゼミナール(近現代日本社会研究/秋学期)	ゲイル カーティス アンダーソン	秋
		ゼミナール(世界経済の研究/秋学期)	弦間 正彦	秋
		ゼミナール(公共文化研究/秋学期)	小長谷 英代	秋
		ゼミナール(現代社会における基本的人権と民主主義/秋学期)	阪口 正二郎	秋
		ゼミナール(メディアと言語の研究/秋学期)	笹原 宏之	秋
		ゼミナール(空間映像研究/秋学期)	佐藤 洋一	秋
		ゼミナール(労働研究/秋学期)	篠田 徹	秋
		ゼミナール(国際経済法研究/秋学期)	清水 章雄	秋
		ゼミナール(経営科学/秋学期)	須子 統太	秋
		ゼミナール(雇用社会の法/秋学期)	鈴木 俊晴	秋
		ゼミナール(ヨーロッパ市民社会研究/秋学期)	鈴木 規子	秋
		ゼミナール(現代社会学研究/秋学期)	周藤 真也	秋
		ゼミナール(都市再生アクション/サーチ/秋学期)	早田 幸	秋
		ゼミナール(哲学・倫理学/秋学期)	千葉 清史	秋
		ゼミナール(組織・人材マネジメント/秋学期)	鄭 有希	秋
		ゼミナール(環境法政策研究/秋学期)	辻 雄一郎	秋
		ゼミナール(福祉社会研究/秋学期)	寺尾 範野	秋
		ゼミナール(スペイン語圏の社会と文化/秋学期)	寺尾 隆吉	秋
		ゼミナール(ゲーム理論とその応用/秋学期)	戸田 学	秋
		ゼミナール(人間の安全保障/秋学期)	利根川 佳子	秋
		ゼミナール(情報産業の経済分析/秋学期)	土門 晃二	秋
		ゼミナール(日本文化研究/秋学期)	内藤 明	秋
		ゼミナール(情報科学/秋学期)	中島 健一	秋
		ゼミナール(人類進化モデル/秋学期)	中橋 涉	秋
		ゼミナール(刑法研究/秋学期)	仲道 祐樹	秋
		ゼミナール(マーケティング管理研究/秋学期)	野口 智雄	秋
		ゼミナール(多国籍企業の研究/秋学期)	長谷川 信次	秋
		ゼミナール(異文化コミュニケーション研究/秋学期)	花光 里香	秋
		ゼミナール(開発・環境社会学研究/秋学期)	浜本 篤史	秋
		ゼミナール(多言語社会の会話研究/秋学期)	休講	
		ゼミナール(平和学研究/秋学期)	堀 芳枝	秋
		ゼミナール(社会保障と人権/秋学期)	休講	
		ゼミナール(国際協力と平和構築/秋学期)	山田 満	秋
		ゼミナール(医療と法/秋学期)	横野 恵	秋
		ゼミナール(契約法研究/秋学期)	吉田 和夫	秋
		ゼミナール(社会科学の哲学/秋学期)	休講	
		ゼミナール(中国研究/秋学期)	劉 傑	秋
		ゼミナール(経済と環境の検証分析/秋学期)	鷲津 明由	秋

IV. 学科目配当表

学科目配当表

ゼミナール

配当 年次	単位	科目名	教員氏名	学期
3年~	2	ゼミナールII(環境及び資源経済学研究/春学期)	赤尾 健一	春
		ゼミナールII(環境及び資源経済学研究/秋学期)	赤尾 健一	秋
		ゼミナールII(政治思想研究/春学期)	厚見 恵一郎	春
		ゼミナールII(政治思想研究/秋学期)	厚見 恵一郎	秋
		ゼミナールII(応用計量経済学研究/春学期)	荒井 洋一	春
		ゼミナールII(応用計量経済学研究/秋学期)	荒井 洋一	秋
		ゼミナールII(マスメディア研究/春学期)	有馬 哲夫	春
		ゼミナールII(マスメディア研究/秋学期)	有馬 哲夫	秋
		ゼミナールII(比較政治研究/春学期)	池谷 知明	春
		ゼミナールII(比較政治研究/秋学期)	池谷 知明	秋
		ゼミナールII(行政・地域自治研究/春学期)	福生 信男	春
		ゼミナールII(行政・地域自治研究/秋学期)	福生 信男	秋
		ゼミナールII(企業活動の研究/春学期)	井上 正	春
		ゼミナールII(企業活動の研究/秋学期)	井上 正	秋
		ゼミナールII(現代アメリカ政治過程の研究/春学期)	今村 浩	春
		ゼミナールII(現代アメリカ政治過程の研究/秋学期)	今村 浩	秋
		ゼミナールII(都市・コミュニティデザイン/春学期)	卯月 盛夫	春
		ゼミナールII(都市・コミュニティデザイン/秋学期)	卯月 盛夫	秋
		ゼミナールII(選挙・世論研究/春学期)	遠藤 晶久	春
		ゼミナールII(選挙・世論研究/秋学期)	遠藤 晶久	秋
		ゼミナールII(応用マクロ経済学研究/春学期)	及川 浩希	春
		ゼミナールII(応用マクロ経済学研究/秋学期)	及川 浩希	秋
		ゼミナールII(国際関係研究/春学期)	奥迫 元	春
		ゼミナールII(国際関係研究/秋学期)	奥迫 元	秋
		ゼミナールII(農村デザイン研究/春学期)	落合 基継	春
		ゼミナールII(農村デザイン研究/秋学期)	落合 基継	秋
		ゼミナールII(制度設計の経済学/春学期)	笠島 洋一	春
		ゼミナールII(制度設計の経済学/秋学期)	笠島 洋一	秋
		ゼミナールII(企業財務論研究/春学期)	葛山 康典	春
		ゼミナールII(企業財務論研究/秋学期)	葛山 康典	秋
		ゼミナールII(政策科学研究/春学期)	上沼 正明	春
		ゼミナールII(政策科学研究/秋学期)	上沼 正明	秋
		ゼミナールII(会社法の研究/春学期)	林 孝宗	春
		ゼミナールII(会社法の研究/秋学期)	川島 いづみ	秋
		ゼミナールII(財務会計研究/春学期)	菅野 浩勢	春
		ゼミナールII(財務会計研究/秋学期)	菅野 浩勢	秋
		ゼミナールII(国際経済と金融システム/春学期)	北村 能寛	春
		ゼミナールII(国際経済と金融システム/秋学期)	北村 能寛	秋
		ゼミナールII(比較経済史研究/春学期)	君塚 弘恭	春
		ゼミナールII(比較経済史研究/秋学期)	君塚 弘恭	秋
ゼミナールII(環境法政策研究/春学期)	黒川 哲志	春		
ゼミナールII(環境法政策研究/秋学期)	辻 雄一郎	秋		
ゼミナールII(近現代日本社会研究/春学期)	ゲイル カーティス アンダーソン	春		
ゼミナールII(近現代日本社会研究/秋学期)	ゲイル カーティス アンダーソン	秋		
ゼミナールII(世界経済の研究/春学期)	弦間 正彦	春		
ゼミナールII(世界経済の研究/秋学期)	弦間 正彦	秋		
ゼミナールII(人口と家族の比較研究/春学期)	小島 宏	春		
ゼミナールII(人口と家族の比較研究/秋学期)	小島 宏	秋		
ゼミナールII(公共文化研究/春学期)	小長谷 英代	春		
ゼミナールII(公共文化研究/秋学期)	小長谷 英代	秋		
ゼミナールII(現代社会における基本的な人権と民主主義/春学期)	阪口 正二郎	春		
ゼミナールII(現代社会における基本的な人権と民主主義/秋学期)	阪口 正二郎	秋		
ゼミナールII(メディアと言語の研究/春学期)	笹原 宏之	春		
ゼミナールII(メディアと言語の研究/秋学期)	笹原 宏之	秋		
ゼミナールII(空間映像研究/春学期)	佐藤 洋一	春		
ゼミナールII(空間映像研究/秋学期)	佐藤 洋一	秋		
ゼミナールII(労働研究/春学期)	篠田 徹	春		
ゼミナールII(労働研究/秋学期)	篠田 徹	秋		
ゼミナールII(経営科学/春学期)	須子 統太	春		
ゼミナールII(経営科学/秋学期)	須子 統太	秋		

ゼミナール

配当 年次	単位	科目名	教員氏名	学期
3年~	2	ゼミナールII(雇用社会の法/春学期)	鈴木 俊晴	春
		ゼミナールII(雇用社会の法/秋学期)	鈴木 俊晴	秋
		ゼミナールII(ヨーロッパ市民社会研究/春学期)	鈴木 規子	春
		ゼミナールII(ヨーロッパ市民社会研究/秋学期)	鈴木 規子	秋
		ゼミナールII(現代社会学研究/春学期)	周藤 真也	春
		ゼミナールII(現代社会学研究/秋学期)	周藤 真也	秋
		ゼミナールII(都市再生アクションリサーチ/春学期)	早田 宰	春
		ゼミナールII(都市再生アクションリサーチ/秋学期)	早田 宰	秋
		ゼミナールII(哲学・倫理学/春学期)	千葉 清史	春
		ゼミナールII(哲学・倫理学/秋学期)	千葉 清史	秋
		ゼミナールII(組織・人材マネジメント/春学期)	鄭 有希	春
		ゼミナールII(組織・人材マネジメント/秋学期)	鄭 有希	秋
		ゼミナールII(福祉社会研究/春学期)	寺尾 範野	春
		ゼミナールII(福祉社会研究/秋学期)	寺尾 範野	秋
		ゼミナールII(スペイン語圏の社会と文化/春学期)	寺尾 隆吉	春
		ゼミナールII(スペイン語圏の社会と文化/秋学期)	寺尾 隆吉	秋
		ゼミナールII(ゲーム理論とその応用/春学期)	戸田 学	春
		ゼミナールII(ゲーム理論とその応用/秋学期)	戸田 学	秋
		ゼミナールII(人間の安全保障/春学期)	利根川 佳子	春
		ゼミナールII(人間の安全保障/秋学期)	利根川 佳子	秋
		ゼミナールII(情報産業の経済分析/春学期)	土門 晃二	春
		ゼミナールII(情報産業の経済分析/秋学期)	土門 晃二	秋
		ゼミナールII(日本文化研究/春学期)	内藤 明	春
		ゼミナールII(日本文化研究/秋学期)	内藤 明	秋
		ゼミナールII(情報科学/春学期)	中島 健一	春
		ゼミナールII(情報科学/秋学期)	中島 健一	秋
		ゼミナールII(人類進化モデル/春学期)	中橋 涉	春
		ゼミナールII(人類進化モデル/秋学期)	中橋 涉	秋
		ゼミナールII(刑法研究/春学期)	仲道 祐樹	春
		ゼミナールII(刑法研究/秋学期)	仲道 祐樹	秋
		ゼミナールII(マーケティング管理研究/春学期)	野口 智雄	春
		ゼミナールII(マーケティング管理研究/秋学期)	野口 智雄	秋
		ゼミナールII(多国籍企業の研究/春学期)	長谷川 信次	春
		ゼミナールII(多国籍企業の研究/秋学期)	長谷川 信次	秋
		ゼミナールII(異文化コミュニケーション研究/春学期)	花光 里香	春
		ゼミナールII(異文化コミュニケーション研究/秋学期)	花光 里香	秋
		ゼミナールII(開発・環境社会学研究/春学期)	浜本 篤史	春
		ゼミナールII(開発・環境社会学研究/秋学期)	浜本 篤史	秋
		ゼミナールII(国際経済法研究/春学期)	福永 有夏	春
		ゼミナールII(国際経済法研究/秋学期)	清水 章雄	秋
ゼミナールII(多言語社会の会話研究/春学期)	古川 敏明	春		
ゼミナールII(多言語社会の会話研究/秋学期)		休講		
ゼミナールII(表象文化論/春学期)	星野 太	春		
ゼミナールII(表象文化論/秋学期)	星野 太	秋		
ゼミナールII(平和学研究/春学期)	堀 芳枝	春		
ゼミナールII(平和学研究/秋学期)	堀 芳枝	秋		
ゼミナールII(社会保障と人権/春学期)	棟居 徳子	春		
ゼミナールII(社会保障と人権/秋学期)	菊池 馨実	秋		
ゼミナールII(国際協力と平和構築/春学期)	山田 満	春		
ゼミナールII(国際協力と平和構築/秋学期)	山田 満	秋		
ゼミナールII(医療と法/春学期)	横野 恵	春		
ゼミナールII(医療と法/秋学期)	横野 恵	秋		
ゼミナールII(契約法研究/春学期)	吉田 和夫	春		
ゼミナールII(契約法研究/秋学期)	吉田 和夫	秋		
ゼミナールII(社会科学の哲学/春学期)	吉田 敬	春		
ゼミナールII(社会科学の哲学/秋学期)		休講		
ゼミナールII(中国研究/春学期)	劉 傑	春		
ゼミナールII(中国研究/秋学期)	劉 傑	秋		
ゼミナールII(経済と環境の実証分析/春学期)	鷲津 明由	春		
ゼミナールII(経済と環境の実証分析/秋学期)	鷲津 明由	秋		

学科目配当表

IV. 学科目配当表

ゼミナール

配当 年次	単位	科目名	教員氏名	学期
4年~	2	ゼミナールⅢ(環境及び資源経済学研究/春学期)	赤尾 健一	春
		ゼミナールⅢ(環境及び資源経済学研究/秋学期)	赤尾 健一	秋
		ゼミナールⅢ(政治思想研究/春学期)	厚見 恵一郎	春
		ゼミナールⅢ(政治思想研究/秋学期)	厚見 恵一郎	秋
		ゼミナールⅢ(応用計量経済学研究/春学期)	荒井 洋一	春
		ゼミナールⅢ(応用計量経済学研究/秋学期)	荒井 洋一	秋
		ゼミナールⅢ(マスメディア研究/春学期)	有馬 哲夫	春
		ゼミナールⅢ(マスメディア研究/秋学期)	有馬 哲夫	秋
		ゼミナールⅢ(比較政治研究/春学期)	池谷 知明	春
		ゼミナールⅢ(比較政治研究/秋学期)	池谷 知明	秋
		ゼミナールⅢ(行政・地域自治研究/春学期)	稲生 信男	春
		ゼミナールⅢ(行政・地域自治研究/秋学期)	稲生 信男	秋
		ゼミナールⅢ(企業活動の研究/春学期)	井上 正	春
		ゼミナールⅢ(企業活動の研究/秋学期)	井上 正	秋
		ゼミナールⅢ(現代アメリカ政治過程の研究/春学期)	今村 浩	春
		ゼミナールⅢ(現代アメリカ政治過程の研究/秋学期)	今村 浩	秋
		ゼミナールⅢ(都市・コミュニティデザイン/春学期)	卯月 盛夫	春
		ゼミナールⅢ(都市・コミュニティデザイン/秋学期)	卯月 盛夫	秋
		ゼミナールⅢ(選挙・世論研究/春学期)	遠藤 昌久	春
		ゼミナールⅢ(選挙・世論研究/秋学期)	遠藤 昌久	秋
		ゼミナールⅢ(応用マクロ経済学研究/春学期)	及川 浩希	春
		ゼミナールⅢ(応用マクロ経済学研究/秋学期)	及川 浩希	秋
		ゼミナールⅢ(国際関係研究/春学期)	奥迫 元	春
		ゼミナールⅢ(国際関係研究/秋学期)	奥迫 元	秋
		ゼミナールⅢ(農村デザイン研究/春学期)	落合 基継	春
		ゼミナールⅢ(農村デザイン研究/秋学期)	落合 基継	秋
		ゼミナールⅢ(制度設計の経済学/春学期)	笠島 洋一	春
		ゼミナールⅢ(制度設計の経済学/秋学期)	笠島 洋一	秋
		ゼミナールⅢ(企業財務論研究/春学期)	葛山 康典	春
		ゼミナールⅢ(企業財務論研究/秋学期)	葛山 康典	秋
		ゼミナールⅢ(政策科学研究/春学期)	上沼 正明	春
		ゼミナールⅢ(政策科学研究/秋学期)	上沼 正明	秋
		ゼミナールⅢ(会社法の研究/春学期)	林 孝宗	春
		ゼミナールⅢ(会社法の研究/秋学期)	川島 いづみ	秋
		ゼミナールⅢ(財務会計研究/春学期)	菅野 浩勢	春
		ゼミナールⅢ(財務会計研究/秋学期)	菅野 浩勢	秋
		ゼミナールⅢ(国際経済と金融システム/春学期)	北村 能寛	春
		ゼミナールⅢ(国際経済と金融システム/秋学期)	北村 能寛	秋
		ゼミナールⅢ(比較経済史研究/春学期)	君塚 弘恭	春
		ゼミナールⅢ(比較経済史研究/秋学期)	君塚 弘恭	秋
		ゼミナールⅢ(環境法政策研究/春学期)	黒川 哲志	春
		ゼミナールⅢ(環境法政策研究/秋学期)	辻 雄一郎	秋
		ゼミナールⅢ(近現代日本社会研究/春学期)	ゲイル カーティス アンダーソン	春
		ゼミナールⅢ(近現代日本社会研究/秋学期)	ゲイル カーティス アンダーソン	秋
		ゼミナールⅢ(世界経済の研究/春学期)	弦間 正彦	春
		ゼミナールⅢ(世界経済の研究/秋学期)	弦間 正彦	秋
		ゼミナールⅢ(人口と家族の比較研究/春学期)	小島 宏	春
		ゼミナールⅢ(人口と家族の比較研究/秋学期)	小島 宏	秋
		ゼミナールⅢ(公共文化研究/春学期)	小長谷 英代	春
		ゼミナールⅢ(公共文化研究/秋学期)	小長谷 英代	秋
		ゼミナールⅢ(現代社会における基本的人権と民主主義/春学期)	阪口 正二郎	春
		ゼミナールⅢ(現代社会における基本的人権と民主主義/秋学期)	阪口 正二郎	秋
		ゼミナールⅢ(メディアと言語の研究/春学期)	笹原 宏之	春
		ゼミナールⅢ(メディアと言語の研究/秋学期)	笹原 宏之	秋
		ゼミナールⅢ(空間映像研究/春学期)	佐藤 洋一	春
		ゼミナールⅢ(空間映像研究/秋学期)	佐藤 洋一	秋
		ゼミナールⅢ(労働研究/春学期)	篠田 徹	春
		ゼミナールⅢ(労働研究/秋学期)	篠田 徹	秋
		ゼミナールⅢ(経営科学/春学期)	須子 統太	春
		ゼミナールⅢ(経営科学/秋学期)	須子 統太	秋

ゼミナール

配当 年次	単位	科目名	教員氏名	学期
4年~	2	ゼミナールⅢ(雇用法/春学期)	鈴木 俊晴	春
		ゼミナールⅢ(雇用法/秋学期)	鈴木 俊晴	秋
		ゼミナールⅢ(ヨーロッパ市民社会研究/春学期)	鈴木 規子	春
		ゼミナールⅢ(ヨーロッパ市民社会研究/秋学期)	鈴木 規子	秋
		ゼミナールⅢ(現代社会学研究/春学期)	周藤 真也	春
		ゼミナールⅢ(現代社会学研究/秋学期)	周藤 真也	秋
		ゼミナールⅢ(都市再生アクションリサーチ/春学期)	早田 宰	春
		ゼミナールⅢ(都市再生アクションリサーチ/秋学期)	早田 宰	秋
		ゼミナールⅢ(哲学・倫理学/春学期)	千葉 清史	春
		ゼミナールⅢ(哲学・倫理学/秋学期)	千葉 清史	秋
		ゼミナールⅢ(組織・人材マネジメント/春学期)	鄭 有希	春
		ゼミナールⅢ(組織・人材マネジメント/秋学期)	鄭 有希	秋
		ゼミナールⅢ(福祉社会研究/春学期)	寺尾 範野	春
		ゼミナールⅢ(福祉社会研究/秋学期)	寺尾 範野	秋
		ゼミナールⅢ(スペイン語圏の社会と文化/春学期)	寺尾 隆吉	春
		ゼミナールⅢ(スペイン語圏の社会と文化/秋学期)	寺尾 隆吉	秋
		ゼミナールⅢ(ゲーム理論とその応用/春学期)	戸田 学	春
		ゼミナールⅢ(ゲーム理論とその応用/秋学期)	戸田 学	秋
		ゼミナールⅢ(人間の安全保障/春学期)	利根川 佳子	春
		ゼミナールⅢ(人間の安全保障/秋学期)	利根川 佳子	秋
		ゼミナールⅢ(情報産業の経済分析/春学期)	土門 晃二	春
		ゼミナールⅢ(情報産業の経済分析/秋学期)	土門 晃二	秋
		ゼミナールⅢ(日本文化研究/春学期)	内藤 明	春
		ゼミナールⅢ(日本文化研究/秋学期)	内藤 明	秋
		ゼミナールⅢ(情報科学/春学期)	中島 健一	春
		ゼミナールⅢ(情報科学/秋学期)	中島 健一	秋
		ゼミナールⅢ(人類進化モデル/春学期)	中橋 涉	春
		ゼミナールⅢ(人類進化モデル/秋学期)	中橋 涉	秋
		ゼミナールⅢ(刑法研究/春学期)	仲道 祐樹	春
		ゼミナールⅢ(刑法研究/秋学期)	仲道 祐樹	秋
		ゼミナールⅢ(マーケティング管理研究/春学期)	野口 智雄	春
		ゼミナールⅢ(マーケティング管理研究/秋学期)	野口 智雄	秋
		ゼミナールⅢ(多国籍企業の研究/春学期)	長谷川 慎次	春
		ゼミナールⅢ(多国籍企業の研究/秋学期)	長谷川 慎次	秋
		ゼミナールⅢ(異文化コミュニケーション研究/春学期)	花光 里香	春
		ゼミナールⅢ(異文化コミュニケーション研究/秋学期)	花光 里香	秋
		ゼミナールⅢ(開発・環境社会学研究/春学期)	休講	
		ゼミナールⅢ(開発・環境社会学研究/秋学期)	休講	
		ゼミナールⅢ(国際経済法研究/春学期)	福永 有夏	春
		ゼミナールⅢ(国際経済法研究/秋学期)	清水 章雄	秋
		ゼミナールⅢ(多言語社会の会話研究/春学期)	古川 敏明	春
		ゼミナールⅢ(多言語社会の会話研究/秋学期)	山下 里香	秋
		ゼミナールⅢ(表象文化論/春学期)	休講	
		ゼミナールⅢ(表象文化論/秋学期)	休講	
		ゼミナールⅢ(平和学研究/春学期)	堀 芳枝	春
		ゼミナールⅢ(平和学研究/秋学期)	堀 芳枝	秋
		ゼミナールⅢ(社会保障と人権/春学期)	棟居 徳子	春
		ゼミナールⅢ(社会保障と人権/秋学期)	菊池 馨実	秋
		ゼミナールⅢ(国際協力と平和構築/春学期)	山田 満	春
		ゼミナールⅢ(国際協力と平和構築/秋学期)	山田 満	秋
		ゼミナールⅢ(医療と法/春学期)	横野 恵	春
		ゼミナールⅢ(医療と法/秋学期)	横野 恵	秋
		ゼミナールⅢ(契約法研究/春学期)	吉田 和夫	春
		ゼミナールⅢ(契約法研究/秋学期)	吉田 和夫	秋
		ゼミナールⅢ(社会科学の哲学/春学期)	吉田 敬	春
		ゼミナールⅢ(社会科学の哲学/秋学期)	休講	
		ゼミナールⅢ(中国研究/春学期)	劉 傑	春
		ゼミナールⅢ(中国研究/秋学期)	劉 傑	秋
		ゼミナールⅢ(経済と環境の実証分析/春学期)	齋津 明由	春
		ゼミナールⅢ(経済と環境の実証分析/秋学期)	齋津 明由	秋

IV 学科目配当表

IV. 学科目配当表

学科目配当表

必修英語					
配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
1年～	1	英語1-1(春学期)	A	四條 真也	春
			B	米村 泰明	春
			C	米村 泰明	春
			D	遠藤 雪枝	春
			E	堀内 香織	春
			F	野澤 佑佳子	春
			G	遠藤 雪枝	春
			H	大西 章夫	春
			I	古川 敏明	春
			J	梅宮 悠	春
			K	梅宮 悠	春
			L	大西 章夫	春
			M	大西 章夫	春
			N	矢野 磯乃	春
			O	矢野 磯乃	春
			P	矢野 磯乃	春
			Q	小林 亜紀子	春
			R	小林 亜紀子	春
		S	堀内 香織	春	
		T	梅宮 悠	春	
		U	堀内 香織	春	
		V	長田 哲男	春	
		W	有馬 哲夫	春	
		X	児島 千珠代	春	
		英語1-1(秋学期)	A	四條 真也	秋
			B	米村 泰明	秋
			C	米村 泰明	秋
			D	遠藤 雪枝	秋
			E	堀内 香織	秋
			F	野澤 佑佳子	秋
			G	遠藤 雪枝	秋
			H	大西 章夫	秋
			I	四條 真也	秋
			J	梅宮 悠	秋
			K	梅宮 悠	秋
			L	大西 章夫	秋
M	大西 章夫		秋		
N	矢野 磯乃		秋		
O	矢野 磯乃		秋		
P	矢野 磯乃		秋		
Q	小林 亜紀子		秋		
R	小林 亜紀子		秋		
S	堀内 香織	秋			
T	梅宮 悠	秋			
U	堀内 香織	秋			
V	長田 哲男	秋			
W	有馬 哲夫	秋			
X	児島 千珠代	秋			
2年～	1	英語1-1(春学期)	Y	鈴木 政浩	春
		英語1-1(秋学期)	Z	古川 敏明	春
2年～	1	英語1-2(春学期)ノスピーチ	Y	鈴木 政浩	秋
			Z	四條 真也	秋
			A	ケイ・ハスキー	春
			B	花光 里香	春
		英語1-2(秋学期)ノスピーチ	C	休講	
			D	休講	
			A	ケイ・ハスキー	秋
			B	花光 里香	秋
C	休講				
D	休講				

必修英語					
配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
2年～	1	英語2-1(春学期)	A	阿部 敬子	春
			B	伊藤 健一郎	春
			C	青田 庄真	春
			D	伊藤 健一郎	春
			E	中谷 久一	春
			F	阿部 敬子	春
			G	大月 実	春
			H	溝口 悦子	春
			I	阿部 敬子	春
			J	山下 里香	春
			K	中谷 久一	春
			L	溝口 悦子	春
			M	青田 庄真	春
			N	山下 里香	春
			O	青田 庄真	春
			P	池田 史彦	春
			Q	池田 史彦	春
			R	池田 史彦	春
		S	島森 尚子	春	
		T	前沢 明枝	春	
		U	島森 尚子	春	
		V	前沢 明枝	春	
		W	大月 実	春	
		X	鈴木 政浩	春	
		英語2-1(秋学期)	A	阿部 敬子	秋
			B	伊藤 健一郎	秋
			C	青田 庄真	秋
			D	伊藤 健一郎	秋
			E	中谷 久一	秋
			F	阿部 敬子	秋
			G	大月 実	秋
			H	溝口 悦子	秋
			I	阿部 敬子	秋
			J	山下 里香	秋
			K	中谷 久一	秋
			L	溝口 悦子	秋
M	青田 庄真		秋		
N	山下 里香		秋		
O	青田 庄真		秋		
P	池田 史彦		秋		
Q	池田 史彦		秋		
R	池田 史彦		秋		
S	島森 尚子	秋			
T	前沢 明枝	秋			
U	島森 尚子	秋			
V	前沢 明枝	秋			
W	大月 実	秋			
X	鈴木 政浩	秋			
3年～	1	英語2-1(春学期)	Y	小長谷 英代	春
		英語2-1(秋学期)	Z	野澤 佑佳子	春
英語2-1(秋学期)	Y	小長谷 英代	秋		
	Z	野澤 佑佳子	秋		

必修英語

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
2年～	1	英語2-2 (コミュニケーション) (春学期)	《基礎》	A 市賀 弘之	春
			リスニング	B 光野 昭雄	春
				C 光野 昭雄	春
				D 光野 昭雄	春
				E 市賀 弘之	春
				F 市賀 弘之	春
				G 千葉 敦	春
			H 野澤 佑佳子	春	
			I 野澤 佑佳子	春	
			J 千葉 敦	春	
			会話	K アンシヨ- クリストファー ジャービス	春
				L アンシヨ- クリストファー ジャービス	春
		M カレンダー ボール カイル		春	
		N 休講			
		O 休講			
		P カレンダー ボール カイル		春	
		スピーチ	R 長谷川 和美	春	
		S 長谷川 和美	春		
		T 須永 美奈子	春		
		ライティング	U 高島 美穂	春	
		V 島森 尚子	春		
		W 長田 宣子	春		
		X 野澤 佑佳子	春		
		Y 馬場 広信	春		
	Z 馬場 広信	春			
	英語2-2 (コミュニケーション) (秋学期)	1	《基礎》	A 市賀 弘之	秋
				B 光野 昭雄	秋
				C 光野 昭雄	秋
				D 光野 昭雄	秋
				E 市賀 弘之	秋
				F 市賀 弘之	秋
				G 千葉 敦	秋
				H 野澤 佑佳子	秋
				I 野澤 佑佳子	秋
				J 千葉 敦	秋
				会話	K アンシヨ- クリストファー ジャービス
L アンシヨ- クリストファー ジャービス					秋
M カレンダー ボール カイル	秋				
N 休講					
O 休講					
P カレンダー ボール カイル	秋				
スピーチ	Q カレンダー ボール カイル	秋			
R 長谷川 和美	秋				
S 長谷川 和美	秋				
T 須永 美奈子	秋				
ライティング	U 高島 美穂	秋			
V 島森 尚子	秋				
W 長田 宣子	秋				
X 野澤 佑佳子	秋				
Y 馬場 広信	秋				
Z 馬場 広信	秋				

教養外国語

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
1年～	1	ドイツ語1基礎	A 千葉 清史	春	
			B 千葉 清史	春	
			C 関口 浩	春	
			D 関口 浩	春	
			E 辻 麻衣子	春	
			A 小山田 豊	春	
		ドイツ語2基礎	B 小山田 豊	春	
			C 新田 章	春	
			D 新田 章	春	
			E 吉田 敬介	春	
			A 千葉 清史	秋	
			B 千葉 清史	秋	
		ドイツ語1初級	C 関口 浩	秋	
			D 関口 浩	秋	
			E 辻 麻衣子	秋	
			A 小山田 豊	秋	
			B 小山田 豊	秋	
			C 新田 章	秋	
		ドイツ語2初級	D 新田 章	秋	
			E 吉田 敬介	秋	
			A 大前 元伸	春	
			B 増田 一夫	春	
			C 柴田 惠美	春	
			D 松田 智裕	春	
		フランス語1基礎	E 赤羽 悠	春	
			A 柴田 惠美	春	
			B 増田 一夫	春	
			C 松田 智裕	春	
			D 赤羽 悠	春	
			E 大前 元伸	春	
		フランス語2基礎	A 大前 元伸	秋	
			B 増田 一夫	秋	
			C 柴田 惠美	秋	
			D 松田 智裕	秋	
			E 赤羽 悠	秋	
			A 柴田 惠美	秋	
		フランス語1初級	B 増田 一夫	秋	
			C 柴田 惠美	秋	
			D 松田 智裕	秋	
			E 赤羽 悠	秋	
			A 柴田 惠美	秋	
			B 増田 一夫	秋	
		フランス語2初級	C 松田 智裕	秋	
			D 赤羽 悠	秋	
			E 大前 元伸	秋	
			A 花井 みわ	春	
			B 劉 傑	春	
			C 劉 岸麗	春	
		中国語1基礎	D 劉 岸麗	春	
			E 花井 みわ	春	
			F 劉 岸偉	春	
			G 王 紅艶	春	
			H 王 紅艶	春	
			I 花井 みわ	春	
			J 休講		
			K 休講		
			A 黄 斌	春	
			B 簡井 紀美	春	
			C 福葉 明子	春	
			D 福葉 明子	春	
		E 簡井 紀美	春		
		F 平井 新	春		
		G 黄 斌	春		
		H 山影 統	春		
		I 山影 統	春		
		J 休講			
		K 休講			
		中国語2基礎	A 花井 みわ	秋	
			B 劉 傑	秋	
			C 劉 岸麗	秋	
			D 劉 岸麗	秋	
			E 花井 みわ	秋	
			F 劉 岸偉	秋	
			G 王 紅艶	秋	
			H 王 紅艶	秋	
			I 花井 みわ	秋	
			J 休講		
			K 休講		
			中国語1初級	A 黄 斌	秋
		B 簡井 紀美		秋	
		C 福葉 明子		秋	
		D 福葉 明子		秋	
		E 簡井 紀美		秋	
		F 平井 新		秋	
		G 黄 斌		秋	
		H 山影 統		秋	
		I 山影 統		秋	
		J 休講			
		K 休講			
		中国語2初級		A 黄 斌	秋
			B 簡井 紀美	秋	
			C 福葉 明子	秋	
			D 福葉 明子	秋	
			E 簡井 紀美	秋	
			F 平井 新	秋	
			G 黄 斌	秋	
			H 山影 統	秋	
			I 山影 統	秋	
			J 休講		
			K 休講		

IV. 学科目配当表

学科目配当表

教養外国語

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
1年～	1	スペイン語1基礎	A	杉守 慶太	春
			B	金澤 直也	春
			C	井垣 昌	春
			D	山本 昭代	春
			E	倉田 量介	春
		スペイン語2基礎	A	杉守 慶太	春
			B	金澤 直也	春
			C	井垣 昌	春
			D	山本 昭代	春
			E	陸月 規子	春
		スペイン語1初級	A	杉守 慶太	秋
			B	金澤 直也	秋
			C	井垣 昌	秋
			D	山本 昭代	秋
			E	倉田 量介	秋
		スペイン語2初級	A	杉守 慶太	秋
			B	金澤 直也	秋
			C	井垣 昌	秋
			D	山本 昭代	秋
			E	陸月 規子	秋
2年～	1	中国語1基礎	Y	鄭 成	春
			Z	鄭 成	春
		中国語2基礎	Y	鄭 成	春
			Z	鄭 成	春
		中国語1初級	Y	鄭 成	秋
			Z	鄭 成	秋
		中国語2初級	Y	鄭 成	秋
			Z	鄭 成	秋
		スペイン語1基礎	Y	倉田 量介	春
			Z	矢田 陽子	春
		スペイン語2基礎	Y	陸月 規子	春
			Z	矢田 陽子	春
		スペイン語1初級	Y	倉田 量介	秋
			Z	矢田 陽子	秋
		スペイン語2初級	Y	陸月 規子	秋
	Z	矢田 陽子	秋		
2年～	1	ドイツ語1《準中級》	A	町田 輝雄	春
			B	辻 麻衣子	春
		ドイツ語1《中級》	A	町田 輝雄	秋
			B	辻 麻衣子	秋
		ドイツ語2《準中級》	A	辻 麻衣子	春
			B	吉田 敬介	春
		ドイツ語2《中級》	A	辻 麻衣子	秋
			B	吉田 敬介	秋
		フランス語1《準中級》	A	マルティネル ルイ ソロ	春
			B	マルティネル ルイ ソロ	春
		フランス語1《中級》	A	マルティネル ルイ ソロ	秋
			B	マルティネル ルイ ソロ	秋
		フランス語2《準中級》	A	綾部 素幸	春
			B	北村 喜久子	春
		フランス語2《中級》	A	綾部 素幸	秋
			B	北村 喜久子	秋
		中国語1《準中級》	A	黄 斌	春
			B	江 秀華	春
		中国語1《中級》	A	黄 斌	秋
			B	江 秀華	秋
		中国語2《準中級》	A	劉 岸麗	春
			B	陳 焯	春
		中国語2《中級》	A	劉 岸麗	秋
			B	陳 焯	秋
		スペイン語1《準中級》	A	寺尾 隆吉	春
	B	寺尾 隆吉	春		
スペイン語1《中級》	A	寺尾 隆吉	秋		
	B	寺尾 隆吉	秋		
スペイン語2《準中級》	A	N・ロベス	春		
	B	N・ロベス	春		
スペイン語2《中級》	A	N・ロベス	秋		
	B	N・ロベス	秋		

自由科目

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期
3年～	2	職業指導 1	—	小島 貴子	春
		職業指導 2	—	小島 貴子	秋

学科目配当表

IV. 学科目配当表

英語学位プログラム提供科目 - コア科目

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	オープン 科目
1年~	2	Introduction to Economics	-	北村 能寛	春ク	

英語学位プログラム提供科目 - 基礎専門科目

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	オープン 科目
1年~	2	Civil Society and the Role of Non-Profit Organizations	-	中林 美恵子	春	
		Comparative Economic Systems	-	家田 修	秋	
		Contemporary Japanese Foreign Policy	-	本多 美樹	秋	○
		Contemporary Japanese Society	-	寺尾 範野	春	
		Contemporary Social Affairs 1	-	ヤン マニエール ミナミ	春	
		Contemporary Social Affairs 2	-	ヤン マニエール ミナミ	秋	
		East European Study in Practice	-	家田 修	春	
		Economic History	-	家田 修	春	
		Environment and Development	-	家田 修	秋	
		Environmental Law in Japan	-	辻 雄一郎	秋	
		Evolutionary Anthropology	-	中橋 涉	秋	
		Foreign Affairs	-	花田 吉隆	春	
		Game Theory	-	笠島 洋一	春	
		Gender and Development	-	島崎 裕子	春	
		Health and Human Rights	-	棟居 徳子	春	
		Intercultural Communication	-	花光 里香	秋	
		International Cooperation	-	島崎 裕子	春	
		International Development Policy	-	チェスノコバ タチヤナ	秋	
		International Human Resource Management	-	鄭 有希	春	
		Introduction to Mathematical Analysis	01	クヴァソフ デミトリ	秋	
		Introduction to Public Economics	-	家田 修	春	
		Introduction to Rural Development	-	落合 基継	秋	
		Introduction to Social Business Cooperation	-	下田 恭美	春	
		Introduction to Social Research	A	コーワタナサクン ウツハラト	春	
		Introduction to Social Research	B	コーワタナサクン ウツハラト	秋	
		Japan and World War II: Historical Controversies	-	ホートン ウィリアム フラッドリー	春	
		Japan in the Age of Globalization	-	中林 美恵子	春	
		Japan in the World 1 [Japanese Interactions with Europe and America]	-	ゲイル カーティス アンダーソン	春	
		Japan in the World 2 [Japanese Interactions with Asia and the Non-West]	-	ゲイル カーティス アンダーソン	秋	
		Japanese Economic History (Introductory)	01	アイビンス スティーブン	集中講義	
		Japanese Studies	-	ゲイル カーティス アンダーソン	春	
		Marketing in Practice	-	井原 久光	春	
		Media in Japan: History of Japanese Media	-	川崎 剛	春	
		On Identity: A Socio-political Analysis	-	山本 まゆみ	春	
		Politics in Modern Japan	-	中林 美恵子	秋	○
		Postwar Japan-US Relations	-	中林 美恵子	春	
		Readings in Culture and History (Spring)	-	重松 優	春	
		Readings in Culture and History (Fall)	-	小長谷 英代	秋	
		Readings in Japan in the World (Spring)	-	山本 まゆみ	春	
		Readings in Japan in the World (Fall)	-	山本 まゆみ	秋	
		Readings in Japanese Technology and Environment (Spring)	-	重松 優	春	
		Readings in Japanese Technology and Environment (Fall)	-	重松 優	秋	
		Readings in Society and Politics (Spring)	-	中林 美恵子	春	
		Readings in Society and Politics (Fall)	-	中林 美恵子	秋	
		Regression Analysis for Social Sciences I	-	荒井 洋一	春	
Regression Analysis for Social Sciences II	-	荒井 洋一	春			
Science and Technology in Japan (Spring)	-	詫間 直樹	春			
Science and Technology in Japan (Fall)	-	詫間 直樹	秋			
Social Business Cooperation Projects	-	下田 恭美	春			
Social Business Practicum	-	下田 恭美	秋			
Social Design	-	ドリアンダ リーラ プロビ	秋			
Social Development in East and Southeast Asia 1	-	コーワタナサクン ウツハラト	春			
Southeast Asian Studies	-	堀 芳枝	春			
Sustainability in Social Systems	-	家田 修	秋			
Sustainable Development Goals (SDGs): UN, Government and Civil Society	-	島崎 裕子	秋			
The Japanese of the 20th Century: Work, Culture, and Society	-	篠田 徹	春			
The Legislative Process	-	中林 美恵子	秋			
Theories of Social Business	-	下田 恭美	秋			
Theory of Community Development	-	ドリアンダ リーラ プロビ	春			
Trans-Pacific Perspectives on Race, Ethnicity, and Migration	-	篠田 徹	春			
Trans-Pacific Perspectives on Work, Culture, and Society	-	篠田 徹	秋			

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	オープン 科目
1年~	2	Understanding the Japanese Economy: Microeconomic Perspectives	-	弦間 正彦	春	
		Urban Environment for Children	-	ドリアンダ リーラ プロビ	秋	
		Urban Regeneration	-	ドリアンダ リーラ プロビ	春	
		Urban Studies	-	ドリアンダ リーラ プロビ	春	
		War and Japan	-	奥迫 元	春	
		Women in Modern Japan: Contemporary Japanese Women	-	ホートン ウィリアム フラッドリー	春	
		Women in Modern Japan: Outside Encounters and Early Changes	-	ホートン ウィリアム フラッドリー	秋	○
		Case Studies in Social Business	-		休講	
		Case Studies in Social Business Cooperation	-		休講	
		Culture and History in Japan	-		休講	
		Development and Society	-		隔年休講	
		Development Assistance: Japan ODA and NGOs	-		休講	
		Economic, Social and Environmental Sustainability	-		休講	
		Economy and Agriculture	-		休講	
		Empirical Analysis of Education, Health, and Labor Market	-		休講	
		History of Modern Art	-		休講	
		Industrialization in Historical Perspective	-		休講	
		Japan and Asia Relations: Basic studies	-		休講	
		Japan and Peacebuilding: UN Policies	-		隔年休講	
		2年~	2	Japan in East Asia: Contemporary Social Issues	-	
Japanese Patterns of Communication	-				隔年休講	
Japanese Trade and East Asian Community	-				休講	
Social Business	-				休講	
Social Business Cooperation Practicum	-				休講	
Social Business Projects	-				休講	
Theories of Social Business Cooperation	-				休講	
Understanding the Japanese Economy: Macroeconomic Perspectives	-				隔年休講	
Urban Governance	-				休講	
Urban Programs	-				休講	
2年~	2	Macroeconomics A	02	片山 宗親	春	
		Microeconomics A	01	デジャネット バトリック	春	
		Social Development in East and Southeast Asia 2	-	コーワタナサクン ウツハラト	秋	

英語学位プログラム提供科目 - 先進専門科目

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	オープン 科目
1年~	2	Child-friendly Cities	-	ドリアンダ リーラ プロビ	夏季集中	
		Food Security and Agricultural Policy	-	スナム ラメシュ クマラ	秋	
		Global Food Security: Demand and Supply Challenges	-	弦間 正彦	秋	
		Global Poverty	-	島崎 裕子	秋	
		Globalization	-	チェスノコバ タチヤナ	秋	
		Globalization and Human Rights	-	島崎 裕子	春	
		History of Japanese Legal System	A	三田 奈穂	春	
		History of Japanese Legal System	B	三田 奈穂	秋	
		International Development and Cooperation: Field Work Practice	-	島崎 裕子	春季集中	
		International Finance	-	北村 能寛	夏ク	
		Japan and Peacebuilding: Asian Policies	-	山田 満	春	○
		Law and Culture: Understanding Modern and Contemporary Japan	-	金 ヨンロン	春	
		Political Ecology	-	スナム ラメシュ クマラ	秋	
		Sociolinguistics and Multilingualism	-	古川 敏明	春	
		Urban History of Tokyo	-	佐藤 洋一	春	
		Urban Living	-	ドリアンダ リーラ プロビ	春	
		Community Organization	-		休講	
		Global Food Security: Climate Change, Food, and Agriculture	-		隔年休講	
		Migration and Social change in ASEAN and East Asia	-		休講	
		2年~	2	Bioethics, Family and the Law	-	横野 恵
Cross-Cultural Organizational Behavior	-			鄭 有希	秋	
Education and Development	-			利根川 佳子	秋	○
International Business	-			長谷川 信次	秋	
International Development	-			チェスノコバ タチヤナ	春	
3年~	2	Political Behavior	01	尾野 嘉邦	秋	
		Professionals Innovating Work 1: Exploring New Work and Life Styles in the Changing World	-	小山 淑子	秋	○
		Professionals Innovating Work 2: Getting to Know the World of Work	-	小山 淑子	春	○
		Contemporary Political Analysis (Japan)	-		休講	

IV 学科目配当表

付録

オフィスアワー

オフィスアワー制度は、専任教員が研究室等で個別に①授業や研究上の質問・相談に応じる②学生の生活上の相談窓口となる学生サポート制度です。以下の一覧で、事前連絡の必要有無、オフィスアワーの曜日・時間・手続きを確認して、制度を活用してください。

どの教員に相談してよいか悩む場合には、学部教務の先生方が窓口となります。事務所にご相談ください。

教員氏名	オフィスアワー		研究室	eメール	電話	特記事項
	曜日	時間				
赤尾 健一			918	akao@waseda.jp	03-5286-1908	要事前連絡：事前連絡のEメールには面会目的、希望曜日・時間帯（複数が望ましい）を記入してください。
厚見 恵一郎			1056	atsumi@waseda.jp		要事前連絡：e-mailはwaseda.jpのアドレスから送信し、学籍番号と氏名を記載してください。
荒井 洋一	金	14:30~15:30	1004			教室で授業前後の時間を利用して直接申し込む。
有馬 哲夫	水	12:10~13:00				要事前連絡
家田 修	月	13:00~14:30	1034	ieda@aoni.waseda.jp		要事前連絡
池谷 知明	木	12:30~13:30	916	ikeya@waseda.jp		要事前連絡
稲生 信男	金	10:30~12:00	1035	nobuo.ino@waseda.jp		要事前連絡
井上 正	木	16:00~17:00	1024	inoue@waseda.jp		要事前連絡
今村 浩			921	imamura@waseda.jp	03-5286-1416	要事前連絡
卯月 盛夫	火	13:00~14:30	913	uzuki@waseda.jp	03-3203-9035	Eメールによる事前連絡
遠藤 晶久	水	13:30~14:30	1032	endo@waseda.jp		この時間に都合のつかない場合は他の時間に対応しますので、事前にアポをとってください。
及川 浩希				k.oikawa@waseda.jp		要事前連絡
奥迫 元	水	11:00~12:00	1043	waseda-hajime@waseda.jp	03-3203-6245	要事前連絡
落合 基継	水	13:00~14:30	951	ochiai@waseda.jp		Eメールによる事前連絡
笠島 洋一	金	15:00~16:00				教室で授業前後の時間を利用して直接申し込む。
葛山 康典	木	13:00~14:00	1007	yasunori@waseda.jp	03-5286-3828	要事前連絡
上沼 正明	火	12:10~13:00		kaminuma@waseda.jp		要事前連絡：件名に用件と学年氏名を書いてwasedaメールで。
川島 いづみ	月	16:30~17:30	1037		03-3203-6243	教室で授業前後の時間を利用して直接申し込む。予約がない場合には、不在のこともあります。 ※2021年度春学期特別研究期間
菅野 浩勢	火	16:30~18:00	1029	hiroyuki.kanno@waseda.jp	03-5286-8617	要事前連絡
北村 能寛	金	12:30~14:00	909	kitamura@waseda.jp		要事前連絡（教室で授業前後の時間を利用して直接申し込む）
君塚 弘恭	木	12:30~13:30	1059	kimizuka@waseda.jp		要事前連絡
黒川 哲志	水	11:00~12:00	1038	kurokawa@waseda.jp		要事前連絡 ※2021年度秋学期特別研究期間
ゲイル・カーティス・アンダーソン	火	12:00~13:00	1026	cagayle@waseda.jp	03-5286-1466	要事前連絡
	金	12:00~13:00				
弦間 正彦	月	12:15~13:00		gemmawaseda@gmail.com		要事前連絡：指定時間帯以外でも相談可。
コワタナサクン・ウツバラット	水	15:00~19:00				教室で授業前後の時間を利用して直接申し込む。
小島 宏	春学期：水 18:00~19:00		1033	kojima@waseda.jp		要事前連絡
	秋学期：水 17:00~18:00					
小長谷 英代	水	18:00~19:00	1052	hkonagaya@waseda.jp		要事前連絡
阪口 正二郎	火	11:00~12:00	1022	sakaguchi@waseda.jp		教員は病気療養中のためオンラインまたはメールでオフィス・アワーを実施する。メールで事前予約すること。
笹原 宏之	木	13:00~14:00		sasa@waseda.jp		要事前連絡
佐藤 洋一				41satoyo@waseda.jp		Eメールにて日時を事前にご相談ください。
篠田 徹			1019	torus@waseda.jp		要事前連絡
島崎 裕子	木	15:00~16:00	1047	yshimazaki@aoni.waseda.jp		要事前連絡
下田 恭美	水	16:30~17:30	915	shimoday@aoni.waseda.jp		Eメールまたは教室で授業前後の時間を利用して直接申し込む。
須子 統太	火	10:40~12:10	1028	suko@waseda.jp		要事前連絡
鈴木 俊晴	金	12:10~13:00	1039			教室で授業前後の時間を利用して直接申し込む。
鈴木 規子	火	10:40~12:10	949	n-suzuki@waseda.jp		事前にメールで連絡ください。他の曜日でも調整できます。

教員氏名	オフィスアワー		研究室	eメール	電話	特記事項
	曜日	時間				
周藤 真也	金	14:45~16:15	1031	ssuto@waseda.jp		要事前連絡
早田 幸			953	sohda@waseda.jp	03-5286-1907	教室で授業後の時間を利用して直接申し込む。
タンシンマンコン・パッタジット	水	13:00~14:00	1051	patt_tangsin@aoni.waseda.jp		要事前連絡
千葉 清史	木	11:00~13:00	1016	kyschiba@waseda.jp		要事前連絡
鄭 有希	木	12:10~12:50		hopejung@waseda.jp		Eメールによる事前連絡
塚林 美弥子	月	13:00~14:30		m.tsukabayashi@aoni.waseda.jp		Eメールまたは教室で授業前後の時間を利用して直接申し込む。
鄭 成	水・金	14:45~16:15	1036	newmannzheng@aoni.waseda.jp		Eメールまたは教室で授業前後の時間を利用して直接申し込む。
寺尾 範野	月	13:00~14:00	1006	hterao@waseda.jp		Eメールによる事前連絡
寺尾 隆吉	金	13:30~14:30	1001	teraoryukichi@waseda.jp	03-5286-1413	Eメールまたは教室で授業前後の時間を利用して直接申し込む。
戸田 学	月	13:00~14:00	1058	mtoda@waseda.jp		要事前連絡
利根川 佳子	火	13:00~14:30	1055	ytonegawa@waseda.jp		Eメールによる事前連絡
土門 晃二	月	13:30~14:30	1049	domon-5stars@waseda.jp	03-5286-1451	要事前連絡
ドリアンダ リーラ プロピ	金	13:00~14:30	1047			教室で授業前後の時間を利用して直接申し込む。
内藤 明	水	12:15~13:00	1027	naito@waseda.jp	03-5286-1415	要事前連絡
中島 健一	木	13:00~14:00	1003			教室で授業後の時間を利用して直接申し込む。
中橋 渉	木	13:00~14:00	1012	w.nakahashi@waseda.jp		Eメールによる事前連絡
中林 美恵子	月・木	18:00~18:30	1042	nakabayashi@aoni.waseda.jp		要事前連絡の上、予約が必要
仲道 祐樹			1013	y-nakamichi@waseda.jp		メールにて訪問日時を事前に相談してください。
野口 智雄					03-5286-1420	教室で授業前後の時間を利用して直接申し込む。
野澤 佑佳子	水	16:30~17:30				教室で授業前後の時間を利用して直接申し込む。
長谷川 信次	木	13:00~14:00	1009	hasegawa@waseda.jp	03-5286-1455	Eメールによる事前連絡
花光 里香	水	9:30~10:30		rika@waseda.jp		要事前連絡
浜本 篤史	水	12:15~12:55		hamamoto@waseda.jp		Eメールによる事前連絡
平見 健太	火					教室で授業前後の時間を利用して直接申し込む。
福永 有夏				yuka-fukunaga@waseda.jp		※2021年度秋学期特別研究期間
古川 敏明	水	16:30~17:30	1014	tfuruk@waseda.jp		Eメールによる事前連絡 ※2021年度秋学期特別研究期間
堀 芳枝	月	12:30~14:00		y-hori@waseda.jp		Eメールによる事前連絡
三田 奈穂	月	15:00~16:00	915	nmita@aoni.waseda.jp	03-3203-9043	Eメールによる事前連絡もしくは教室で授業前後の時間を利用して直接申し込む。
棟居 徳子	木	13:00~14:00	1002	munesue@waseda.jp		Eメールによる事前連絡 ※2021年度秋学期特別研究期間
山田 満	水	16:30~18:00	919	yamadaman@waseda.jp		要事前連絡：メールで連絡すると確実です
横野 恵	金	12:30~13:30		yokono@waseda.jp		Eメールまたは教室で授業前後の時間を利用して直接申し込む。
吉田 和夫	水	11:30~13:00	1015	kyoshida@waseda.jp		Eメールによる事前連絡
吉田 敬	水	14:45~16:15	910	kei.yoshida@waseda.jp		要事前連絡 ※2021年度秋学期特別研究期間
劉 傑	金	13:30~14:30	922	liujie@waseda.jp		Eメールによる事前連絡
鷺津 明由			1011	washizu@waseda.jp		面会日を調整しますので、emailで連絡してください。

お問い合わせ先

① 科目履修に関するご相談

1 4号館 3階 社会科学部事務所

Tel: 03-3204-8952 Email: socsaca@list.waseda.jp

お問い合わせは極力E-mailにてお願いします。但し、緊急性が高い場合はお電話にてお問い合わせください。

【開室時間】 授業期間中) 月-金：9時～17時

授業期間外) 月-金：9時～17時

※日曜・祝日は閉室です。

※最新の開室時間は社会科学部HPをご確認ください。

② Web 科目登録に関するご質問

IT サービス ヘルプデスク (24時間受付)

【問い合わせ方法】

MyWaseda (my.waseda.jp) 「成績照会・科目登録専用」

→「お問い合わせフォーム」

※質問は24時間受け付けていますが、回答が翌日以降になる場合があります。

※各登録期間終了間際の間合せには回答できない場合があります。

時間に余裕をもって科目登録を行ってください。

③ MyWaseda の ID/PASS に関するご質問

7号館 1階 早稲田ポータルオフィス

URL: <https://www.waseda.jp/wpo/>



SSS

社会科学部

School of
Social Sciences